
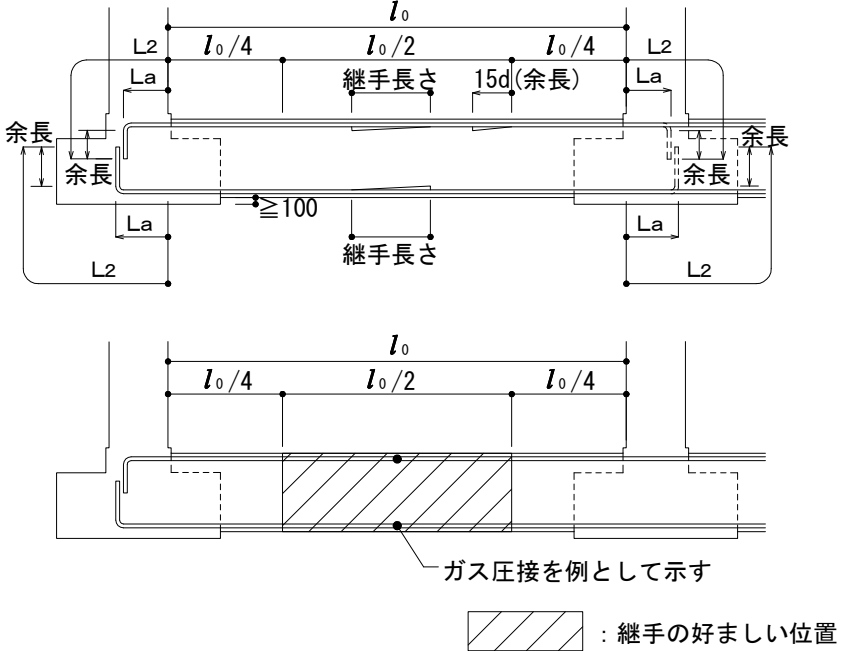
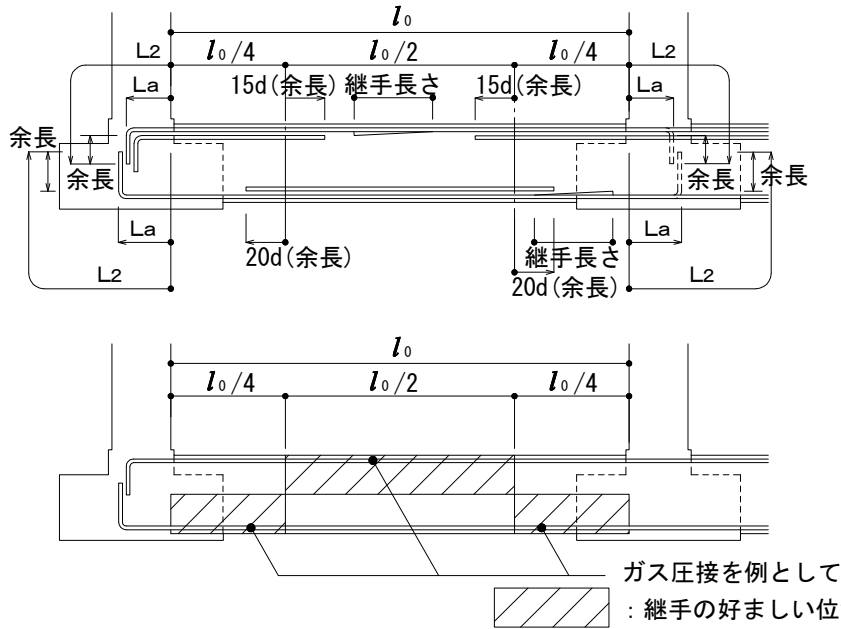
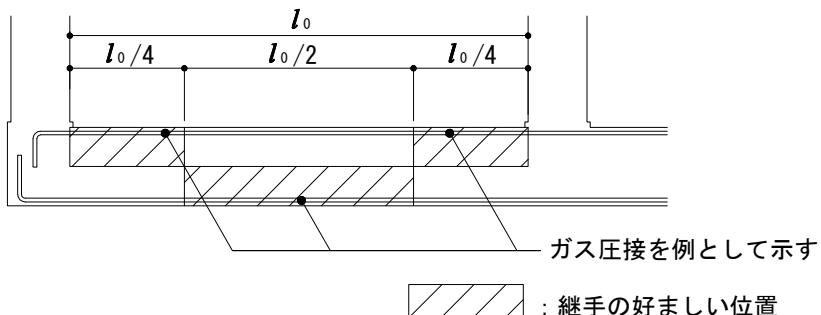
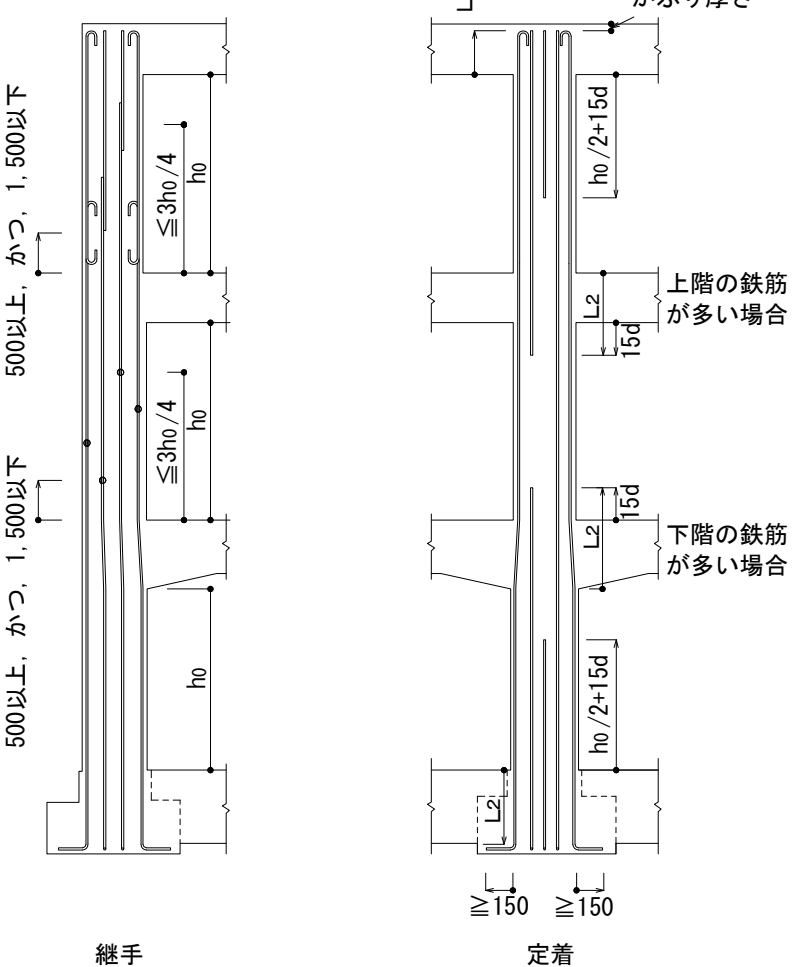
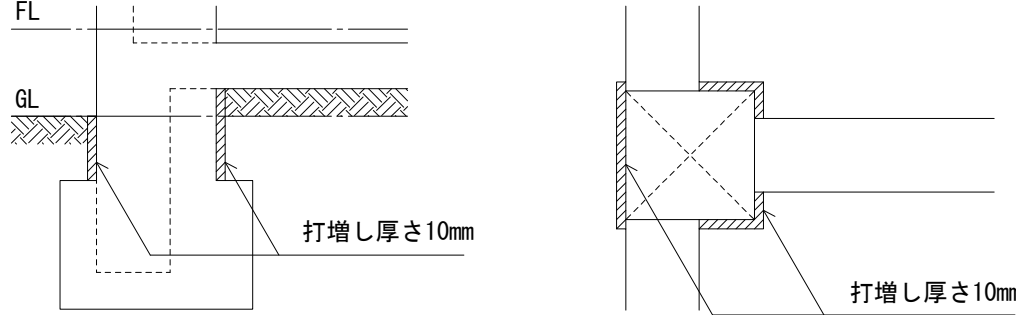
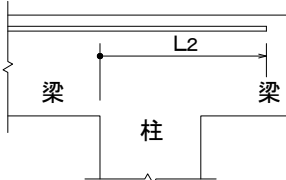
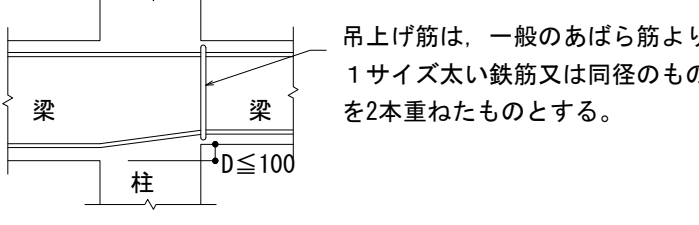
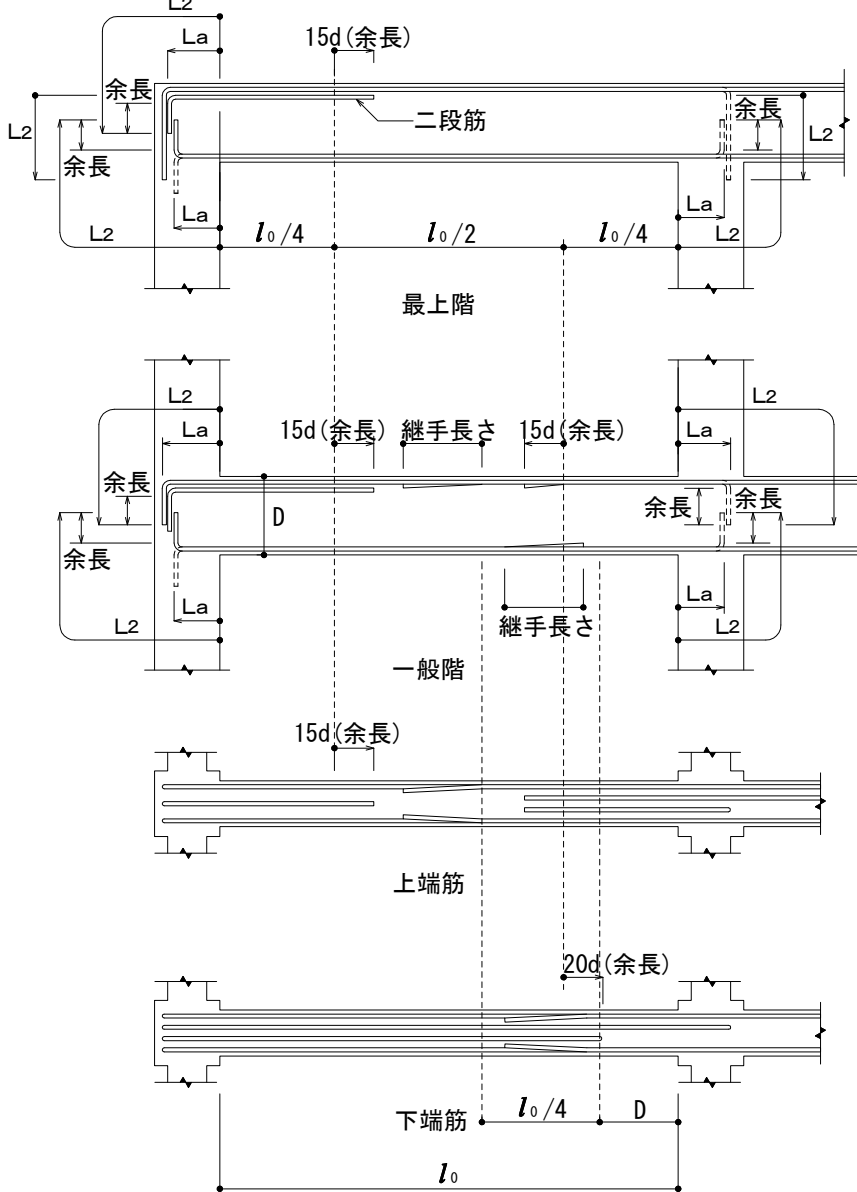
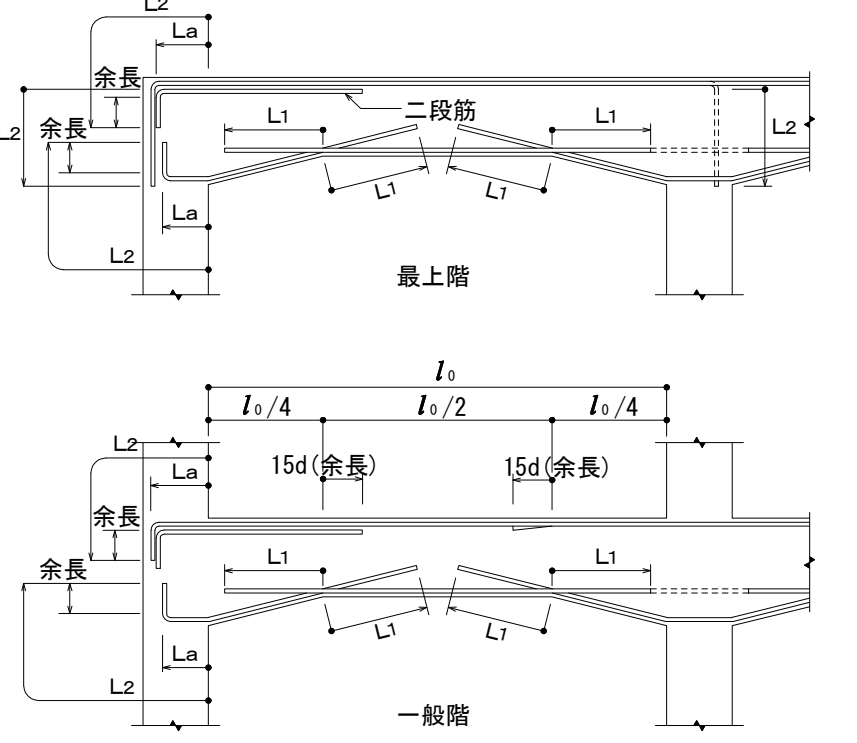
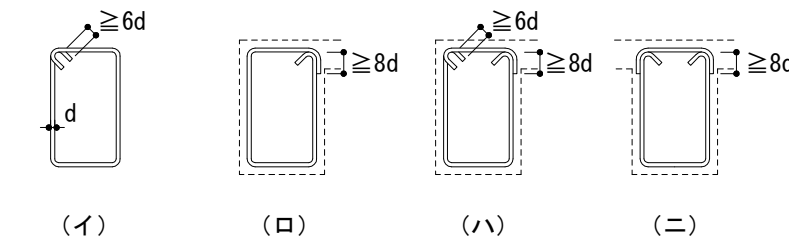
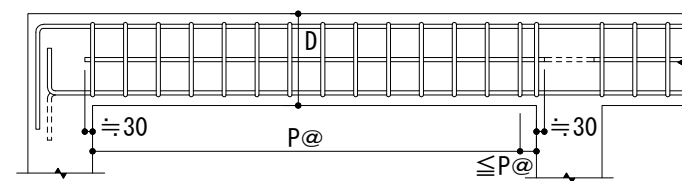
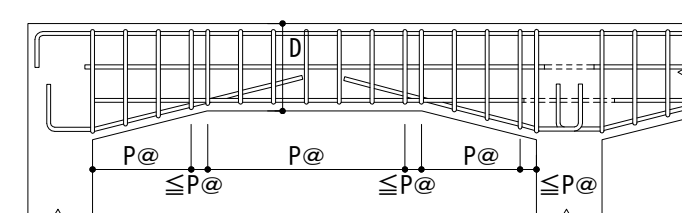
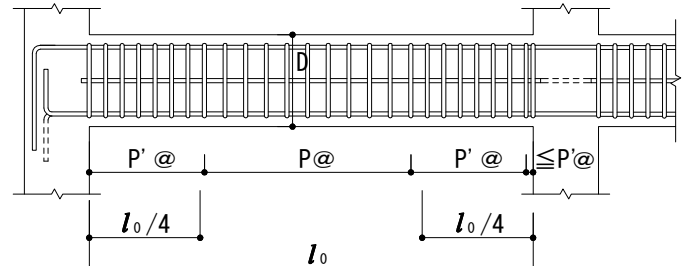
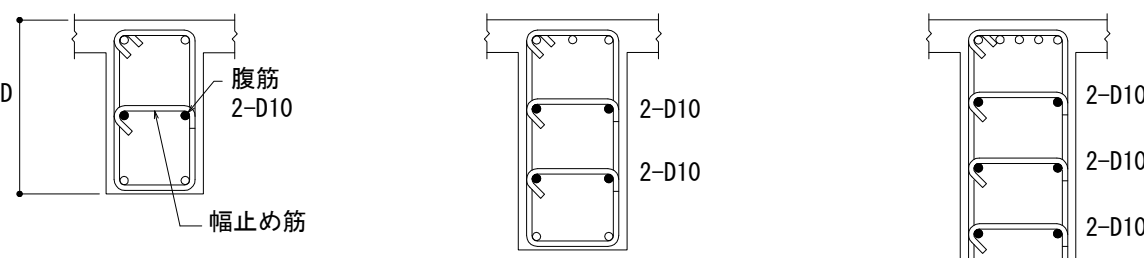
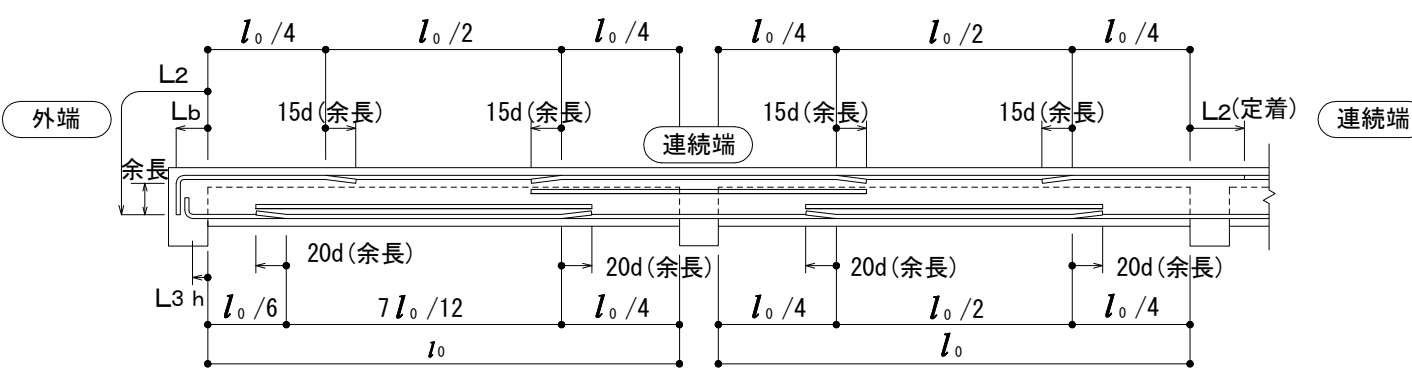
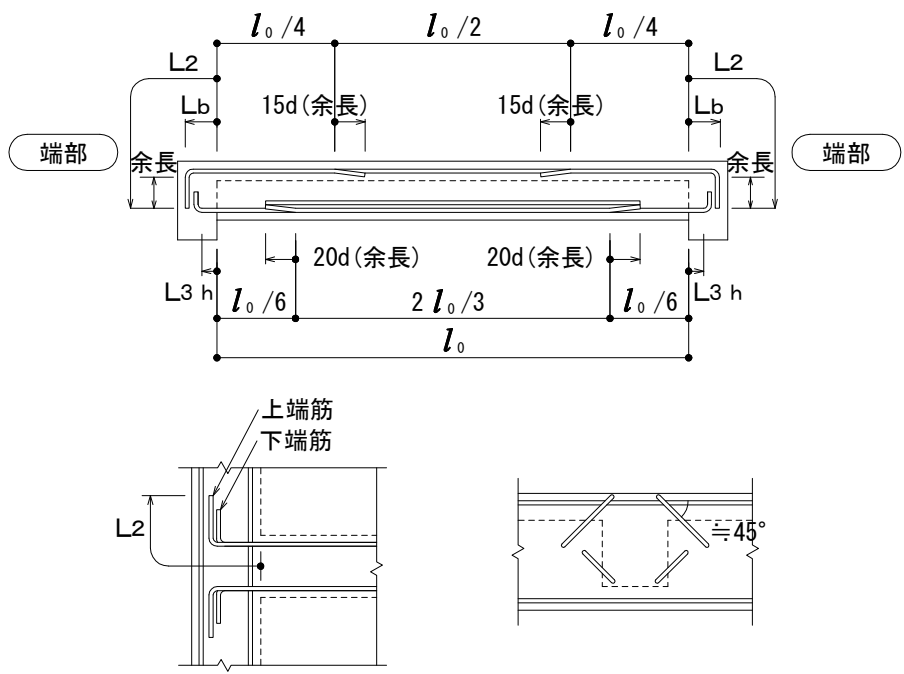
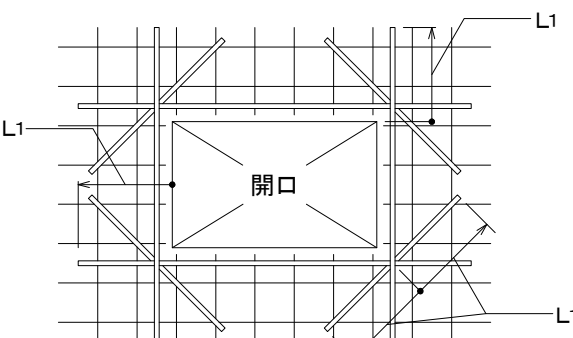
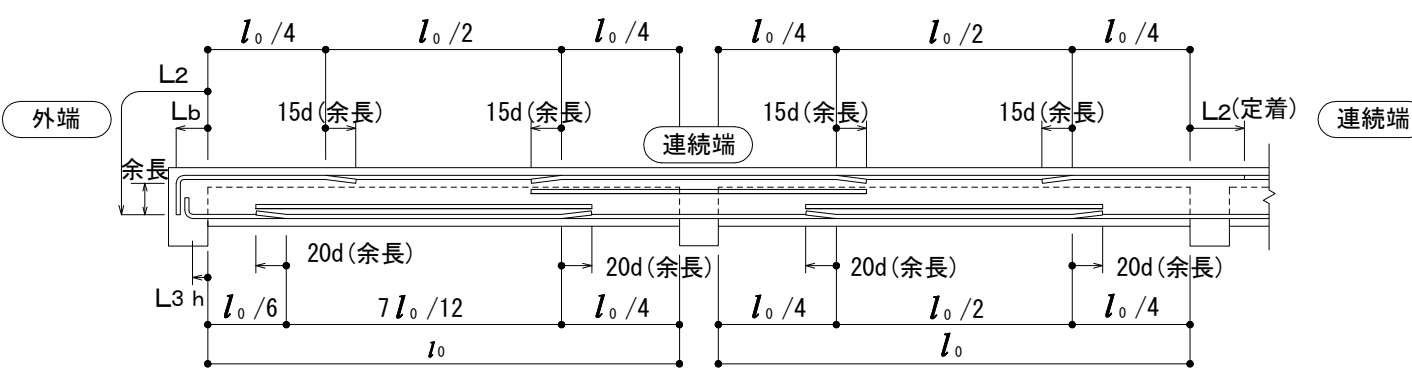
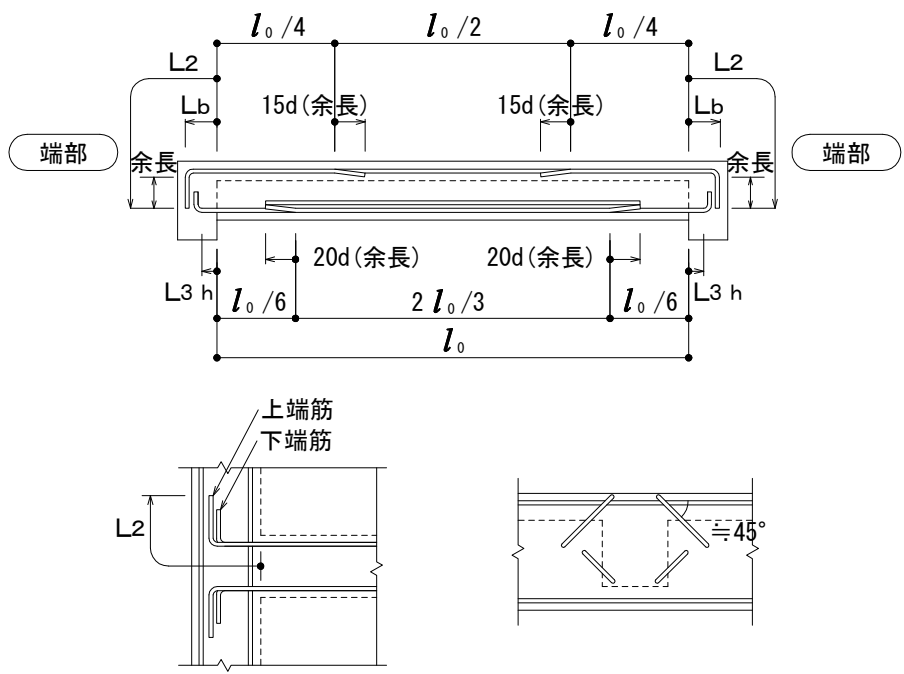
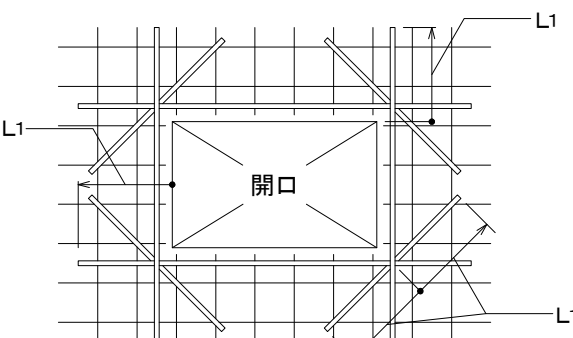
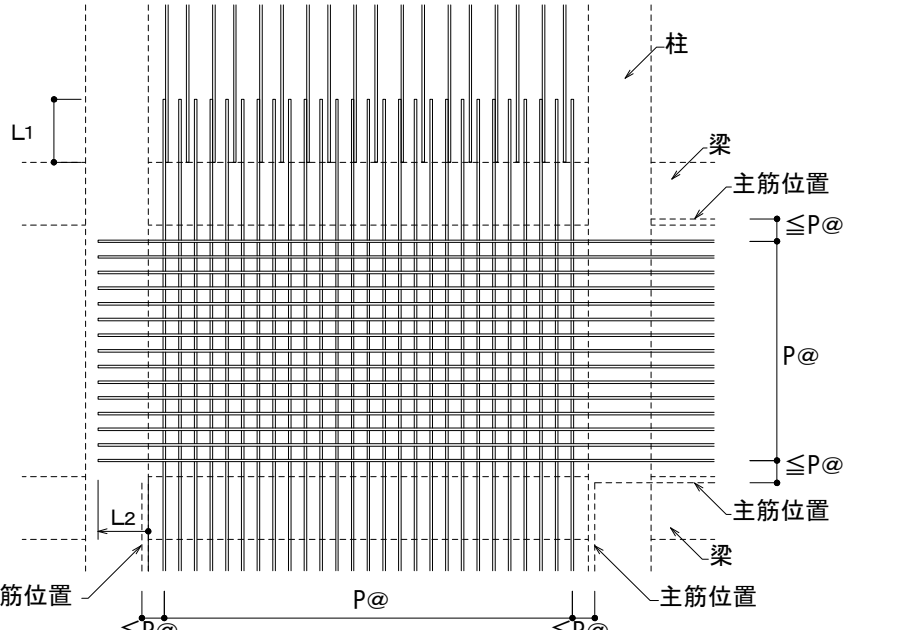
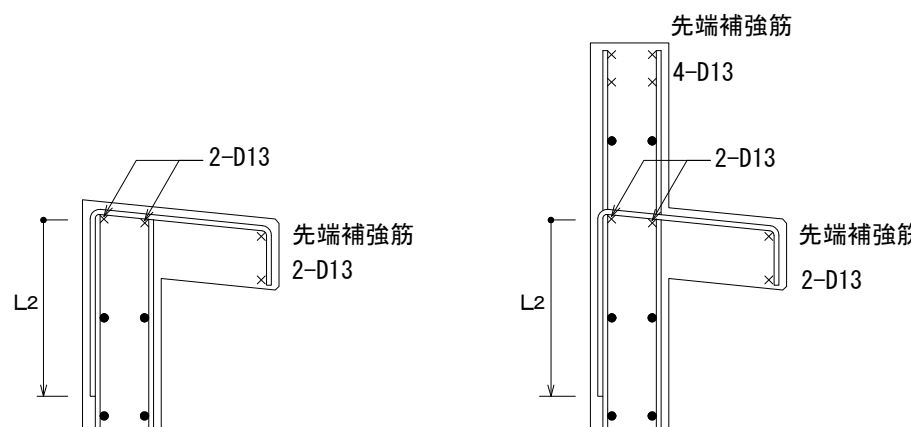




配筋標準図					
1. 1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長		1. 2 基礎梁のあばら筋		2. 2 帯筋組立の形及び割付け	
<p>(1) 一般事項</p> <p>(ア) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図1.4による。</p> <p>(イ) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(1)(イ)による。</p>  <p>図1.1 梁筋の基礎梁内への定着</p> <p>(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長</p>  <p>図1.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>図示のない事項は、3.1による。</li><li>印は、継手及び余長位置を示す。</li><li>破線は、柱内定着の場合を示す。</li><li><math>L_a</math> の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。</li></ol> <p>(3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長</p> <p>ただし、耐圧スラブが付く場合は、（4）による。</p>  <p>図1.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>図示のない事項は、3.1による。</li><li>印は、継手及び余長位置を示す。</li><li>破線は、柱内定着の場合を示す。</li><li><math>L_a</math> の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。</li></ol> <p>(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長（耐圧スラブがつく場合を含む）</p>  <p>図1.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>図示のない事項は、3.1による。</li><li>印は、継手及び余長位置を示す。</li><li>破線は、柱内定着の場合を示す。</li><li><math>L_a</math> の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。</li></ol>		<p>(1) 柱主筋の継手及び定着の一般事項</p>  <p>図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長</p> <ol style="list-style-type: none"><li>柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。</li><li>隣り合う継手の位置は、標準仕様書（表5.3.3）による。</li><li>柱頭定着長さ <math>L_2</math> が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。</li><li>柱頭柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。</li></ol> <p>(2) 柱打増し部</p> <p>(a) 打増し部分に、壁、梁、スラブ筋等がとりつく場合は、壁、梁、スラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。</p> <p>(b) 土に接する柱周囲の打増しは図2.2による。</p>  <p>図2.2 柱打増し部</p>		<p>(1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項</p> <p>(ア) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、（イ）により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図3.1による。</p>  <p>図3.1 梁主筋の梁内定着</p> <p>(イ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。</p> <p>なお、定着の方法は、標準仕様書（5.3.4(5)(イ)）による。</p> <p>上端筋：曲げ降ろす。</p> <p>下端筋（一般）：原則として曲げ上げる。</p> <p>下端筋（ハンチ付）：原則として曲げ上げる。</p> <p>(ウ) 段違い梁は、図3.2による。</p>  <p>図3.2 段違い梁</p> <p>(2) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長</p>  <p>図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長</p> <ol style="list-style-type: none"><li>継手中心位置は次による。</li><li>上端筋：中央 <math>I_o/2</math> 以内</li><li>下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、<math>I_o/4</math> を加えた範囲以内</li><li>標準仕様書（5.3.2(2)(イ)）で定めた鉄筋には、フックを付ける。</li><li>破線は、柱内定着の場合を示す。</li><li><math>L_a</math> の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。</li></ol> <p>(3) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長</p>  <p>図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長</p> <ol style="list-style-type: none"><li>標準仕様書（5.3.2(2)(イ)）で定めた鉄筋には、フックを付ける。</li><li>印は、継手及び余長を示す。</li><li>梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。</li><li>破線は、柱内定着の場合を示す。</li><li><math>L_a</math> の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。</li></ol>	
				明石市政策局 プロジェクト推進室	
				西明石地域交流センター icotto 建設工事	
				B	建築工事
				02	配筋標準図（1）
				安井建築設計事務所	

<div>3. 2 あばら筋（小梁、片持梁、基礎梁含む）の組立て形及び割付け等</div> <div><div>(1) あばら筋組立の形及びフックの位置</div><div></div><div>1. (イ) 形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。 2. フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。 なお、(ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。</div><div>図3.5 あばら筋組立の形</div><div>(2) あばら筋の割付け</div><div>(ア) 間隔が一律でハンチのない場合</div><div></div><div>1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 图中P◎は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</div><div>図3.6 あばら筋の割付け (その1)</div><div>(イ) 間隔が一律でハンチがある場合</div><div></div><div>1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。 2. 图中P◎は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</div><div>図3.7 あばら筋の割付け (その2)</div><div>(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合</div><div></div><div>1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 图中P◎、P'◎は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</div><div>図3.8 あばら筋の割付け (その3)</div><div>(3) 腹筋及び幅止め筋</div><div></div><div>1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。 2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。</div><div>図3.9 腹筋及び幅止め筋</div></div> <td><div>3. 4 小梁主筋の継手、定着及び余長</div><div><div>(1) 連続小梁の場合</div><div></div><div>図3.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)</div><div>(2) 単独小梁の場合</div><div></div><div>1. 印は、余長位置を示す。 2. 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしても良い。 3. 図示のない事項は、1.3及び3.11に準ずる。 4. L3hを確保できない場合は、標準仕様書(5.3.4(5)(イ))によることができる。</div><div>図3.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)</div></div></td> <td><div>4. 1 壁の配筋</div><div><div>(1) 壁の配筋は表4.1による。</div><div>表4.1 壁の配筋</div><table><tr><th>種別</th><th>縦筋及び横筋</th><th>断面図 (mm)</th></tr><tr><td>W12</td><td>D10-200#シングル</td><td></td></tr><tr><td>W15A</td><td>D10-150#シングル</td><td></td></tr><tr><td>W15B</td><td>D10-100#シングル</td><td></td></tr><tr><td>W18A</td><td>D10-200#ダブル</td><td></td></tr><tr><td>W18B</td><td>D10-150#ダブル</td><td></td></tr><tr><td>W20A</td><td>D10-200#ダブル</td><td></td></tr><tr><td>W20B</td><td>D10-150#ダブル</td><td></td></tr></table><div>(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。</div><div>(2) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表4.2による。</div><div>表4.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋</div><table><tr><th>種別</th><th>縦筋及び横筋</th><th>断面図 (mm)</th><th>階段の配筋種別(表6.1)</th></tr><tr><td rowspan="2">KW1</td><td>縦筋 D13-200#ダブル</td><td rowspan="2"></td><td>KA1</td></tr><tr><td>横筋 D10-200#ダブル</td><td>KA3</td></tr><tr><td rowspan="2">KW2</td><td>縦筋 D13-150#ダブル</td><td rowspan="3"></td><td>KA2</td></tr><tr><td>横筋 D10-200#ダブル</td><td>KA4</td></tr></table><div>(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。</div><div>(3) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。</div></div></td> <td><div>4. 4 壁の開口部補強</div><div><div>(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表4.3、B形は表4.4とする。</div><div>表4.3 壁開口部補強筋 (A形)</div><table><tr><th rowspan="2">壁の種別</th><th colspan="2">補強筋</th></tr><tr><th>縦横</th><th>斜め</th></tr><tr><td>W12, W15</td><td>1-D13</td><td>1-D13</td></tr><tr><td>W18, W20</td><td>2-D13</td><td>2-D13</td></tr></table><div>表4.4 壁開口部補強筋 (B形)</div><table><tr><th rowspan="2">壁の種別</th><th colspan="2">補強筋</th></tr><tr><th>縦横</th><th>斜め</th></tr><tr><td>W12, W15</td><td>2-D13</td><td>1-D13</td></tr><tr><td>W18, W20</td><td>4-D13</td><td>2-D13</td></tr></table><div>(2) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。</div><div></div><div>図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ</div><div>(3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。 (4) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。</div></div></td>	<div>3. 4 小梁主筋の継手、定着及び余長</div> <div><div>(1) 連続小梁の場合</div><div></div><div>図3.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)</div><div>(2) 単独小梁の場合</div><div></div><div>1. 印は、余長位置を示す。 2. 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしても良い。 3. 図示のない事項は、1.3及び3.11に準ずる。 4. L3hを確保できない場合は、標準仕様書(5.3.4(5)(イ))によることができる。</div><div>図3.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)</div></div>	<div>4. 1 壁の配筋</div> <div><div>(1) 壁の配筋は表4.1による。</div><div>表4.1 壁の配筋</div><table><tr><th>種別</th><th>縦筋及び横筋</th><th>断面図 (mm)</th></tr><tr><td>W12</td><td>D10-200#シングル</td><td></td></tr><tr><td>W15A</td><td>D10-150#シングル</td><td></td></tr><tr><td>W15B</td><td>D10-100#シングル</td><td></td></tr><tr><td>W18A</td><td>D10-200#ダブル</td><td></td></tr><tr><td>W18B</td><td>D10-150#ダブル</td><td></td></tr><tr><td>W20A</td><td>D10-200#ダブル</td><td></td></tr><tr><td>W20B</td><td>D10-150#ダブル</td><td></td></tr></table><div>(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。</div><div>(2) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表4.2による。</div><div>表4.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋</div><table><tr><th>種別</th><th>縦筋及び横筋</th><th>断面図 (mm)</th><th>階段の配筋種別(表6.1)</th></tr><tr><td rowspan="2">KW1</td><td>縦筋 D13-200#ダブル</td><td rowspan="2"></td><td>KA1</td></tr><tr><td>横筋 D10-200#ダブル</td><td>KA3</td></tr><tr><td rowspan="2">KW2</td><td>縦筋 D13-150#ダブル</td><td rowspan="3"></td><td>KA2</td></tr><tr><td>横筋 D10-200#ダブル</td><td>KA4</td></tr></table><div>(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。</div><div>(3) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。</div></div>	種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	W12	D10-200#シングル		W15A	D10-150#シングル		W15B	D10-100#シングル		W18A	D10-200#ダブル		W18B	D10-150#ダブル		W20A	D10-200#ダブル		W20B	D10-150#ダブル		種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表6.1)	KW1	縦筋 D13-200#ダブル		KA1	横筋 D10-200#ダブル	KA3	KW2	縦筋 D13-150#ダブル		KA2	横筋 D10-200#ダブル	KA4	<div>4. 4 壁の開口部補強</div> <div><div>(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表4.3、B形は表4.4とする。</div><div>表4.3 壁開口部補強筋 (A形)</div><table><tr><th rowspan="2">壁の種別</th><th colspan="2">補強筋</th></tr><tr><th>縦横</th><th>斜め</th></tr><tr><td>W12, W15</td><td>1-D13</td><td>1-D13</td></tr><tr><td>W18, W20</td><td>2-D13</td><td>2-D13</td></tr></table><div>表4.4 壁開口部補強筋 (B形)</div><table><tr><th rowspan="2">壁の種別</th><th colspan="2">補強筋</th></tr><tr><th>縦横</th><th>斜め</th></tr><tr><td>W12, W15</td><td>2-D13</td><td>1-D13</td></tr><tr><td>W18, W20</td><td>4-D13</td><td>2-D13</td></tr></table><div>(2) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。</div><div></div><div>図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ</div><div>(3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。 (4) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。</div></div>	壁の種別	補強筋		縦横	斜め	W12, W15	1-D13	1-D13	W18, W20	2-D13	2-D13	壁の種別	補強筋		縦横	斜め	W12, W15	2-D13	1-D13	W18, W20	4-D13	2-D13
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)																																																															
W12	D10-200#シングル																																																																
W15A	D10-150#シングル																																																																
W15B	D10-100#シングル																																																																
W18A	D10-200#ダブル																																																																
W18B	D10-150#ダブル																																																																
W20A	D10-200#ダブル																																																																
W20B	D10-150#ダブル																																																																
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表6.1)																																																														
KW1	縦筋 D13-200#ダブル		KA1																																																														
	横筋 D10-200#ダブル		KA3																																																														
KW2	縦筋 D13-150#ダブル		KA2																																																														
	横筋 D10-200#ダブル		KA4																																																														
壁の種別	補強筋																																																																
	縦横	斜め																																																															
W12, W15	1-D13	1-D13																																																															
W18, W20	2-D13	2-D13																																																															
壁の種別	補強筋																																																																
	縦横	斜め																																																															
W12, W15	2-D13	1-D13																																																															
W18, W20	4-D13	2-D13																																																															
4. 5 パラベット	4. 2 壁の継手及び定着	<div>図4.1 壁の配筋</div>  <div>1. 图中的P◎は、特記された壁筋の間隔を示す。 2. 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とし、鉄筋の継手位置は柱・梁以外とする。 3. 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。</div>	<div>図4.4 パラベットの配筋</div> 																																																														

5. 1    スラブの配筋

表5. 1    スラブの配筋					
配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10, D13-150@	D10-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上	D10-200@
S 3	同上	D10, D13-150@	S10	D10, D13-200@	D10, D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同上	D10-200@
S 5	同上	D10, D13-150@	S12	同上	D10-250@
S 6	同上	D10-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S14	同上	D10-250@

（注） 上端筋、 下端筋とも同一配筋とする。

1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは、 $L_1$ とする。
3. 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。

図9. 1    スラブの配筋

5. 2    スラブ筋の定着及び受け筋

図5. 2    スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

一般スラブの場合

耐圧スラブの場合

図5. 3    スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

5. 3    片持スラブの配筋

表5. 2    CS形配筋					
配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
CS1	上	D13-100@	CS5	上	D10-200@
	下	D13-200@		下	D10-400@
CS2	上	D13-150@	CS6	上	D10, D13-200@
	下	D13-300@		下	—
CS3	上	D10, D13-150@	CS7	上	D10-200@
	下	D10, D13-300@		下	—
CS4	上	D10, D13-200@			
	下	D10-200@			

図5. 4    片持スラブの配筋 (CS1 から CS5)

図5. 5    片持スラブの配筋 (CS6 及び CS7)

1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

5. 4    片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

図5. 6    先端に壁が付く場合の配筋

5. 5    スラブの開口部の補強

図5. 7    スラブ開口部の補強配筋

1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ( $l=2L_1$ ) シングルを上下筋の内側に配筋する。
2. スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
3. スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。

5. 6    出隅部及び入隅部の補強

(1) 屋根スラブの出隅及び入隅部

1. 補強筋を上下筋の下側に配置する。

図5. 8    出隅及び入隅部の補強配筋

(2) 片持スラブの出隅部

1.  $l_1 \geq l_2$ とする。

出隅部分補強配筋

図5. 9    片持スラブ出隅部の補強配筋

1.  $l_1 \geq l_2$ とする。

2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に  $L_1$  定着する。

出隅受け部配筋

5. 7    スラブの打継ぎの補強等

(1) 土間スラブの打継ぎ補強（基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。）

図5. 10    打継ぎ補強配筋

1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2.  $a$ が300mm以下の場合に限る。

(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

図5. 11    土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2.  $a$ が300mm以下の場合に限る。



6. 1 片持スラブ形階段の配筋

表6. 1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

1. 壁配筋は、4. 1 (2) による。  
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。  
3. スラブ配力筋の継手及び定着長さは、標準仕様書（表5. 3. 4）の L3 とする。

図6. 1 片持スラブ形階段配筋の定着

6. 2 二辺固定スラブ形階段の配筋

表6. 2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13, D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

図6. 2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

図6. 2 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

7. 1 梁貫通孔の配筋

(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7. 1による。  
(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。  
(3) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せいの範囲には設けてはならない。  
(4) 孔は、柱面から、原則として、1. 50以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。  
(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。  
(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。  
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7. 2による。  
(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。  
(9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。  
(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。  
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。  
(11) 溶接金網の割付け地点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。  
(12) 他の開孔を設けない範囲は図7. 3による。

図7. 1 梁貫通孔補強筋の名称等

図7. 2 補強筋の定着長さ

図7. 3 他の開孔を設けない範囲

7. 2 梁貫通孔の補強形式

表7. 1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22	4-2-D16	2-2-D16	3-2-D13	
H8	4-2-D25				
H9	4-2-D29	6-2-D16	2-2-D16	3-2-D13	
H10	6-2-D29				
H11	6-2-D32	8-2-D32	2-2-D16	3-2-D13	
H12	8-2-D32				
H13	8-2-D32				

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

7. 3 コンクリートブロック横壁との取合い

(1) 控壁の配筋

図7. 3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(2) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

図7. 4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

## 構造関係共通事項（鉄骨標準図）

### 1.1 縁端距離及びボルト間隔等

(1) 縁端距離及びボルト間隔

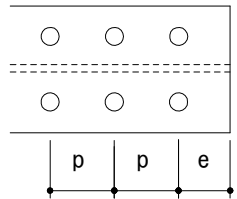
緑端距離及びボルト間隔は、表1.1による。

ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の緑端距離は、構造図による。構造図がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

また、アンカーボルトの緑端距離は構造図による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)

ねじの呼び	緑端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

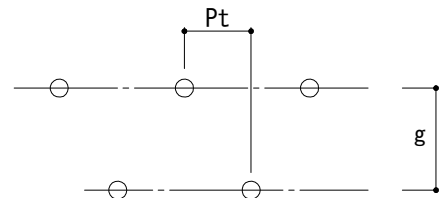


(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

ゲージ	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
g	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

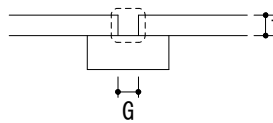
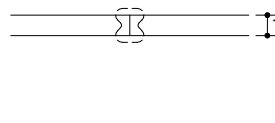
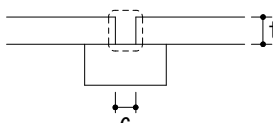
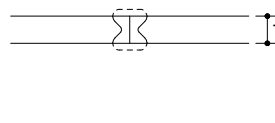
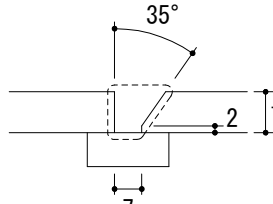
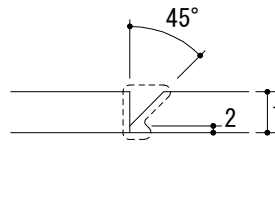
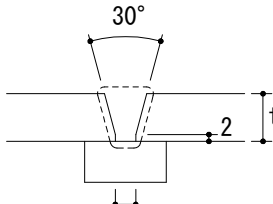
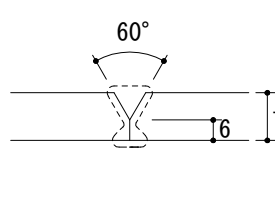
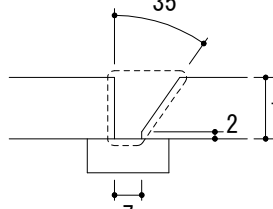
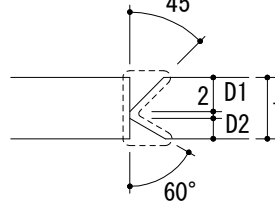
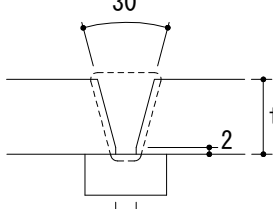
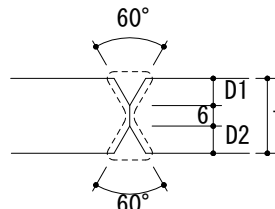
A 又 は B			B			B			
$E_1$	$E_2$	最大軸径	B	$E_1$	$E_2$	最大軸径	B	$E_2$	最大軸径
45	25	12	100	56	16	50	30	12	
50	28	16	125	75	16	65	35	20	
60	35	16	150	90	22	70	40	20	
65	35	20	175	105	22	75	40	22	
70	40	20	200	120	24	80	45	22	
75	40	22	250	150	24	90	50	24	
80	45	22	300	150	24	100	55	24	
90	50	24	350	140	70	24			
100	55	24	400	140	90	24			
125	50	35	24						
130	50	40	24						
150	55	55	24						
175	60	70	24						
200	60	90	24						

※1 千鳥打ちとした場合

## 1.2 溶接継手の種類別開先標準

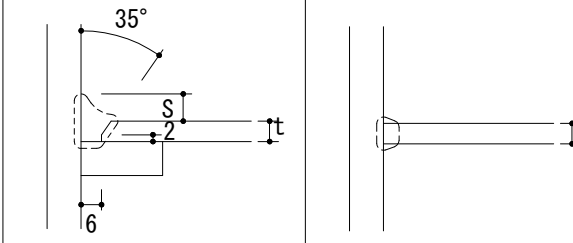
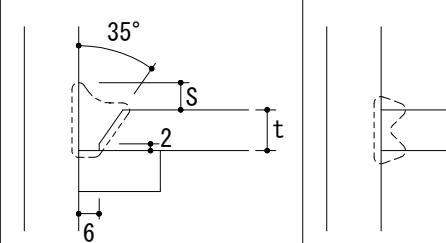
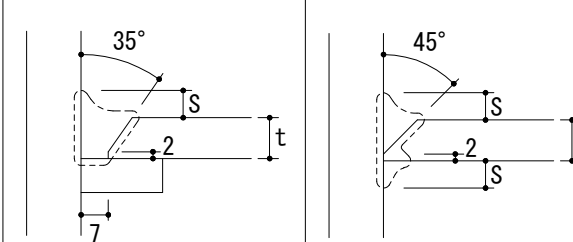
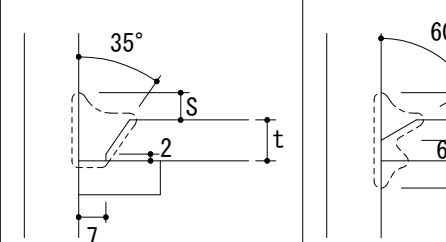
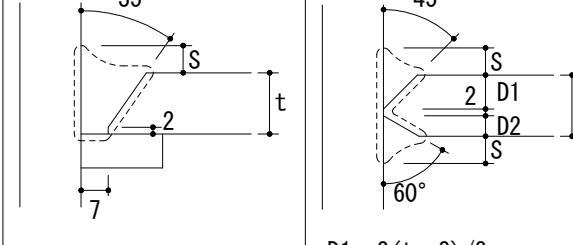
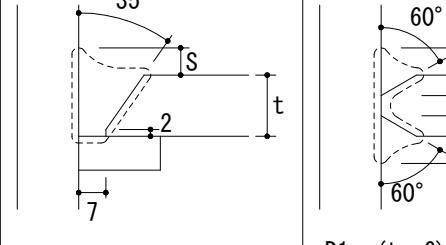
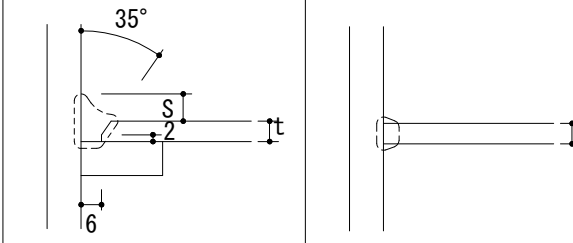
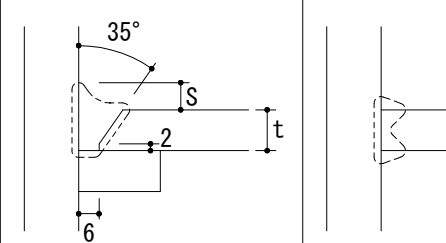
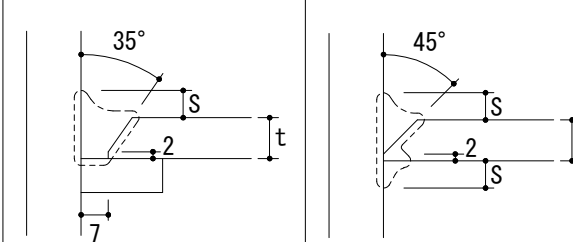
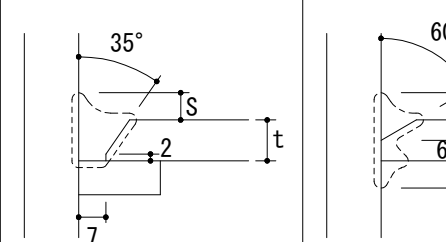
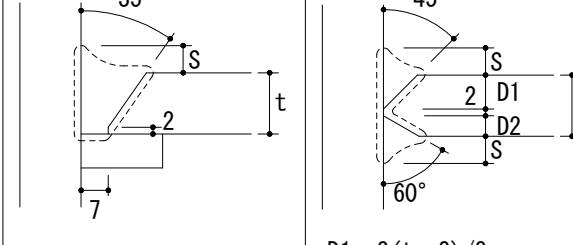
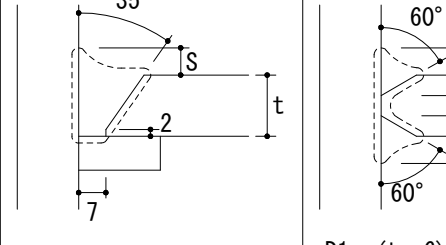
## 突合せ継手の開先標準

(单位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
			
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
			
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
			
	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-2)/3$		$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$

### T型継手の開先標準

(单位: mm)

H ( 被覆アーケ溶接、ガスシールドアーケ溶接 ) 及びセルシールドアーケ溶接		A ( サブマージアーケ自動溶接 )	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>		$t \leq 12$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>	
$6 < t \leq 19$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>		$12 < t \leq 22$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>	
$19 < t \leq 40$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>		$22 < t \leq 40$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>	
$t \leq 6$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>		$t \leq 12$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>	
$6 < t \leq 19$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>		$12 < t \leq 22$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>	
$19 < t \leq 40$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>		$22 < t \leq 40$  <p>1/4t ≤ S ≤ 10</p>	

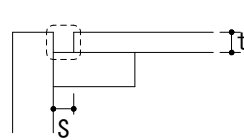
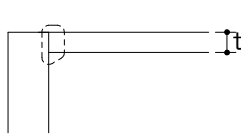
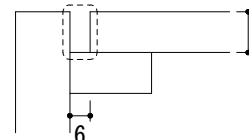
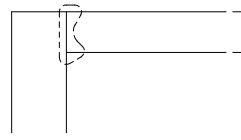
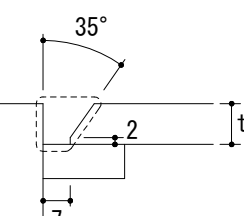
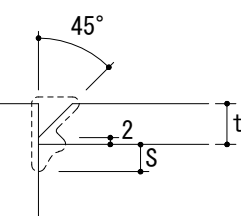
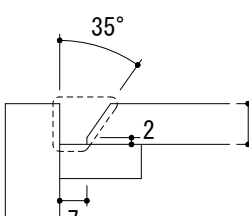
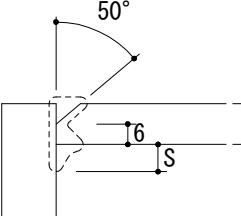
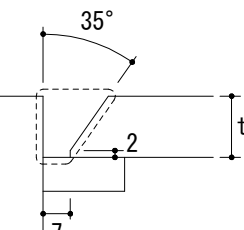
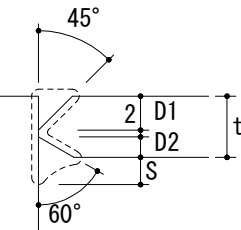
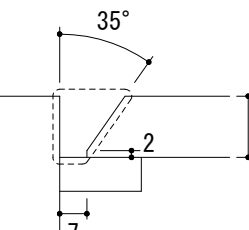
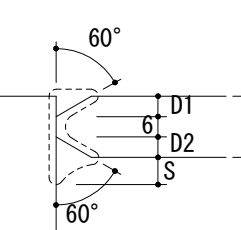
## 部材が直交しない場合の開先標準

(单位: mm)

H (被覆アーク溶接) ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$	$19 < t \leq 40$
<p><math>1/4t \leq S \leq 10</math></p>	<p><math>1/4t \leq S \leq 10</math></p>	<p><math>1/4t \leq S \leq 10</math></p>

## かど継手の開先標準

(单位: mm)

H (被覆アーク溶接, ガスシールドアーク溶接 及びセルフルシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$   <p><math>S = t</math></p>		$t \leq 12$  	
$6 < t \leq 19$   <p><math>1/4t \leq S \leq 10</math></p>		$12 < t \leq 19$   <p><math>1/4t \leq S \leq 10</math></p>	
$19 < t \leq 40$   <p> <math>D1 = 2(t-2)/3</math>  <math>D2 = (t-2)/3</math>  <math>1/4t \leq S \leq 10</math> </p>		$19 < t \leq 40$   <p> <math>D1 = (t-6)/2</math>  <math>D2 = (t-6)/2</math>  <math>1/4t \leq S \leq 10</math> </p>	

### 隅肉溶接の開先標準

(單位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
$t \leq 16$	$t \leq 16$	$16 < t \leq 40$

### 隅肉溶接のサイズ

(单位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

### 部分溶込み溶接の開先標準

(单位: mm)

H (被覆アーク溶接) ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接

1 (片面溶接)

$12 \leq t \leq 40$

2 (両面溶接)

$16 \leq t \leq 40$

t	12	16	22	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15

$1/4t \leq S \leq 10$

## 重ねアーク溶接（フレア溶接）の開先標準

(单位: mm)

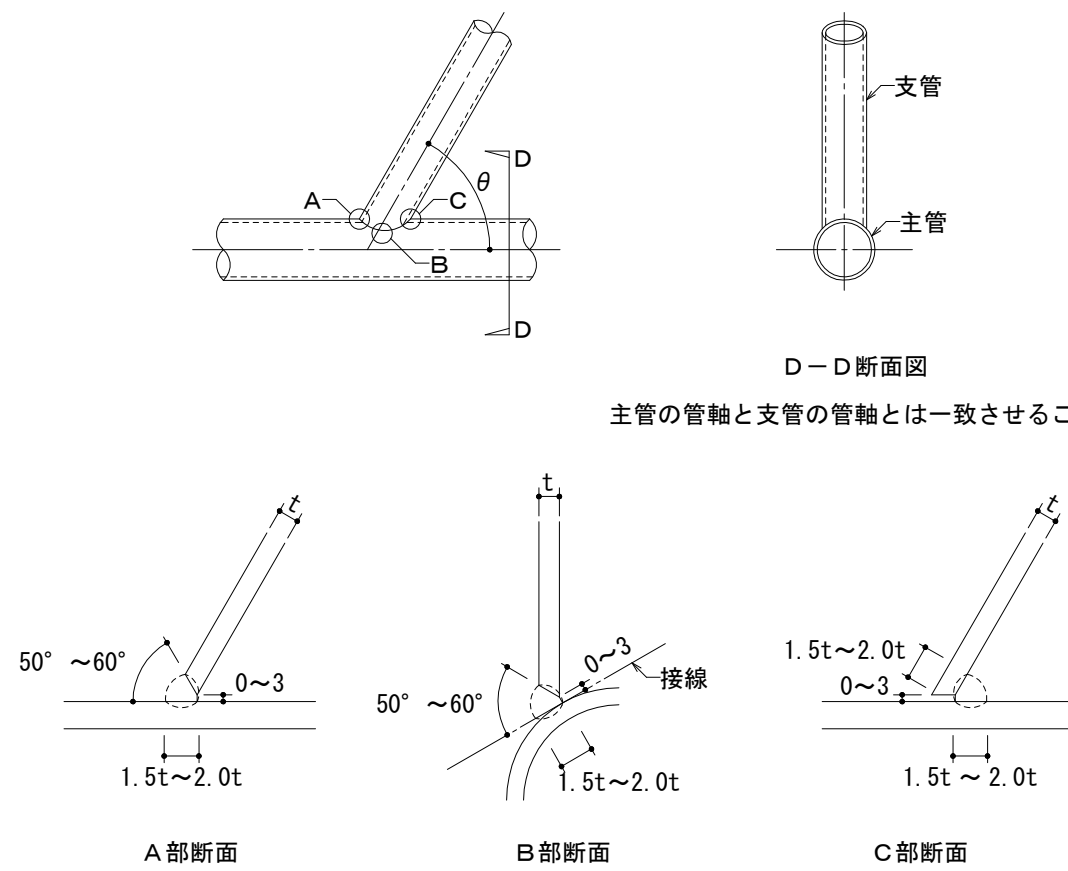
H (被覆アーク溶接 ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼U形溶接)
		<p> <math>t \geq 3</math> のとき <math>S = t</math>  <math>t &lt; 3</math> のとき <math>S = 3</math> </p>	<p> <math>t \geq 3</math> のとき <math>S = t</math>  <math>t &lt; 3</math> のとき <math>S = 3</math> </p>

### 1.3 鋼管分岐継手詳細


自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。

(単位: mm)

適用管厚	$3.2\text{mm} \leq t \leq 12\text{mm}$
交角	$30^\circ \leq \theta \leq 150^\circ$

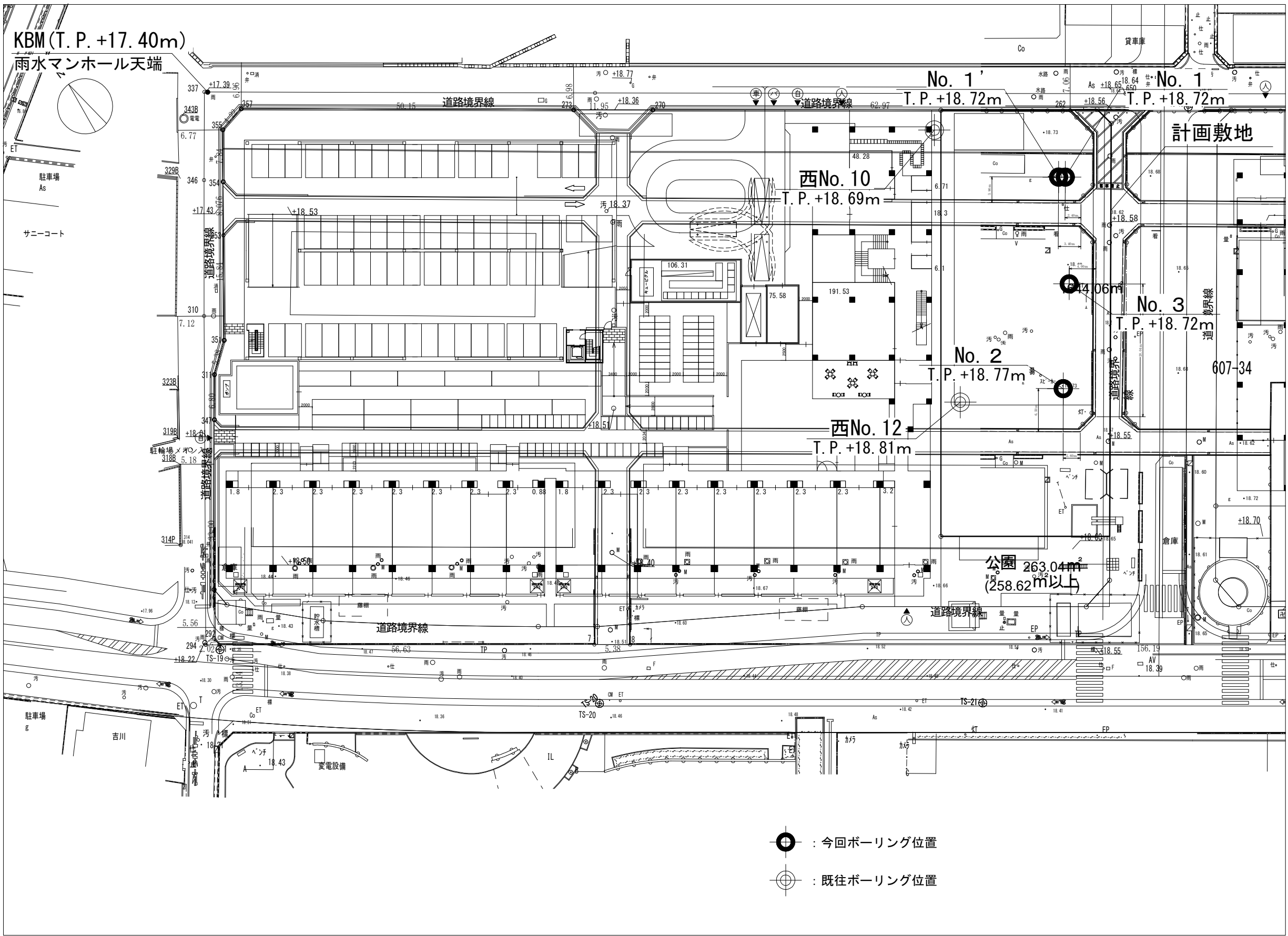


(7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件																																																																																							
<table><tr><th>鋼材の種類</th><th>規格</th><th>溶接材料</th><th>入熱 (kJ/cm)</th><th>バス間温度 (℃)</th></tr><tr><td rowspan="8">400N級炭素鋼 (STKR、BCR及びBCPを除く。)</td><td>JIS Z 3211</td><td>引張強さ570MPa以上のものを除く</td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td rowspan="2">JIS Z 3312</td><td>YGW-11、 15</td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td>YGW-18、 19</td><td>30以下</td><td>450以下</td></tr><tr><td rowspan="3">JIS Z 3313</td><td>T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U</td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td></td><td rowspan="2">30以下</td><td rowspan="2">450以下</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>JIS Z 3214</td><td>引張強さ570MPa以上のものを除く</td><td rowspan="2">40以下</td><td rowspan="2">350以下</td></tr><tr><td>JIS Z 3315</td><td>G49AOU-CCJ G49AOU-NCC、 NCCT等</td></tr><tr><td rowspan="8">490N級炭素鋼 (STKR及びBCPを除く。)</td><td>JIS Z 3211</td><td>引張強さ570MPa以上のものを除く</td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td rowspan="2">JIS Z 3312</td><td>YGW-11、 15</td><td>30以下</td><td>250以下</td></tr><tr><td>YGW-18、 19</td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td rowspan="3">JIS Z 3313</td><td>T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U</td><td>30以下</td><td>250以下</td></tr><tr><td></td><td rowspan="2">40以下</td><td rowspan="2">350以下</td></tr><tr><td></td></tr><tr><td>JIS Z 3214</td><td>引張強さ570MPa以上のものを除く</td><td rowspan="2">40以下</td><td rowspan="2">350以下</td></tr><tr><td>JIS Z 3315</td><td>G49AOU-CCJ G49AOU-NCC、 NCCT等</td></tr><tr><td rowspan="2">520N級炭素鋼</td><td>JIS Z 3312</td><td>YGW-18、 19</td><td rowspan="2">30以下</td><td rowspan="2">250以下</td></tr><tr><td>JIS Z 3313</td><td>T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U</td></tr><tr><td rowspan="4">400N級炭素鋼 (STKR、BCR及びBCPIに限る。)</td><td rowspan="2">JIS Z 3312</td><td>YGW-11、 15</td><td>30以下</td><td>250以下</td></tr><tr><td>YGW-18、 19</td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td rowspan="2">JIS Z 3313</td><td>T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U</td><td>30以下</td><td>250以下</td></tr><tr><td></td><td>40以下</td><td>350以下</td></tr><tr><td rowspan="2">490N級炭素鋼 (STKR及びBCPIに限る。)</td><td>JIS Z 3312</td><td>YGW-18、 19</td><td rowspan="2">30以下</td><td rowspan="2">250以下</td></tr><tr><td>JIS Z 3313</td><td>T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U</td></tr></table>	鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)	400N級炭素鋼 (STKR、BCR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	JIS Z 3312	YGW-11、 15	40以下	350以下	YGW-18、 19	30以下	450以下	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下		30以下	450以下		JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC、 NCCT等	490N級炭素鋼 (STKR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	JIS Z 3312	YGW-11、 15	30以下	250以下	YGW-18、 19	40以下	350以下	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下		40以下	350以下		JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC、 NCCT等	520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18、 19	30以下	250以下	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	400N級炭素鋼 (STKR、BCR及びBCPIに限る。)	JIS Z 3312	YGW-11、 15	30以下	250以下	YGW-18、 19	40以下	350以下	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下		40以下	350以下	490N級炭素鋼 (STKR及びBCPIに限る。)	JIS Z 3312	YGW-18、 19	30以下	250以下	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	<div>1. 6 梁貫通孔補強</div> <div>(1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。 (ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリートの梁せいの1/3以下とする。 (イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。</div> <div><div><div>梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)</div><div>H: 鉄骨せい D: 梁せい φ: 貫通孔内径寸法 (φ ≦ H/2、かつ、φ ≦ D/3)</div></div><div>(2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。 補強プレート法 (ア) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。 (イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。</div><div><div>I1 は 3 φ 又は I2 のうち小さい方とする。 (e ≧ H とする) e: 材端と補強プレートの間隔</div><div>補強トラス法 スリーブの取付けは、全周隔肉溶接とする。</div></div></div>
鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)																																																																																			
400N級炭素鋼 (STKR、BCR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3312	YGW-11、 15	40以下	350以下																																																																																			
		YGW-18、 19	30以下	450以下																																																																																			
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下																																																																																			
			30以下	450以下																																																																																			
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC、 NCCT等																																																																																					
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3312	YGW-11、 15	30以下	250以下																																																																																			
		YGW-18、 19	40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下																																																																																			
			40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC、 NCCT等																																																																																					
520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18、 19	30以下	250以下																																																																																			
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U																																																																																					
400N級炭素鋼 (STKR、BCR及びBCPIに限る。)	JIS Z 3312	YGW-11、 15	30以下	250以下																																																																																			
		YGW-18、 19	40以下	350以下																																																																																			
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下																																																																																			
			40以下	350以下																																																																																			
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPIに限る。)	JIS Z 3312	YGW-18、 19	30以下	250以下																																																																																			
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U																																																																																					
<div>1. 5 重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ</div> <div>鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は、ビートの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた長さとする。</div> <div><div>L: 片面フレア溶接の場合 10d 両面フレア溶接の場合 5d</div><div>L a及びL bは1d（軽量形鋼については1S）以上 d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値 S: 溶接のサイズ</div><div></div></div>	<div>1. 7 その他</div> <div>(1) 広幅平鋼の取扱い BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。 (2) フィラープレートの材質 フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。 (3) もや、胴縁類の取付け用ボルト もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は、二重ナットとする。</div>																																																																																						

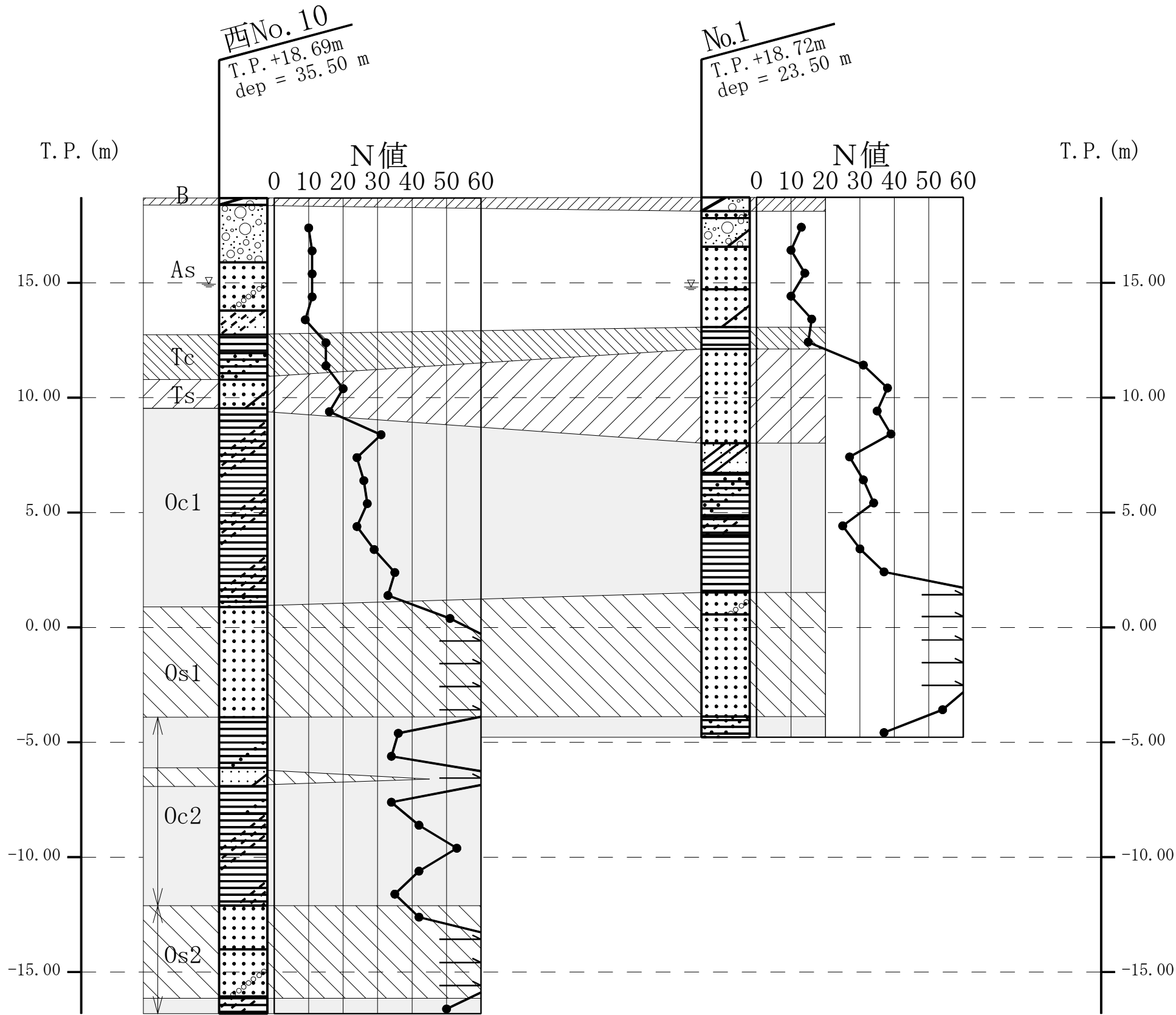
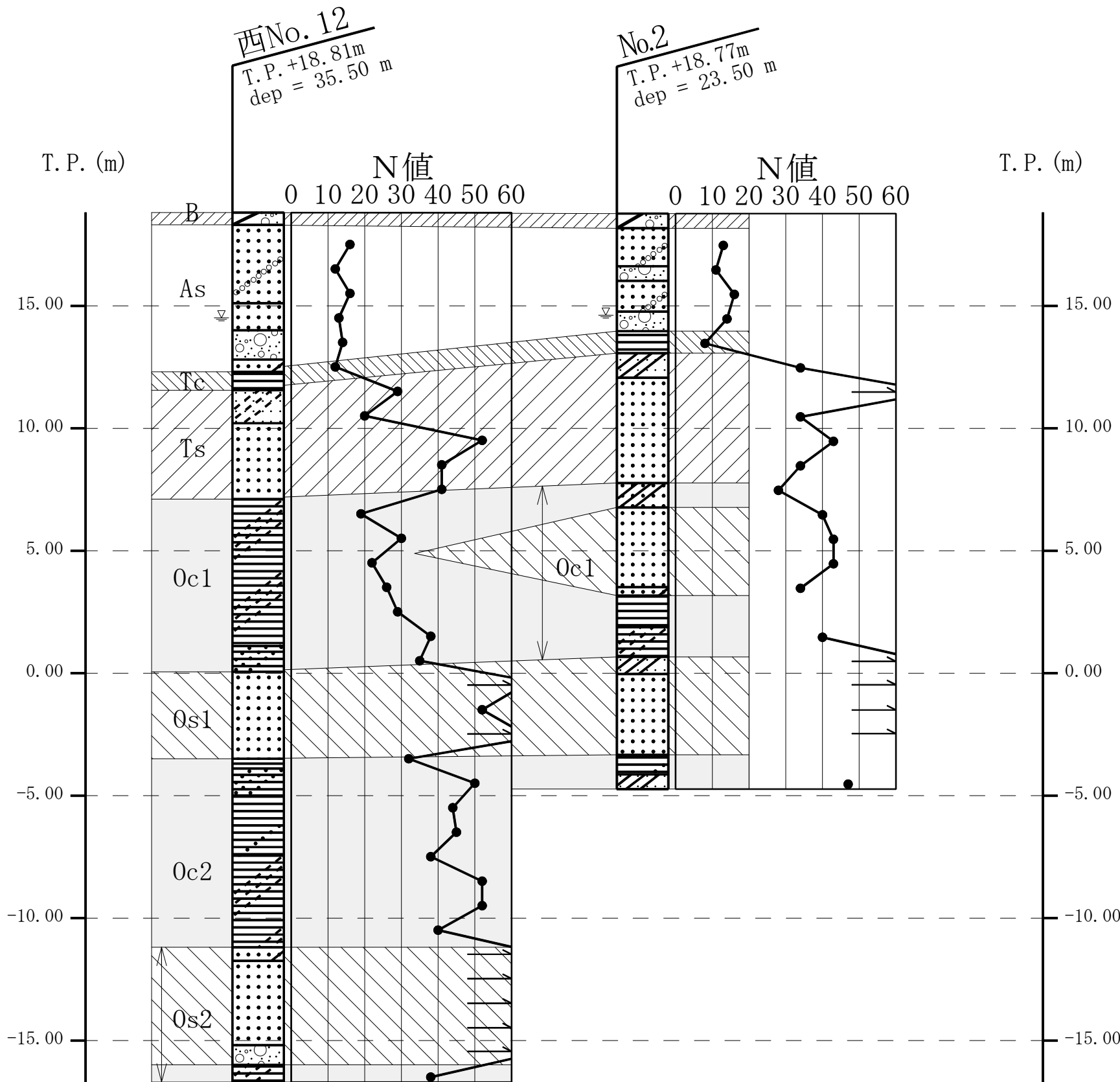
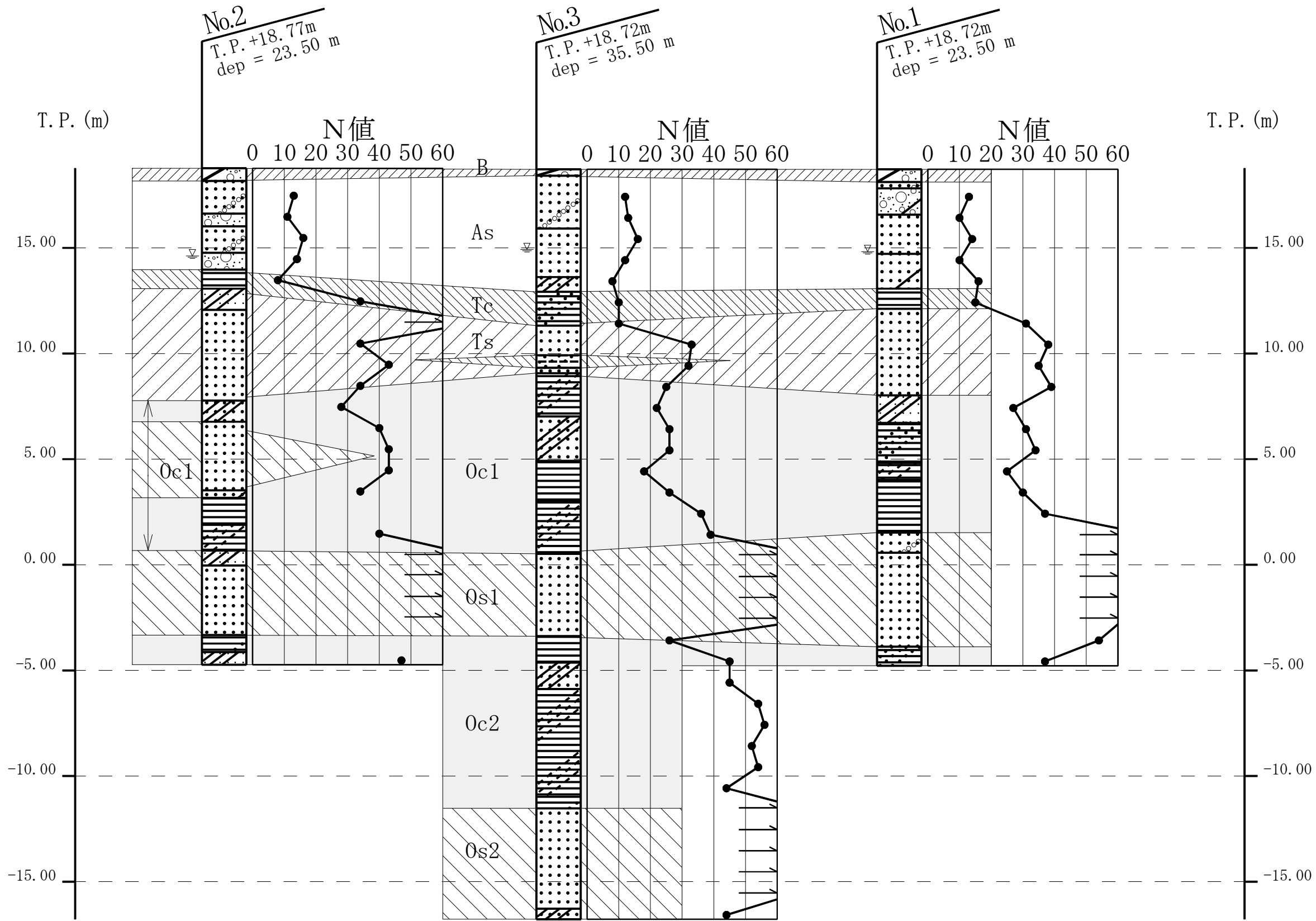
		 明石市政策局 プロジェクト推進室		西明石地域交流センター icotto 建設工事	
＜代表設計者＞		一級建築士 森 雅章	国土交通大臣登録 第300703号	B	建築工事
＜構造設計者＞		一級建築士 秋田 智	国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号	07	鉄骨標準図（2）
					安井建築設計事務所
					最終版 2024.12.02
					見積版 2024.12.16
					最終契約版







地質調査位置図 1:600



地質推定断面図 1:200

<凡 例>

時 代	地 層 区 分	記号
新 生 代	現 世	盛 土 層
	完新世	沖積層
	更新世	砂質土層
		粘性土層
	大坂層群	砂質土層
		粘性土層
新第三紀		砂質土層

明石市政策局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
＜代表設計者＞		一級建築士 森 雅章	国土交通大臣登録 第300703号	B	建築工事	A1 1:600 最終版	2024.12.02
＜構造設計者＞		一級建築士 構造設計一級建築士 秋田 智	国土交通大臣登録 第308030号 第5193号	09	調査位置図・地質断面図	A3 1:1200 1:400 見稿版	2024.12.16
安井建築設計事務所						最終契約版	

ボーリングNo. 1

## ボーリングNo. 2

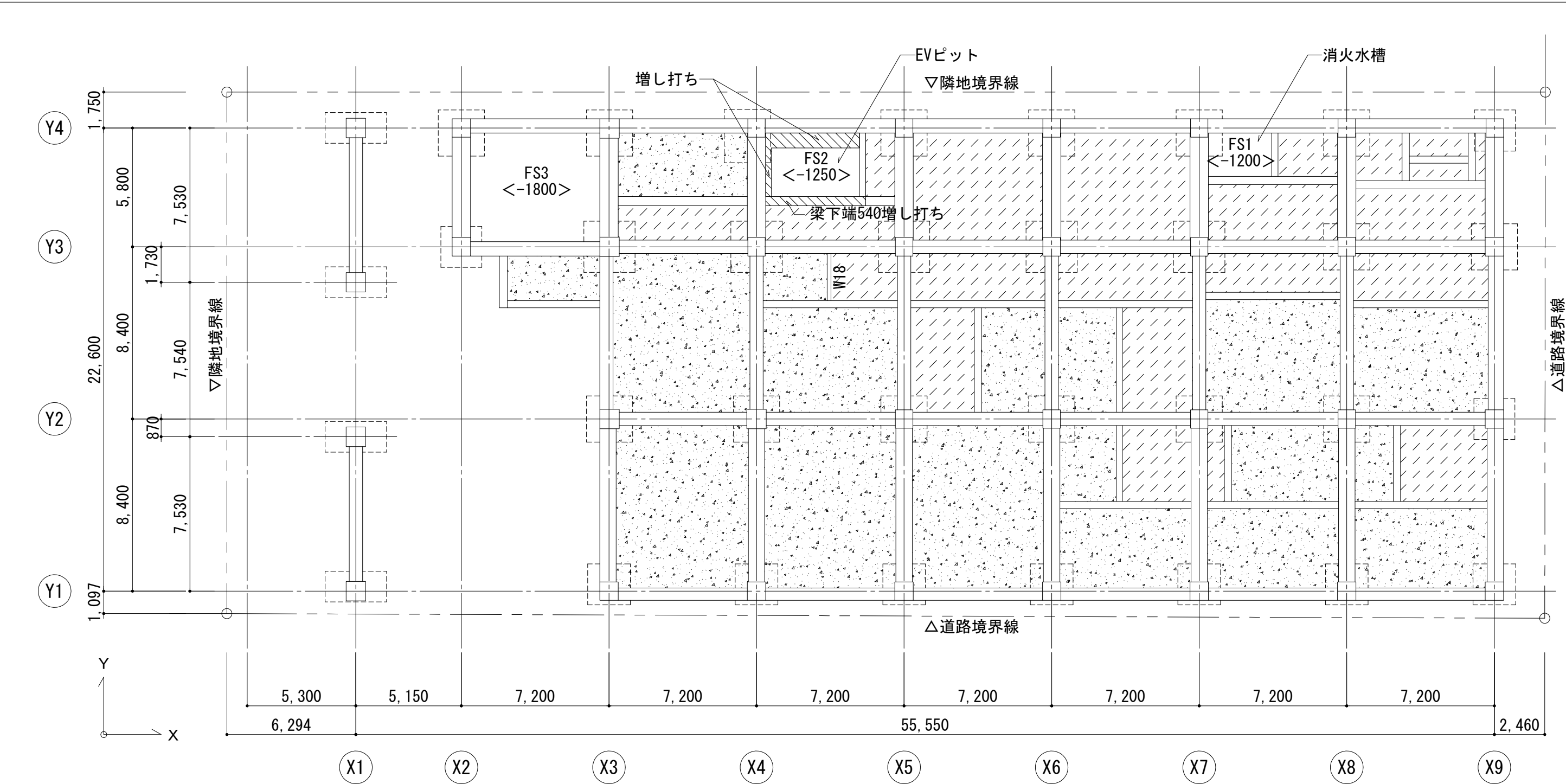
ボーリングNo. 3

(T.P.+18.64m)  
設計GL  
▽  
杭先端  
GL-2.1~2.5m

杭先端  
GL-19.1~19.5m

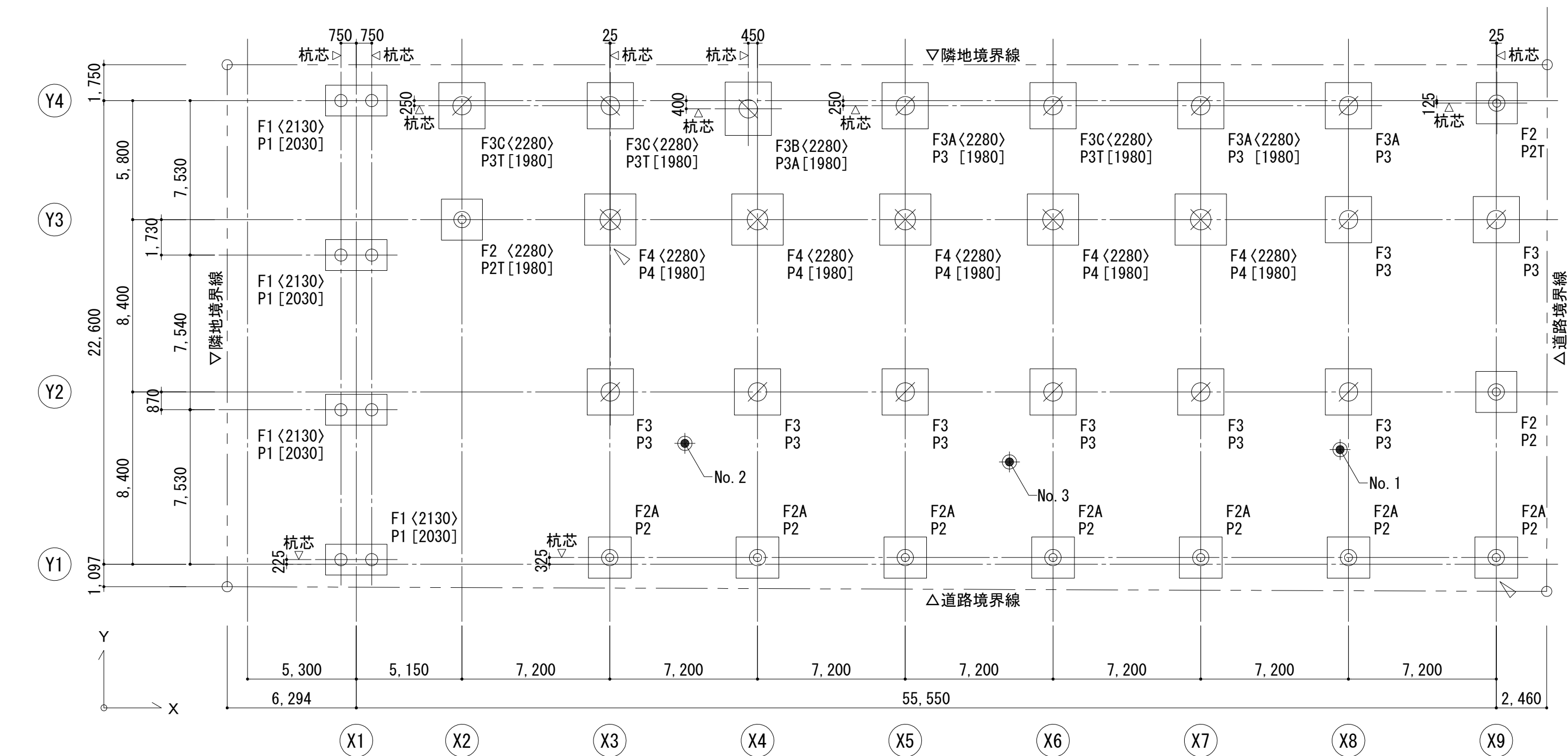
杭先端  
GL-19.1~19.5m





ピット伏図 1:200

- 共通事項（特記なき限り）
- 印は 砕石ピット -1800 を示す。
  - 印は 埋め戻し範囲 を示す。
  - 印は 人道口600φ を示す。
  - < >内数値は、IFLからの底版天端レベル を示す。



杭・基礎伏図 1:200

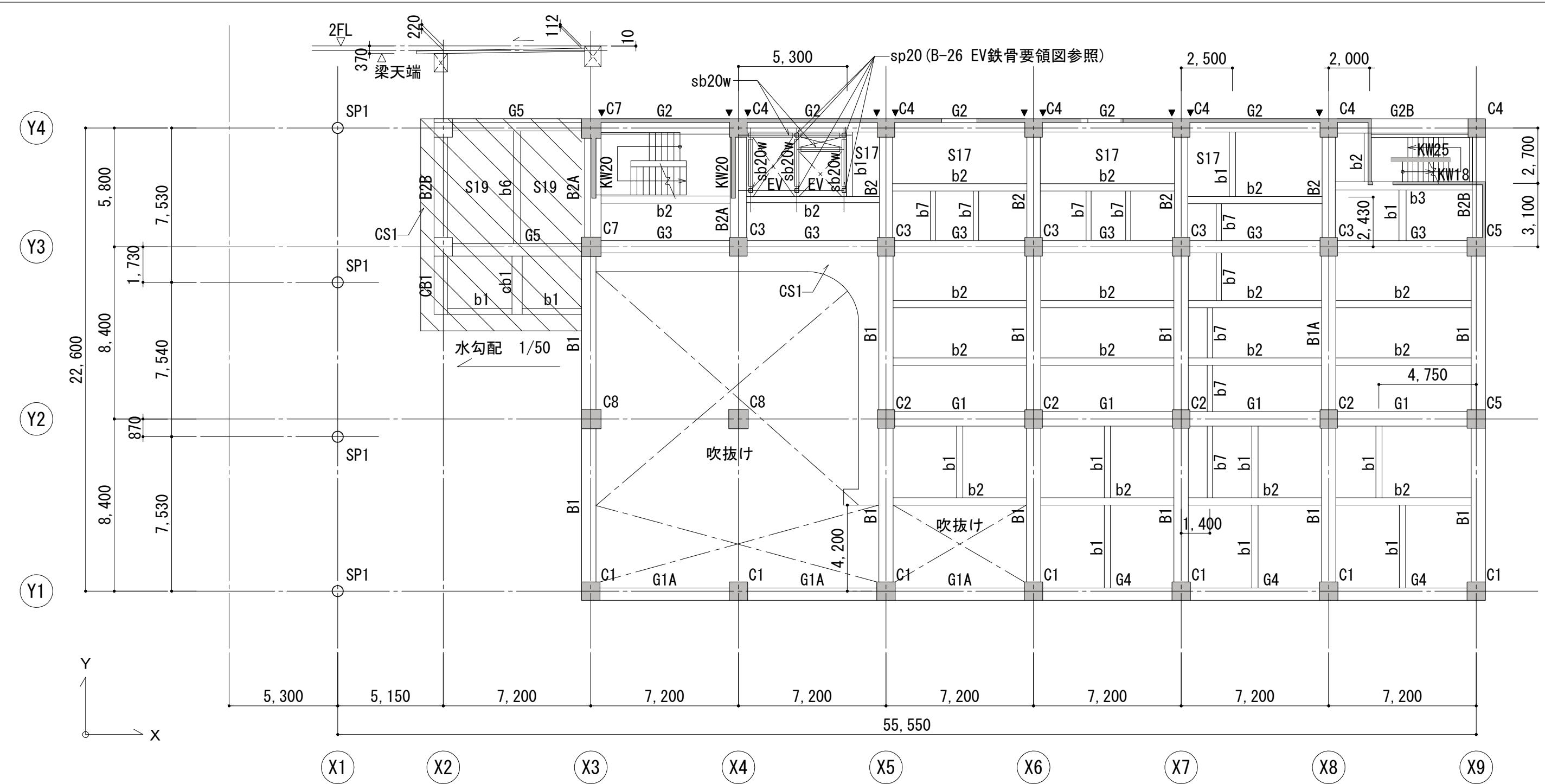
- 共通事項（特記なき限り）
- 杭工法は プレボリング拡大根固め工法とし、 $[\alpha=335, \beta=4.4, \gamma=0.62以上]$ の長期許容支持力を確保できる工法とする。
  - 試験杭は 下記杭長+1.0m(下杭+1.0m)とする。
  - 無溶接継手とする。
  - T付杭は 引抜対応杭を示す。
  - O内数値はT付杭本数を示す。

杭仕様

記号	符号	上 杭			下 杭			杭本数	長期支持力 (kN/本)
		杭径(φ)	杭種	杭長(m)	杭径(φ)	杭種	杭長(m)		
○	P1	600	PRC杭 (Ⅲ種)	5	600	PHC杭 (B種)	12	8	2500
◎	P2, P2T	800	SC杭 (STK490 t=16.0)	5	800	PHC杭 (B種)	12	10 (2)	4000
⊗	P3	900	SC杭 (STK490 t=12.0)	5	900	PHC杭 (B種)	12	11	5000
⊗	P3A, P3T	900	SC杭 (STK490 t=14.0)	5	900	PHC杭 (C種)	12	4 (3)	5000
⊗	P4	1000	SC杭 (STK490 t=12.0)	5	1000	PHC杭 (B種)	12	5	6000

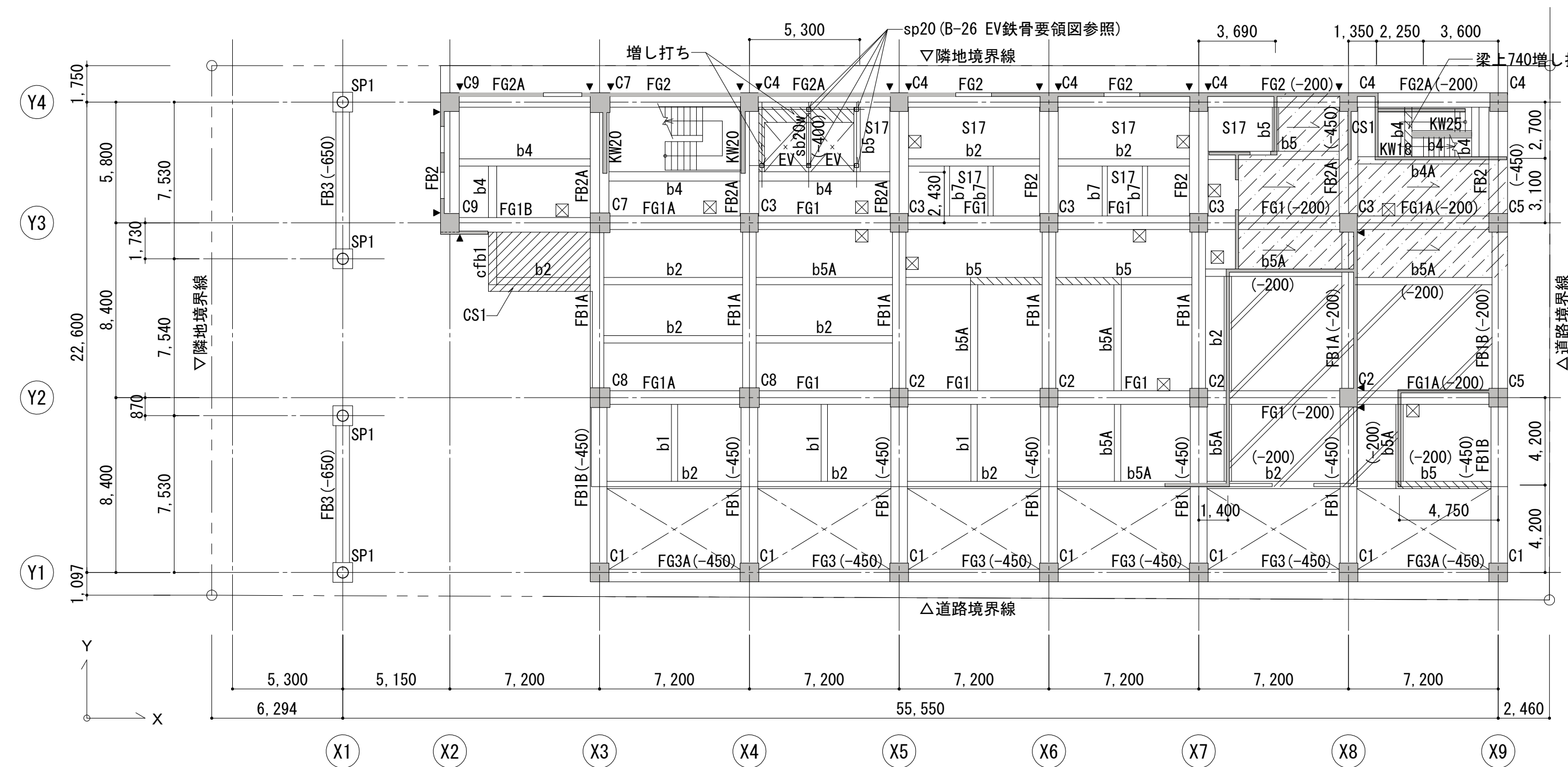
- 共通事項（特記なき限り）
- 設計GL=T.P.+18.64m とする。
  - 杭芯は通芯とする。
  - 基礎底は GL-2530 とする。
  - < >内数値は GLからの基礎底レベル を示す。
  - 杭天端は GL-2230 とする。
  - [ ]内数値は GLからの杭天端レベル を示す。

- 印は ボーリング調査位置 を示す。
- 印は 試験杭位置 を示す。(2ヶ所)
- 試験杭により支持層を確認すること。
- その結果が本設計と差異がある場合には設計変更することがある。



2階床梁伏図 1:200

- 共通事項（特記なき限り）
- スラブ符号は S16 とする。
  - スラブ天端は FL-10 とする。
  - 大梁天端は FL-10 とする。
  - 小梁天端は FL-10 とする。
  - ( )内数値は FLからの梁天端レベル を示す。
  - 壁符号は W18 とする。
  - 耐震スリット(三方スリット)を示す。
  - 印 梁天端は水勾配により、スラブ天端は 2FL-110~250 とする。

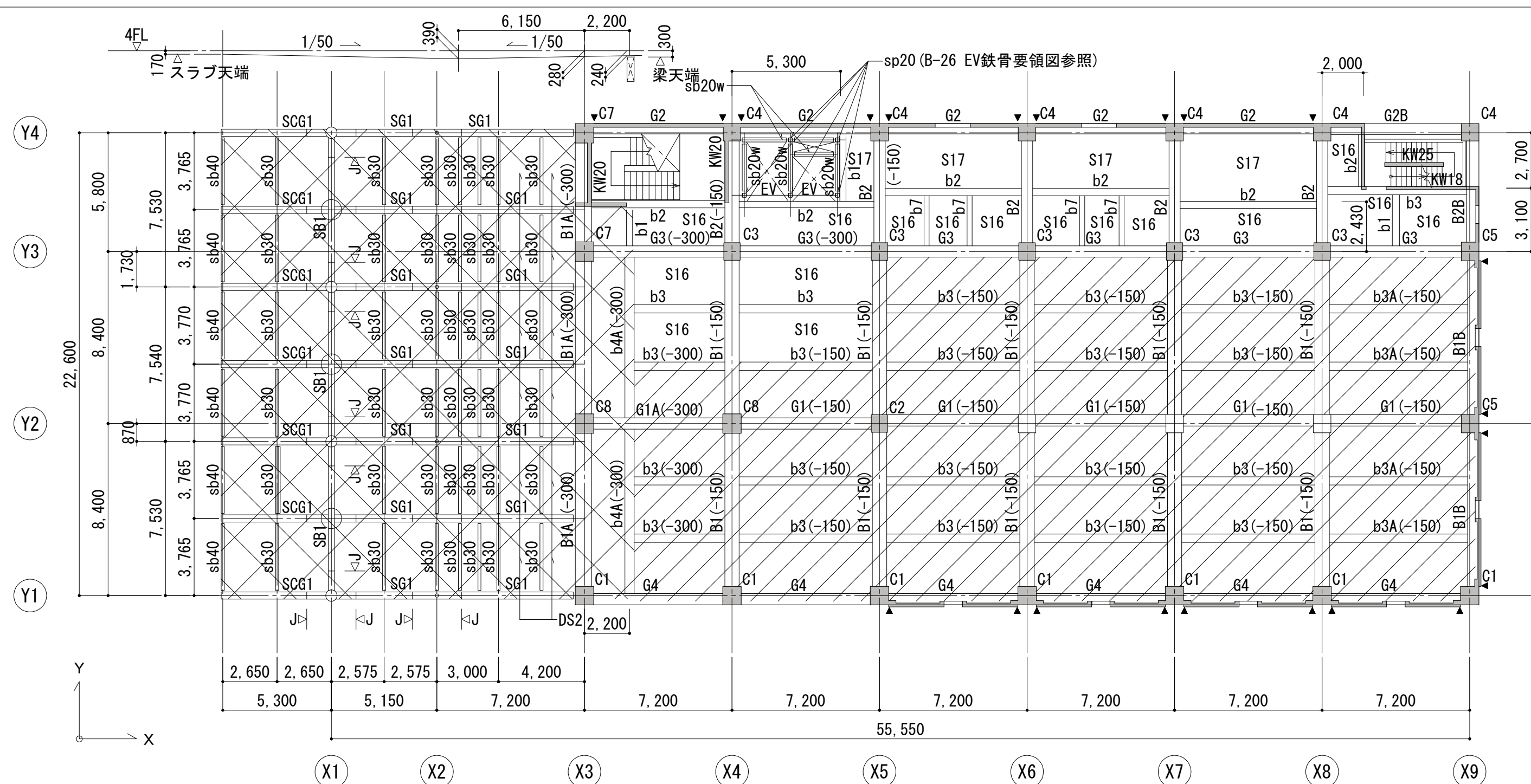


1階床梁伏図 1:200

- 共通事項（特記なき限り）
- IFL=設計GL+20 とする。
  - 設計GL=T.P.+18.64m とする。
  - スラブ符号は S16 とする。
  - スラブ天端は 1FL-10 とする。
  - 基礎梁天端は 1FL-160 とする。
  - 小梁天端は 1FL-160 とする。
  - ( )内数値は 1FLからの梁天端レベル を示す。
  - 印は 床点検口位置 を示す。
  - 印は 土間コンクリート を示す。
  - 印は スラブ天端=FL-50 とする。
  - 壁符号は W18 とする。
  - 耐震スリット(三方スリット)を示す。
  - 印範囲 方向に 水勾配T.P.18.65~T.P.18.62 とする。

明石市政局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
代表設計者		一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号	B	建築工事		最終版	2024.12.02
森 雅章		一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号		伏図(1)		A1 1:200 A3 1:400	見直し版 2024.12.16
構造設計一級建築士 秋田 智		第5193号	11	安井建築設計事務所		最終契約版	









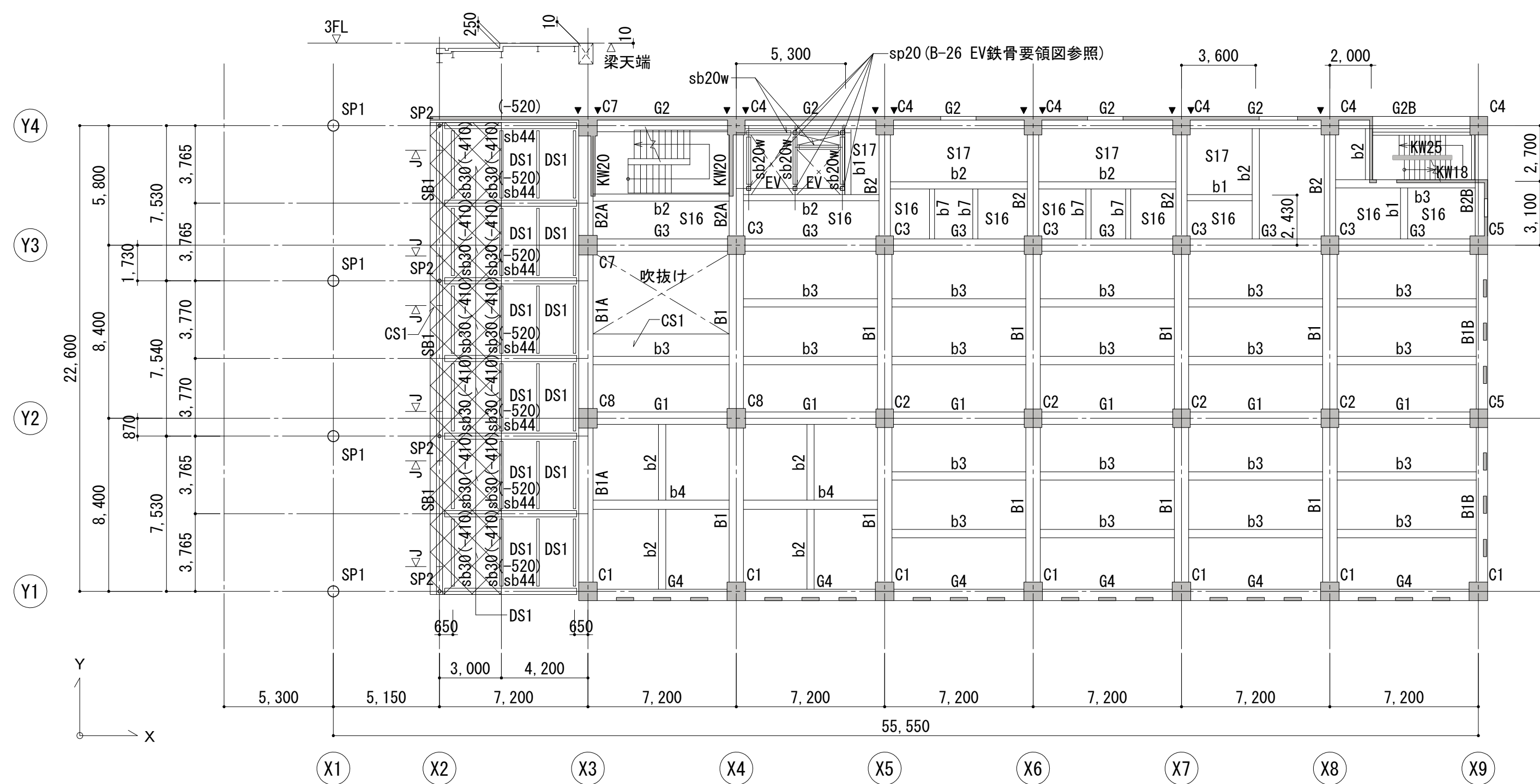
4階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブ符号は S18 とする。
- スラブ天端は FL-10 とする。
- 大梁天端は FL-10 とする。
- 小梁天端は FL-10 とする。
- (    ) 内数値は FLからの梁天端レベルを示す。

- 壁符号は W18 とする。
  - ◀ ▼ 印は 耐震スリット(三方スリット)を示す。
  -  印は スラブ天端=FL-300 とする。
  -  印のスラブ符号は DS1 とし、
- スラブ天端は水勾配による。

- 鉄骨大梁天端は FL-650 とする。
- 鉄骨小梁天端は 水勾配による。
-  印は 梁剛接合を示す。
-  J 印は 現場継手位置 (柱芯より1200) を示す。





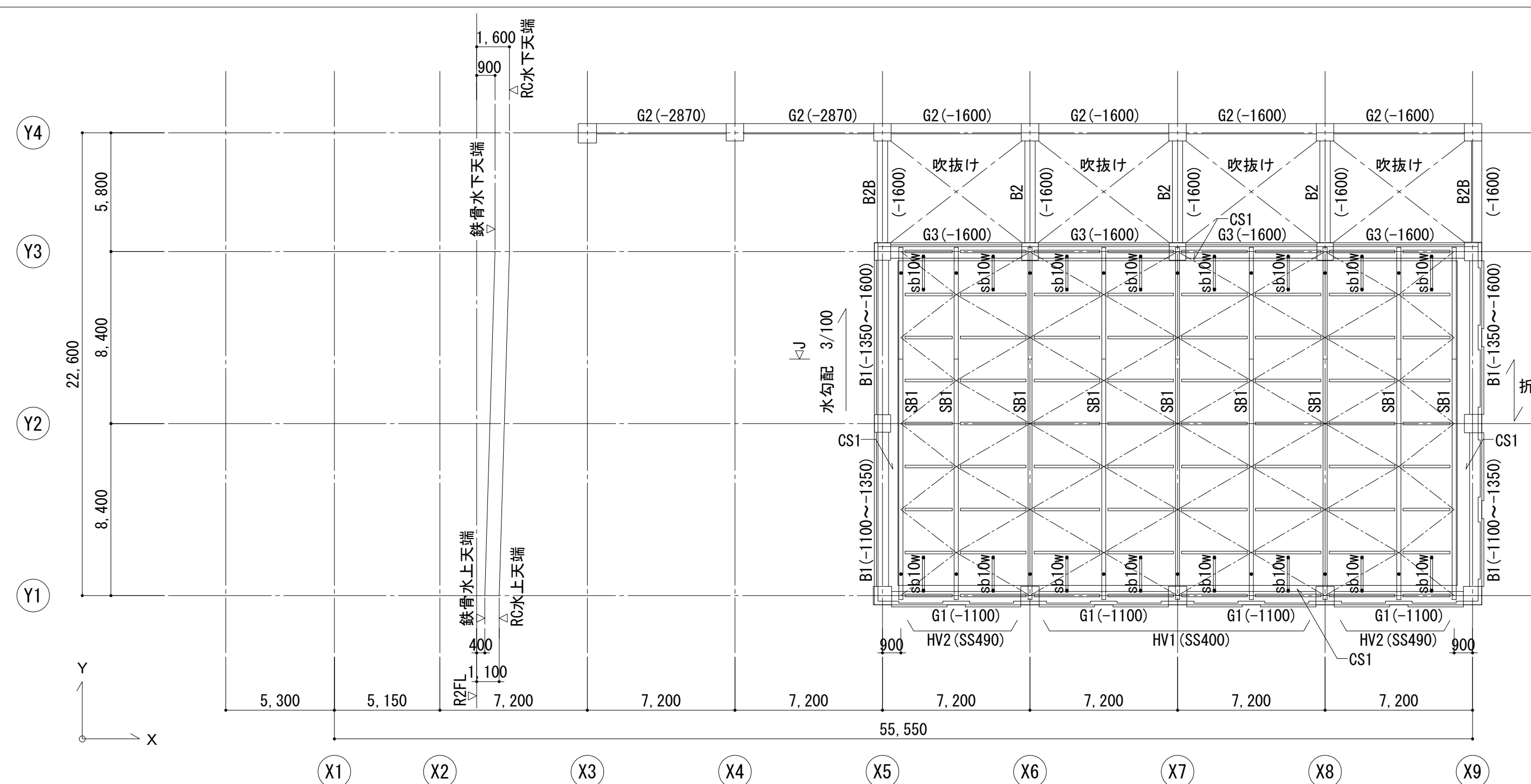
3階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- スラブ符号は \$I9\$ とする。
- スラブ天端は FL-10 とする。
- 大梁天端は FL-10 とする。
- 小梁天端は FL-10 とする。
- (    ) 内数値は FLからの梁天端レベルを示す。

- 壁符号は W18 とする。
- ◀ ▼ 印は 耐震スリット(三方スリット) を示す。
- 鉄骨大梁天端は FL-510 とする。
- 鉄骨小梁天端は FL-160 とする。
- 鉄骨小梁符号は sb25 とする。

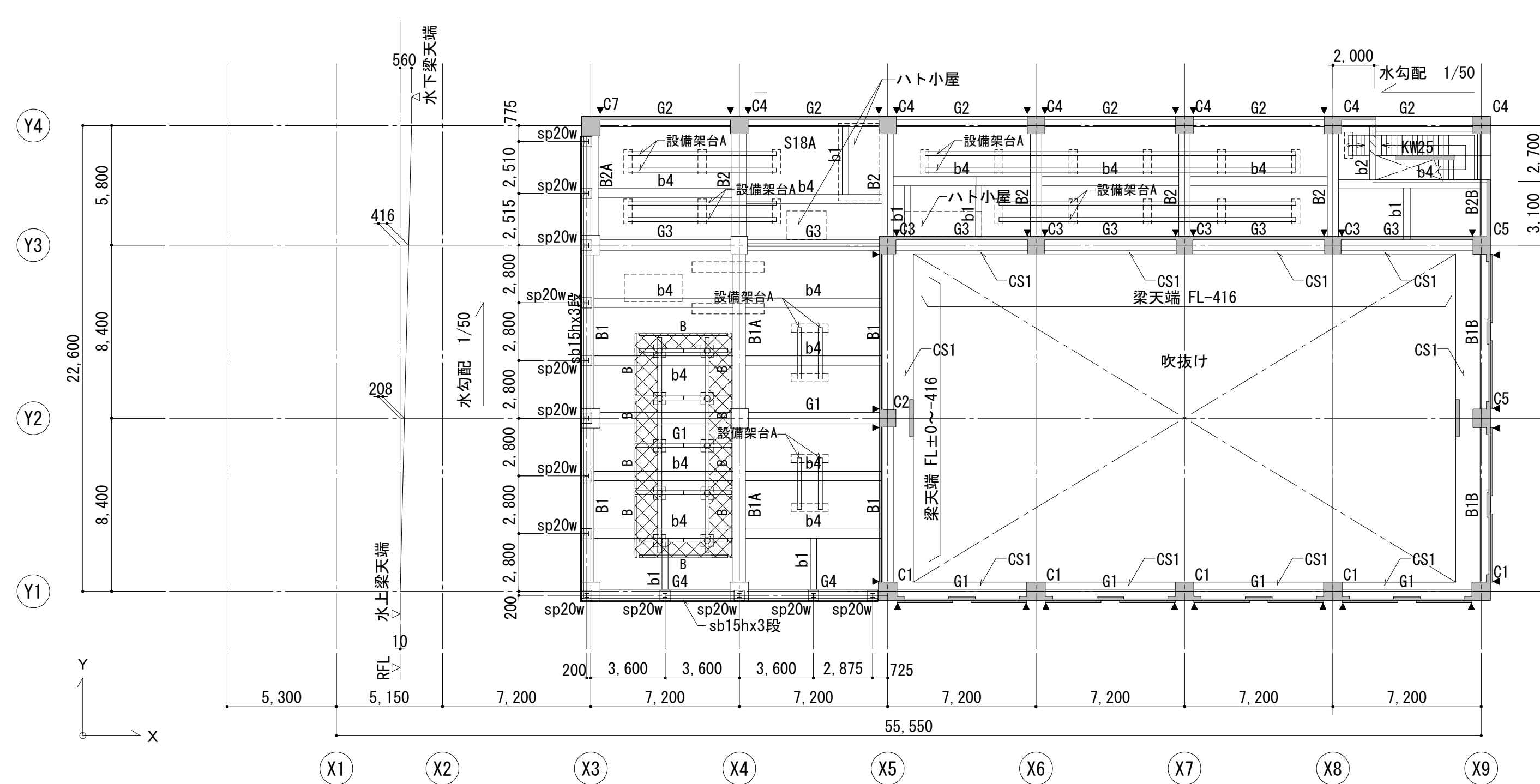
-  印は スラブ天端=FL-250 とし、  
鉄骨小梁天端は FL-410 とする。
-  印は 現場継手位置(柱芯より1200)を示す。



R2階床梁伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）

- |                                                                                                                                    |                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 梁天端は 水勾配による。<br>◦ ( ) 内数値は FLからの梁天端レベル を示す。<br>◦ 鉄骨大梁天端は 水勾配 による。<br>◦ 鉄骨小梁天端は 鉄骨大梁天端+50 とする。<br>◦ 鉄骨大梁上部は C-100×50×20×2.3 を設けること。 | ◦ 鉄骨小梁符号は sb25a とする。<br>◦  印は 水平プレート (HV1 HV2 L-65x65x8) を示す。<br>◦  印は 現場接合方式を示す。<br>◦ sb10w下端は sb25aの下端揃え とする。<br>◦ ● 印位置の梁下に C-100×50x20x3, 2(L=200) を取付る。 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|






R階床梁伏図	1:200
--------	-------

共通事項（特記なき限り）

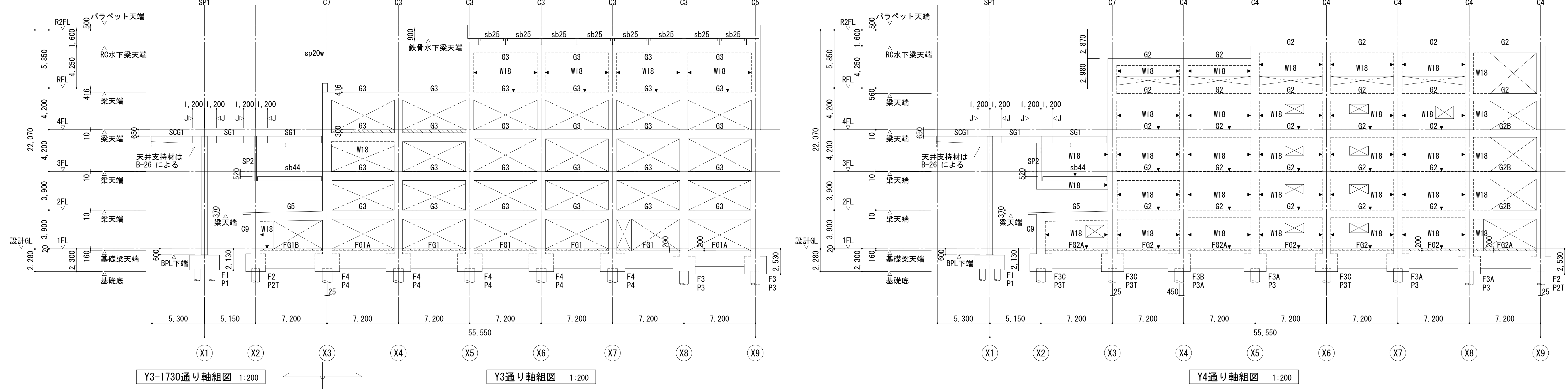
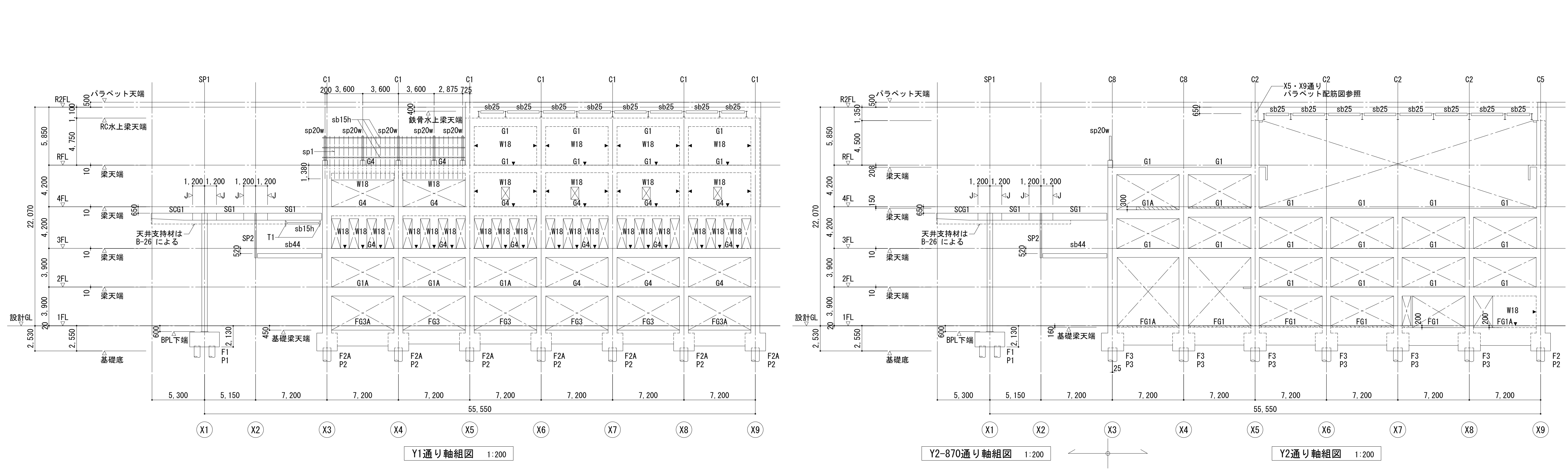
- スラブ符号は S19 とする。
- スラブ天端は 水勾配による。
- 梁天端は 水勾配による。
- 小梁天端は 水勾配による。
- ( ) 内数値は FLからの梁天端レベル を示す。

- 壁符号は W18 とする。
- ◀ ▼ 印は 耐震スリット(三方スリット) を示す。
- CS1スラブ天端は RFL-560 とする。
- 設備架台AはH-200x200x8x12 (SN400A)、
- ABOLT-4-M16 (L=25d、二重ナット締め) とする。

- 歩廊受けABIは[-200x80x7.5x11(SS400)、  
GPL-9、2-M16 (F8T) とする。
- 印はメンテナンス歩廊を示し、  
根太L-50x50x6@300 (SS400) とする。
- 印は 梁剛接合を示す。

 <b>明石市政策局 プロジェクト推進室</b>			<b>西明石地域交流センター icotto 建設工事</b>		
<代表設計者> 一級建築士 森 雅章 <構造設計者> 一級建築士 構造設計一級建築士 秋田 智	国土交通大臣登録 第300703号	B	<b>建築工事</b>	A1 1:200 A3 1:400	最終版 2024. 12. 02
	国土交通大臣登録 第308030号 第5193号	12	伏図(2)		見積版 2024. 12. 16
<b>安井建築設計事務所</b>				最終契約版	

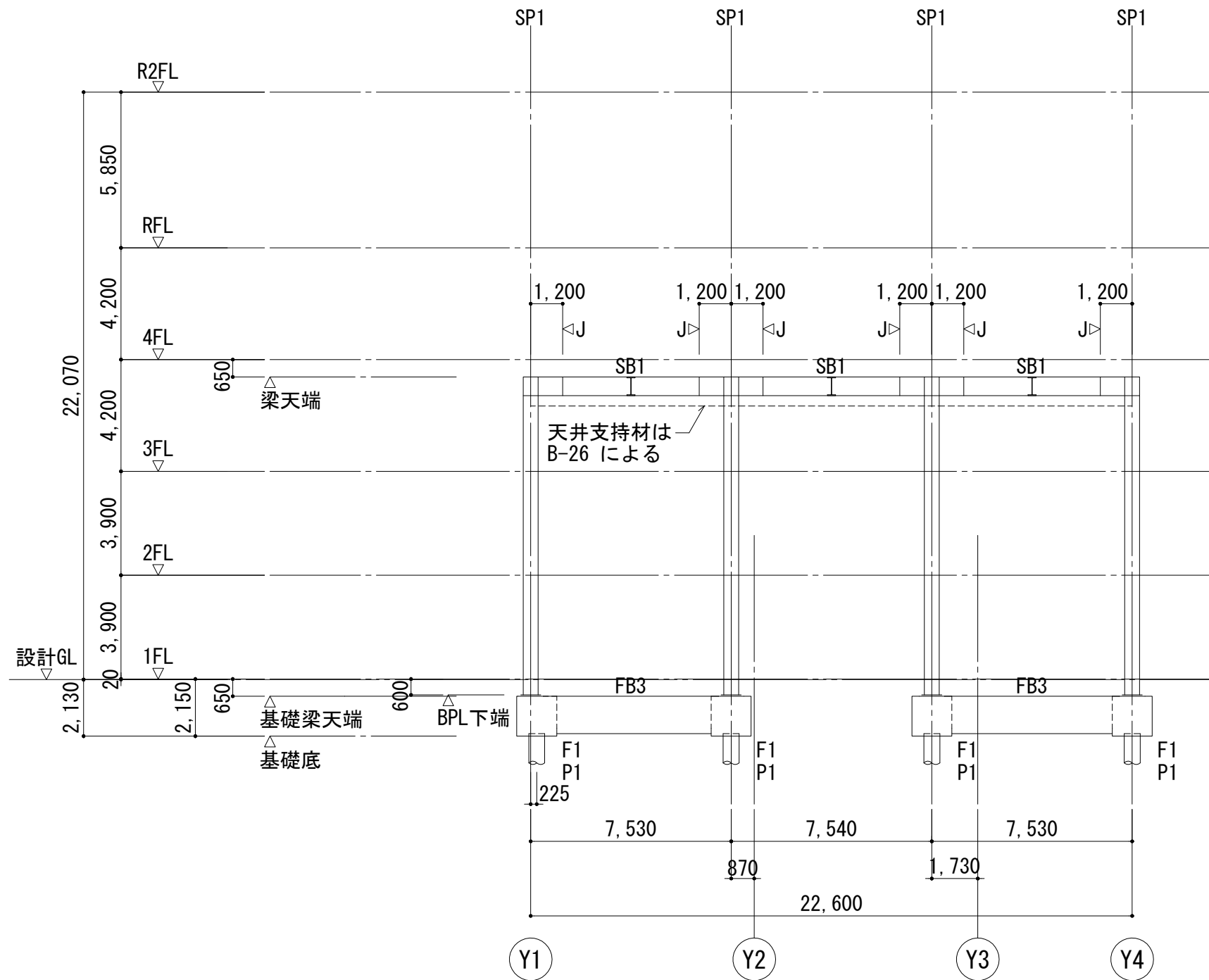




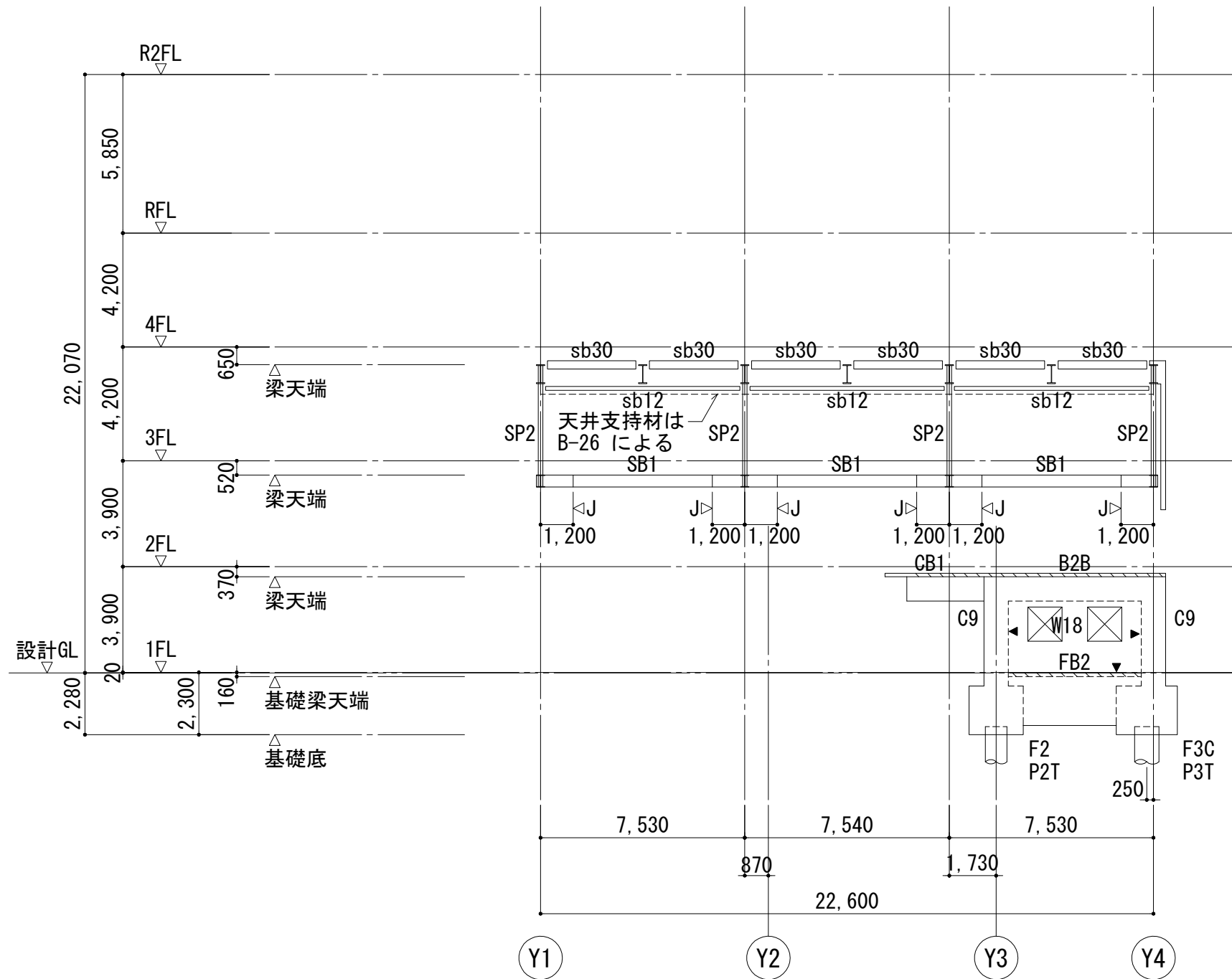
共通事項（特記なき限り）

- ◁J印は 現場継手位置 を示す。
- ◁▼印は 耐震スリット を示す。
- ◁印は 増打 を示す。

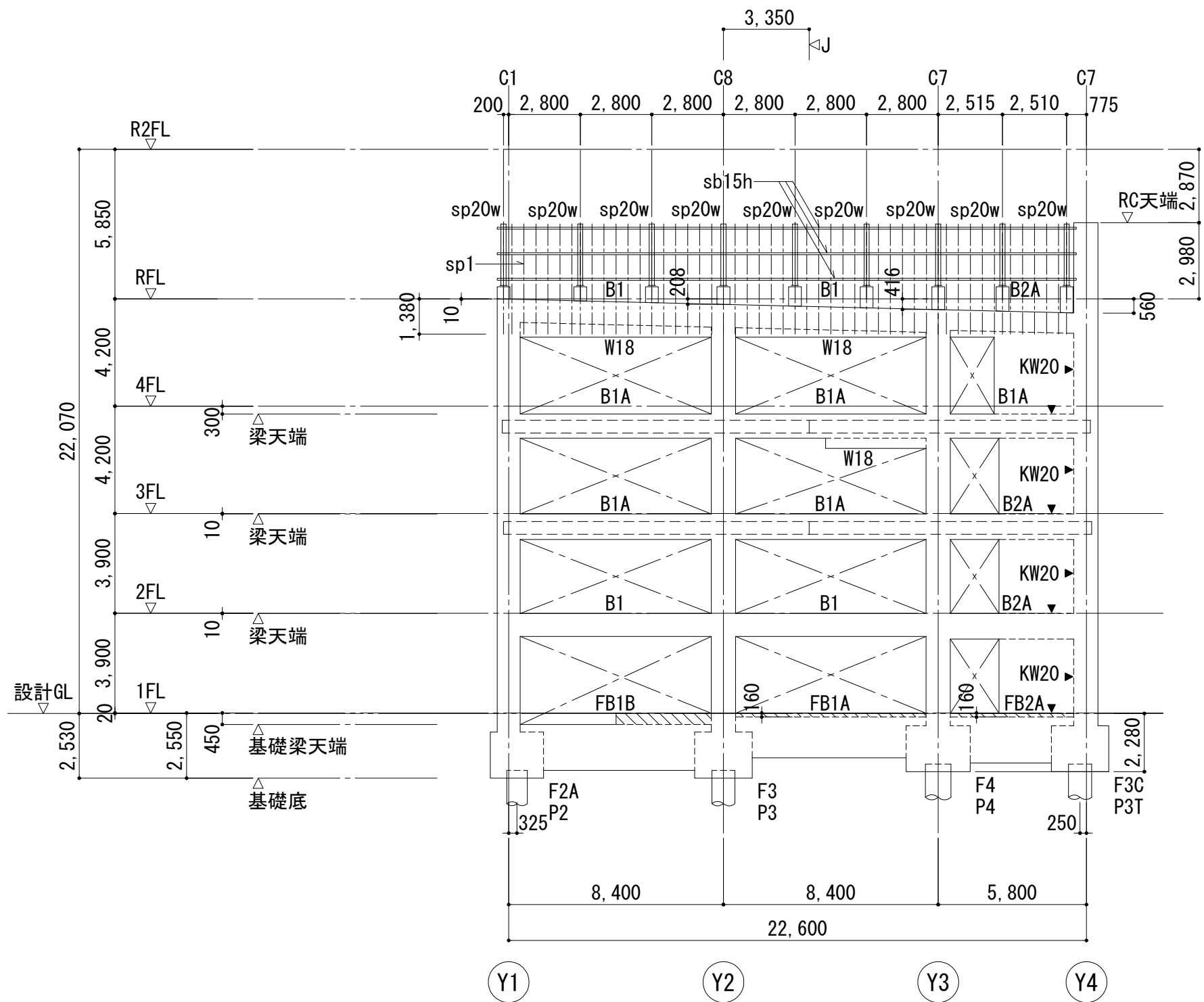
明石市政策局 プロジェクト推進室		西明石地域交流センター icotto 建設工事			
＜代表設計者＞	一級建築士 森 雅章	B	建築工事		最終版 2024.12.02
＜構造設計者＞	一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号	13	軸組図 (1)	A1 1:200	最終版 2024.12.16
	構造設計一級建築士 秋田 智			A3 1:400	
			安井建築設計事務所		最終契約版



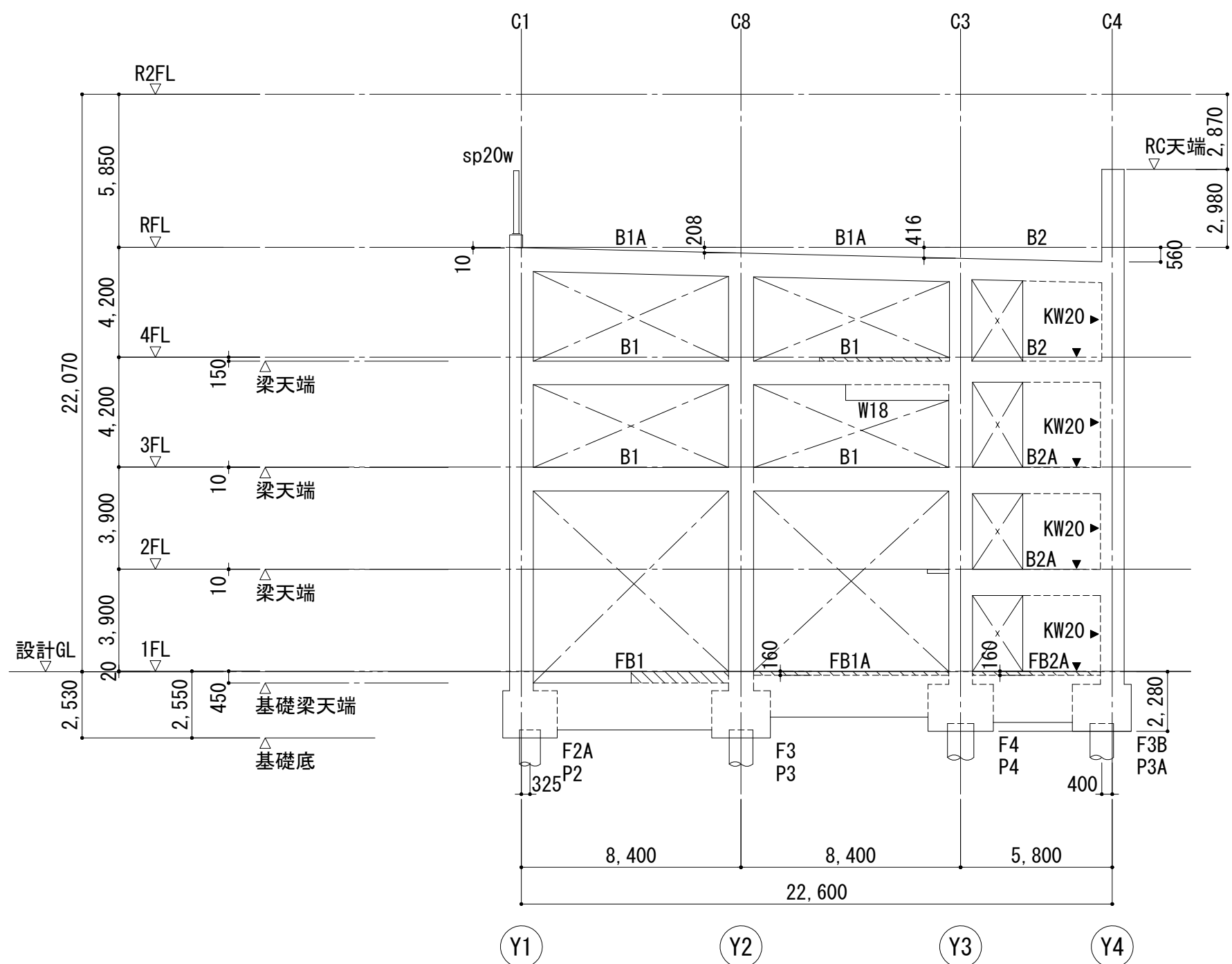
X1通リ軸組図 1:200



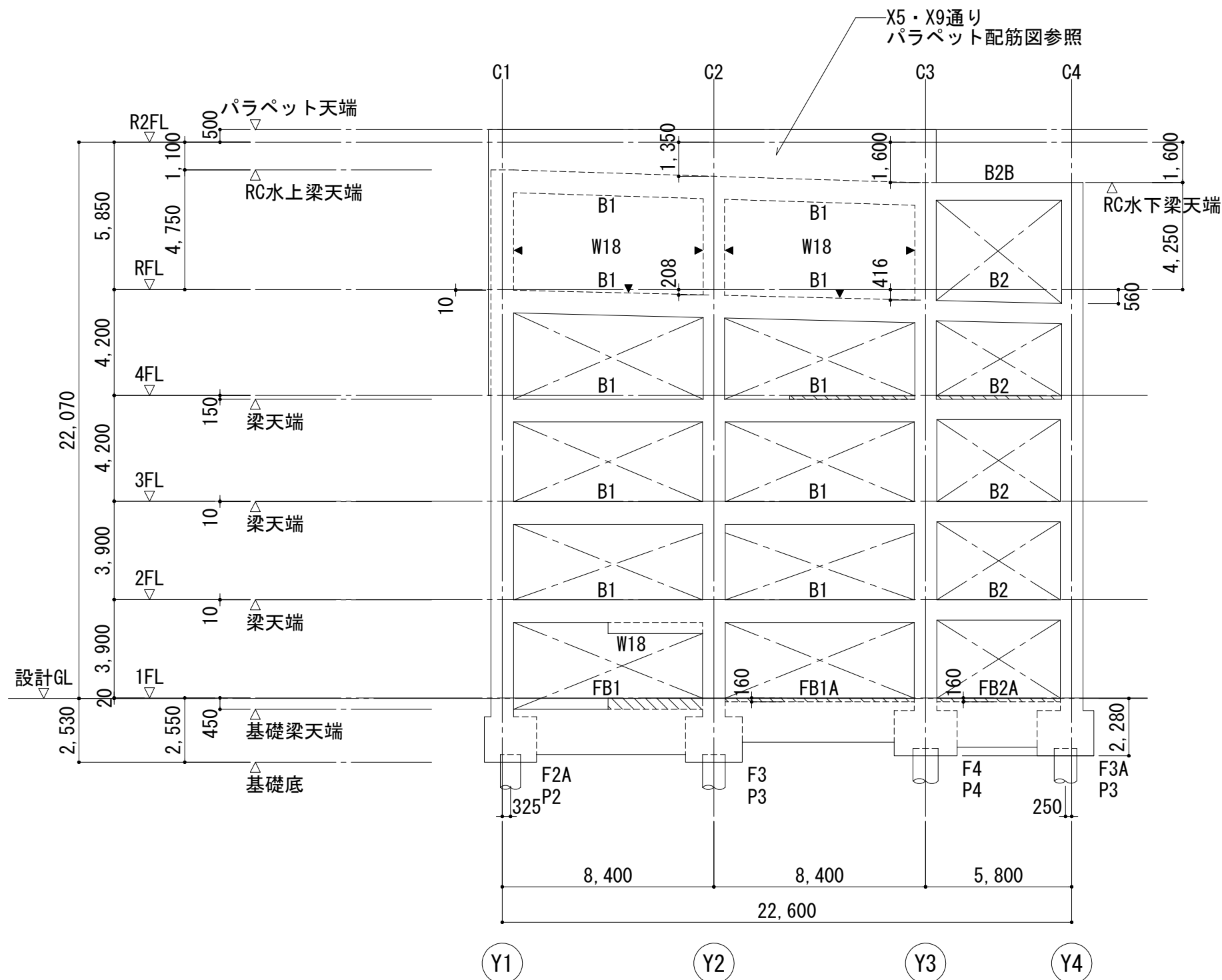
X2通リ軸組図 1:200



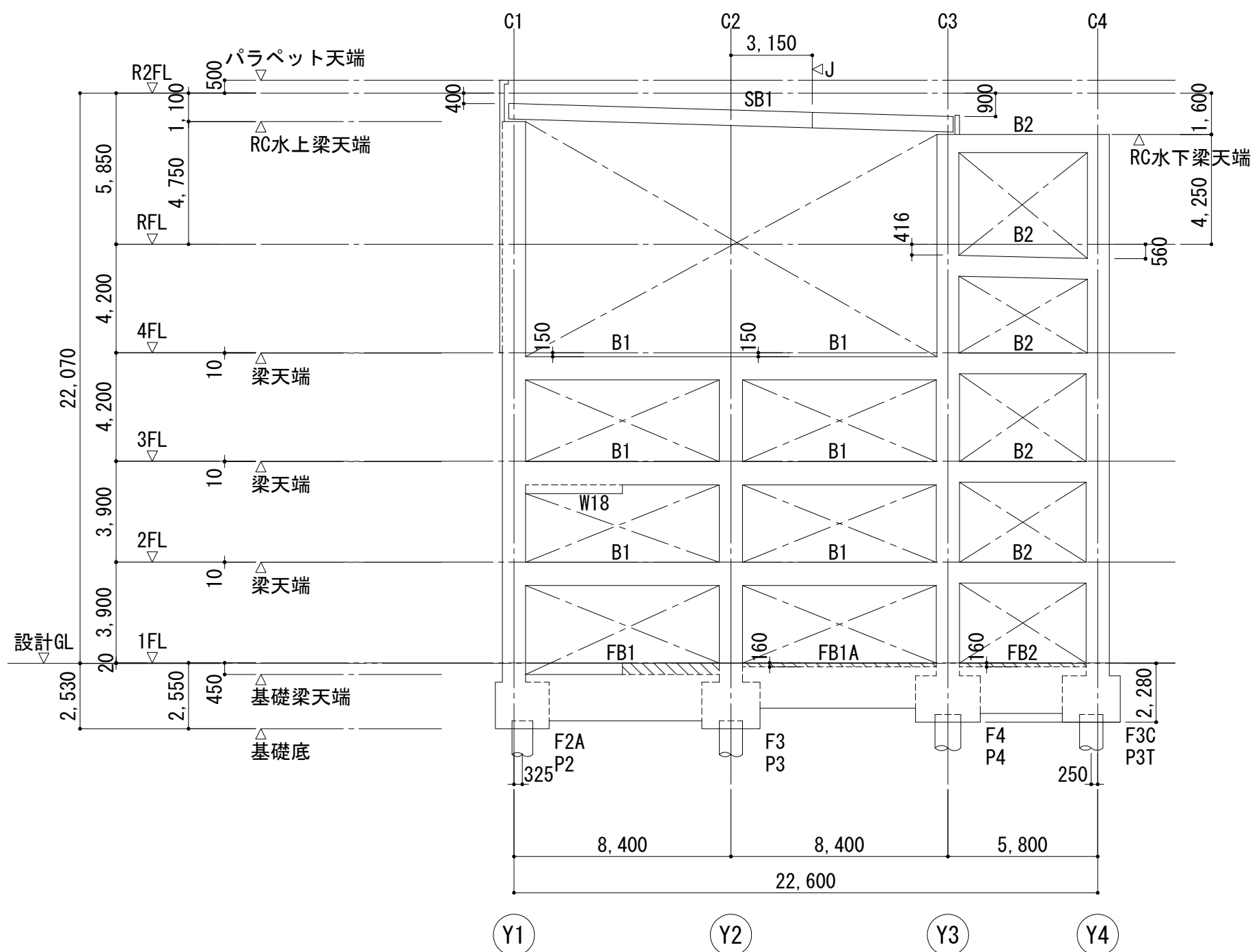
X3通リ軸組図 1:200



X4通リ軸組図 1:200



X5通リ軸組図 1:200



X6通リ軸組図 1:200

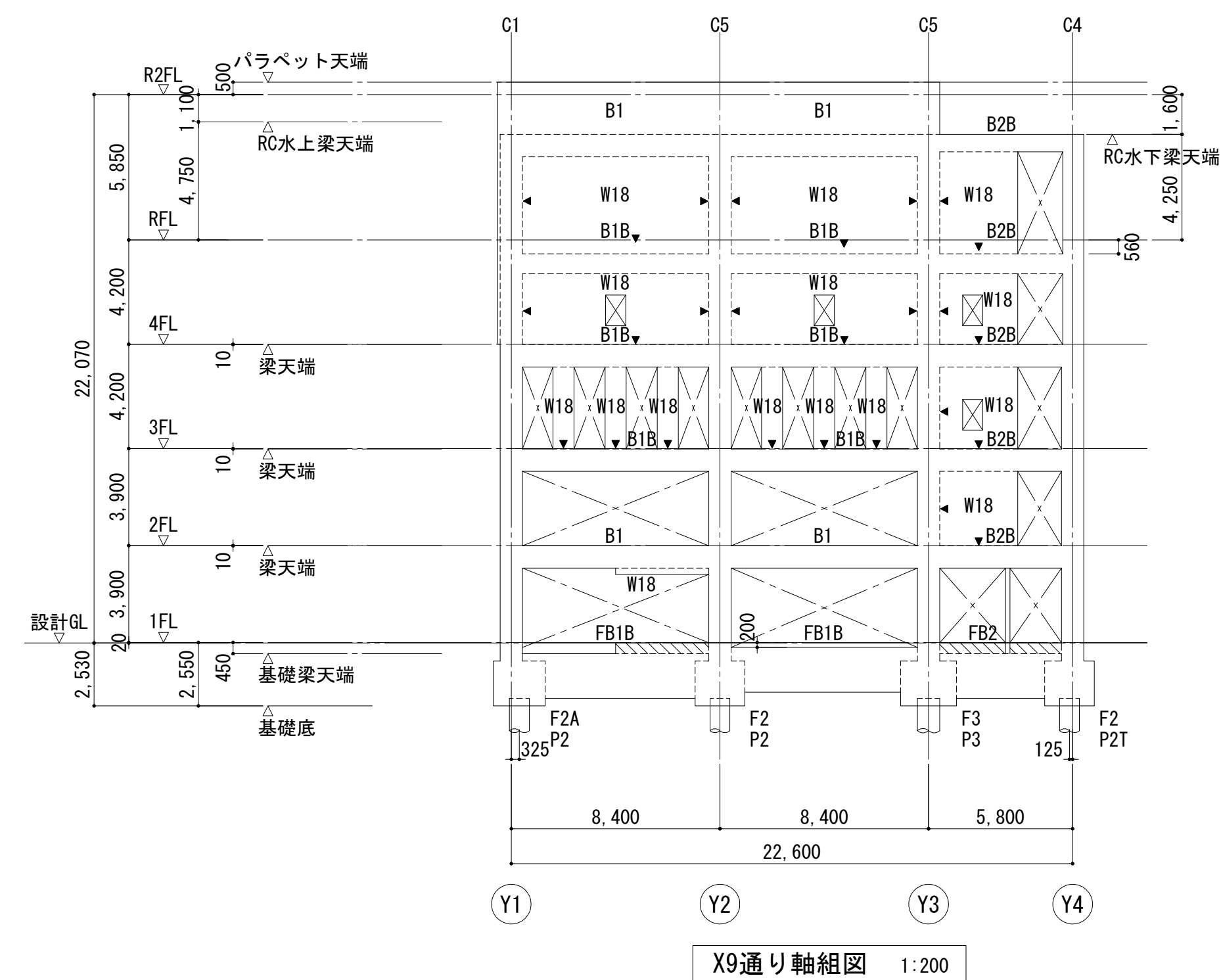
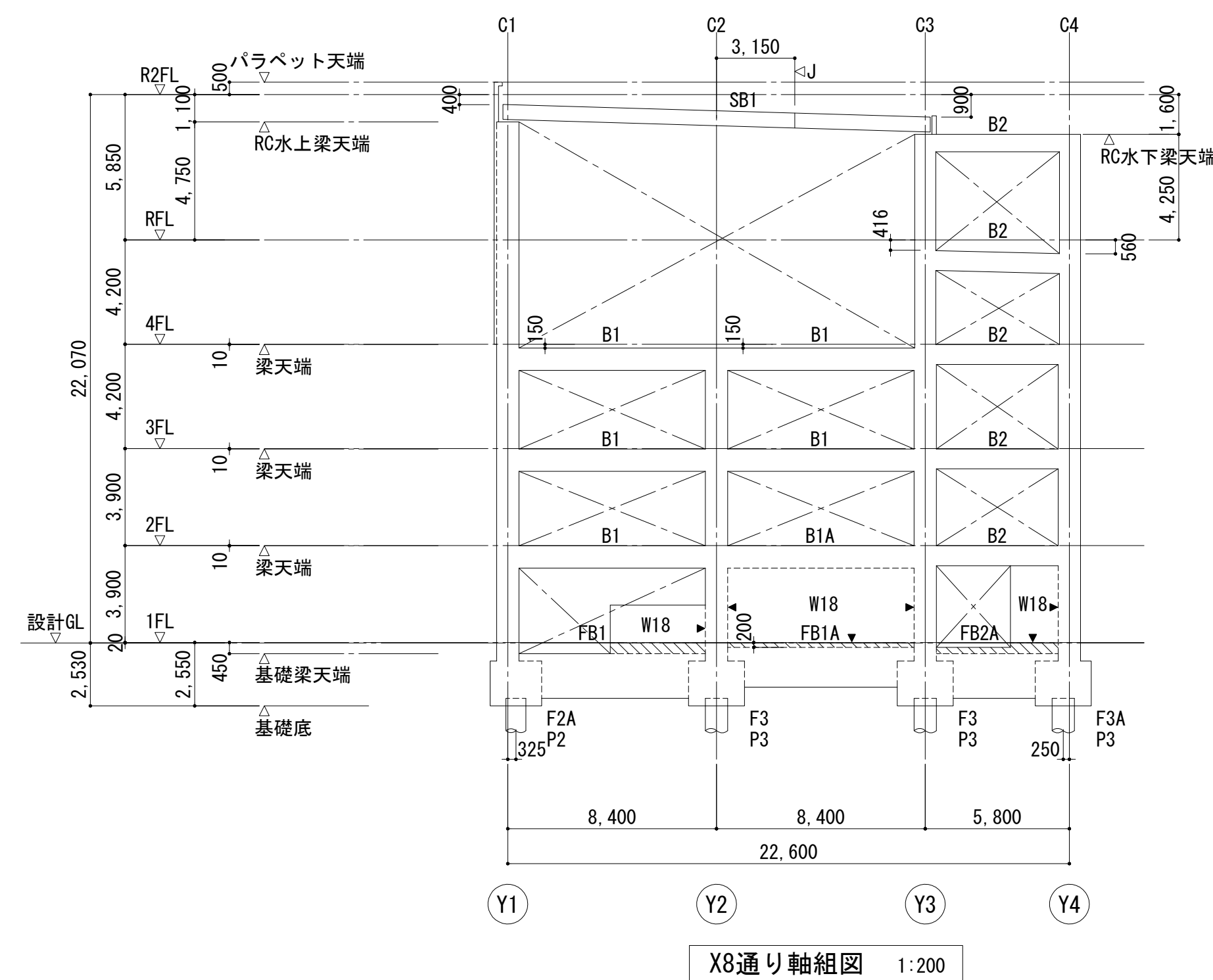
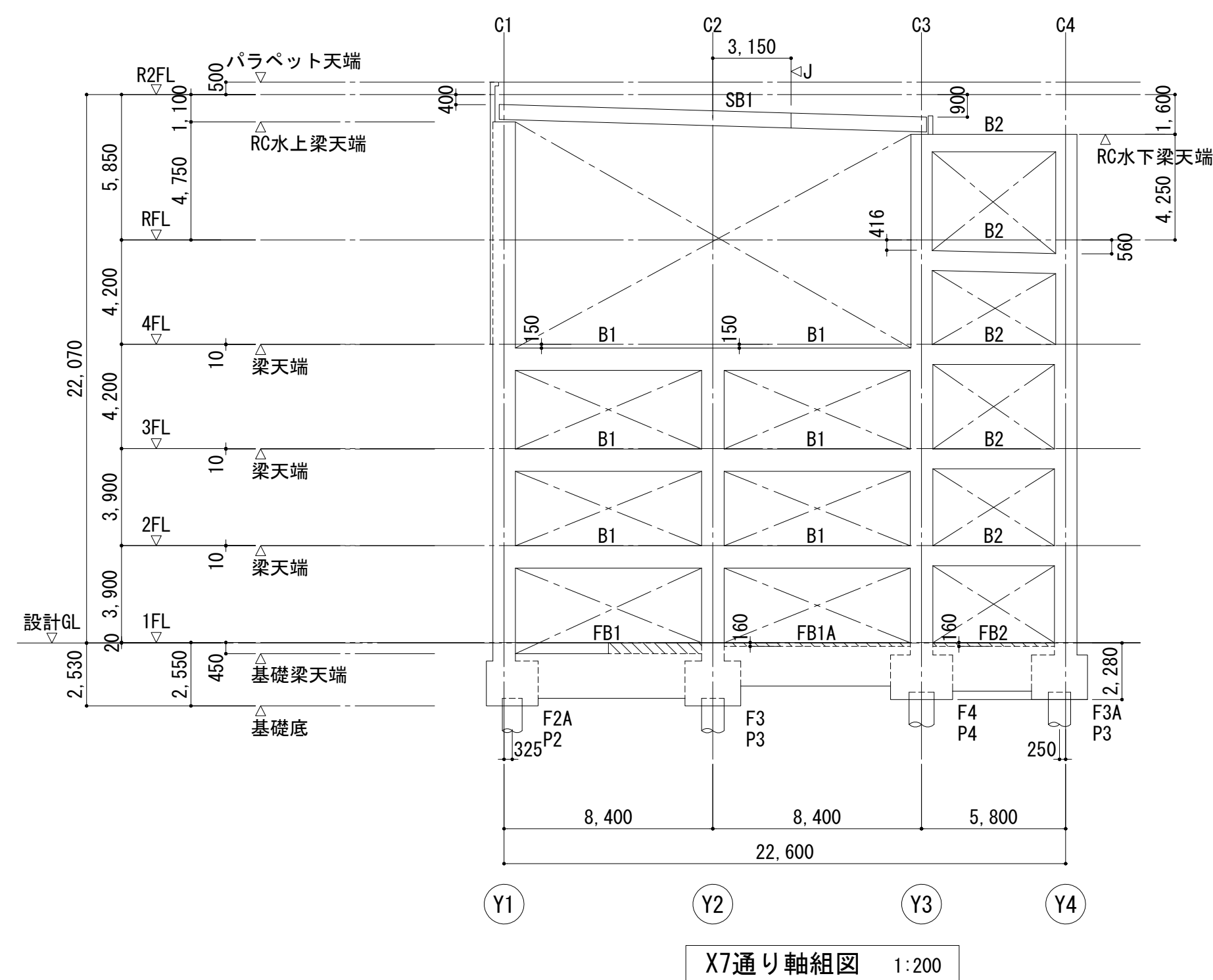
共通事項（特記なき限り）

◁J印は 現場継手位置 を示す。




◁▼印は 耐震スリット を示す。


◁印は 増打 を示す。

明石市政局 プロジェクト推進室		西明石地域交流センター icotto 建設工事	
＜代表設計者＞ 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 森 雅章	B	建築工事	最終版 2024.12.02
	14	軸組図（2）	A1 1:200 A3 1:400 見積版 2024.12.16
＜構造設計者＞ 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 秋田 智		安井建築設計事務所	
		最終契約版	



共通事項（特記なき限り）

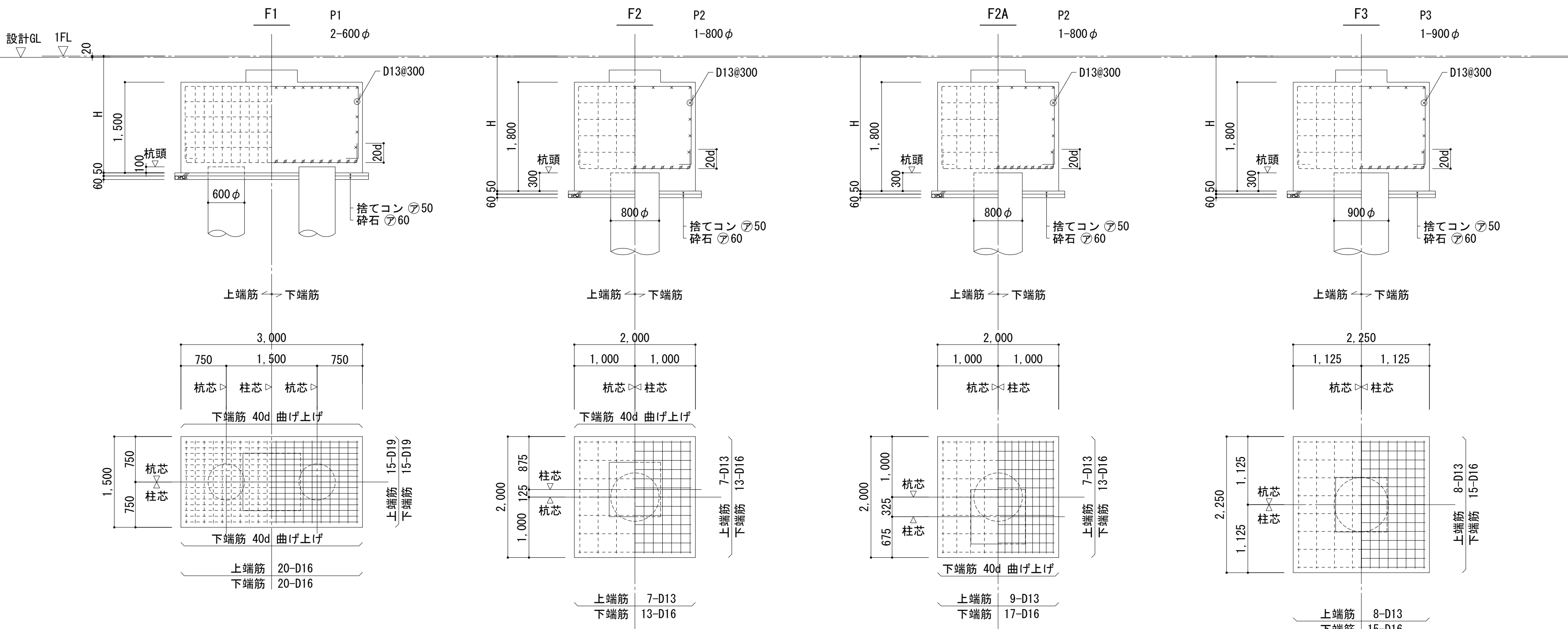
-  K 印は 現場継手位置 を示す。
-  印は 耐震スリット を示す。
-  印は 増打 を示す。

 <b>明石市政策局 プロジェクト推進室</b>		<b>西明石地域交流センター icotto 建設工事</b>			
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 <b>森 雅章</b>		B	<b>建築工事</b>		最終版 2024. 12. 02
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号 <b>秋田 智</b>		15	軸組図 (3) <div>             A1 1:200              A3 1:400           </div>		見稿版 2024. 12. 16
		<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版

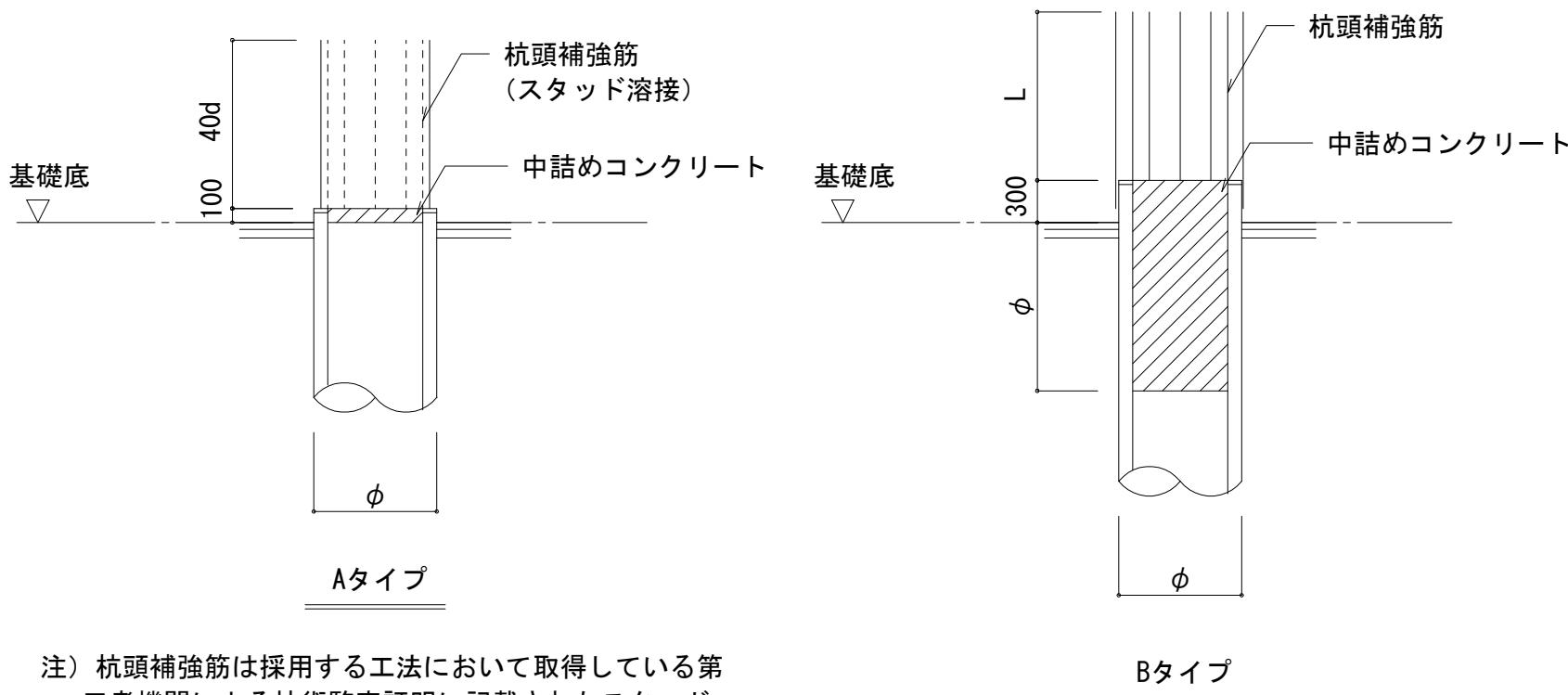
基礎リスト

1:50

- 共通事項（特記なき限り）
- 基礎深さHは 杭・基礎伏図 による。
  - 基礎下地業は 捨コンクリート ㊲50、碎石 ㊲60 とする。

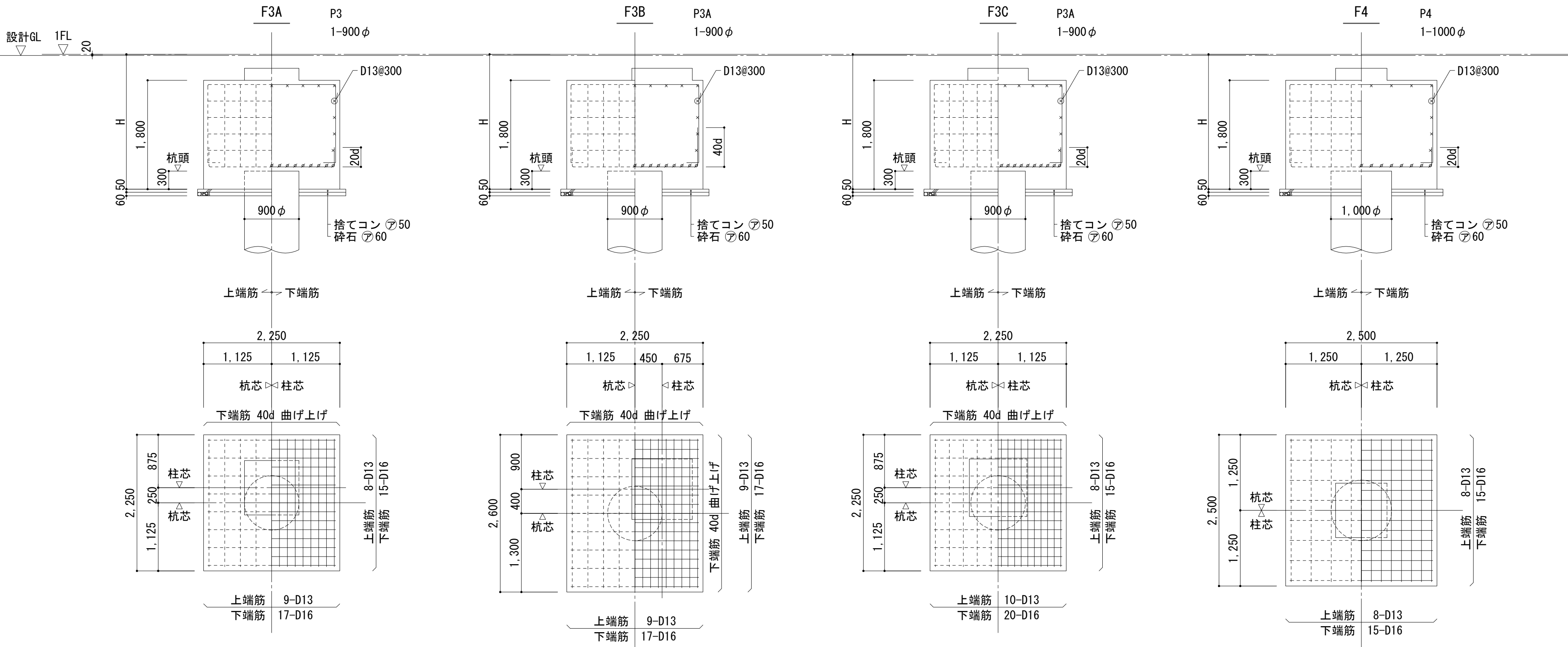


杭頭補強要領



注）杭頭補強筋は採用する工法において取得している第三者機関による技術監査証明に記載されたスタッド鉄筋に適合する鉄筋を使用すること。

タイプ	符号	杭径 (φ)	杭頭補強筋	備 考
A	P1	600	8-D25	
	P2	800	14-D38	開先付異形棒鋼 (SD390相当大臣認定品) L=1330mm
B	P2T	800	16-D38	開先付異形棒鋼 (SD390相当大臣認定品) L=1330mm
	P3	900	16-D38	開先付異形棒鋼 (SD390相当大臣認定品) L=1330mm
	P3A	900	14-D38	開先付異形棒鋼 (SD390相当大臣認定品) L=1330mm
	P3T	900	16-D38	開先付異形棒鋼 (SD390相当大臣認定品) L=1330mm
	P4	1000	14-D38	開先付異形棒鋼 (SD390相当大臣認定品) L=1330mm



明石市政政策局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
〈代表設計者〉	一級建築士 森 雅章	国土交通大臣登録 第300703号	B	建築工事	最終版		2024. 12. 02
			16	基礎リスト	A1 1: 50 A3 1:100	見直し版	2024. 12. 16
〈構造設計者〉 一級建築士 構造設計一級建築士 秋田 智				安井建築設計事務所			
				最終契約版			



基礎梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り）			共通事項（特記なき限り）			共通事項（特記なき限り）		
		幅止筋は D10@1000以内 とする。			2段受け筋は D16@1000以内 とする。			FG梁主筋は、先組鉄筋とし、FB梁主筋は後組鉄筋とする。		
		梁下地業は 捨コンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。			腹筋は 10-D13 とする。					

符 号	FG1		FG1A			FG1B		FG2		FG2A		FG3		FG3A		
位 置	端 部	中 央	㊦3・㊦9 端	中 央	他 端	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	㊦3・㊦9 端	中 央	㊦4・㊦8 端
断 面																
上端筋	9-D29	6-D29	11-D29	6-D29	8-D29	10-D29	8-D29	8-D29	5-D29	11-D29	8-D29	7-D29	5-D29	10-D29	5-D29	8-D29
下端筋	8-D29	8-D29	10-D29	8-D29	8-D29	9-D29	9-D29	7-D29	7-D29	10-D29	10-D29	7-D29	7-D29	10-D29	7-D29	8-D29
スターラップ	□-D16@200		□-D16@200			□-D16@150		□-D16@200		□-D16@150		□-D16@200		□-D16@150		
腹 筋	8-D13											6-D13		8-D13		
備 考	Ld = 3100		Ld = 4100			Ld = 3500		Ld = 3100		Ld = 3800		Ld = 2550		Ld = 3450		
符 号	FB1		FB1A			FB1B		FB2		FB2A		FB3		<div>凡 例</div> <div>スターラップ 4-D13@200 は 右図  -D13@200 を示す。</div> <div><div>・ カットオフ筋の定着要領</div><div></div></div>		
位 置	㊦1 端	中 央	㊦2 端	端 部	中 央	端 部	中 央	全断面		全断面		端 部	中 央			
断 面																
上端筋	16-D29	14-D29	14-D29	7-D29	6-D29	14-D29	12-D29	15-D29		19-D29		6-D29	5-D29			
下端筋	11-D29	9-D29	9-D29	7-D29	7-D29	8-D29	8-D29	14-D29		14-D29		5-D29	5-D29			
スターラップ	▨-D16@200		□-D16@200			□-D16@150		▨-D16@150		▨-D16@150		□-D16@200				
腹 筋			8-D13									6-D13				
備 考	Ld = 3000															

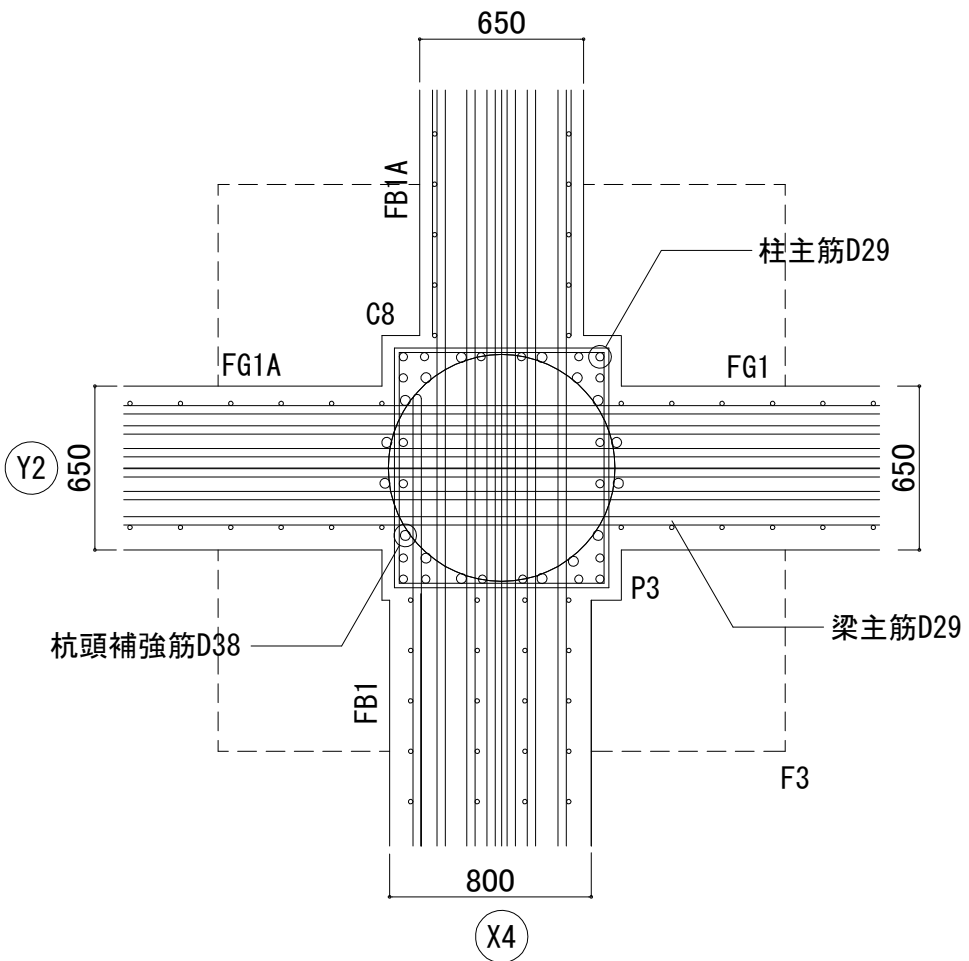
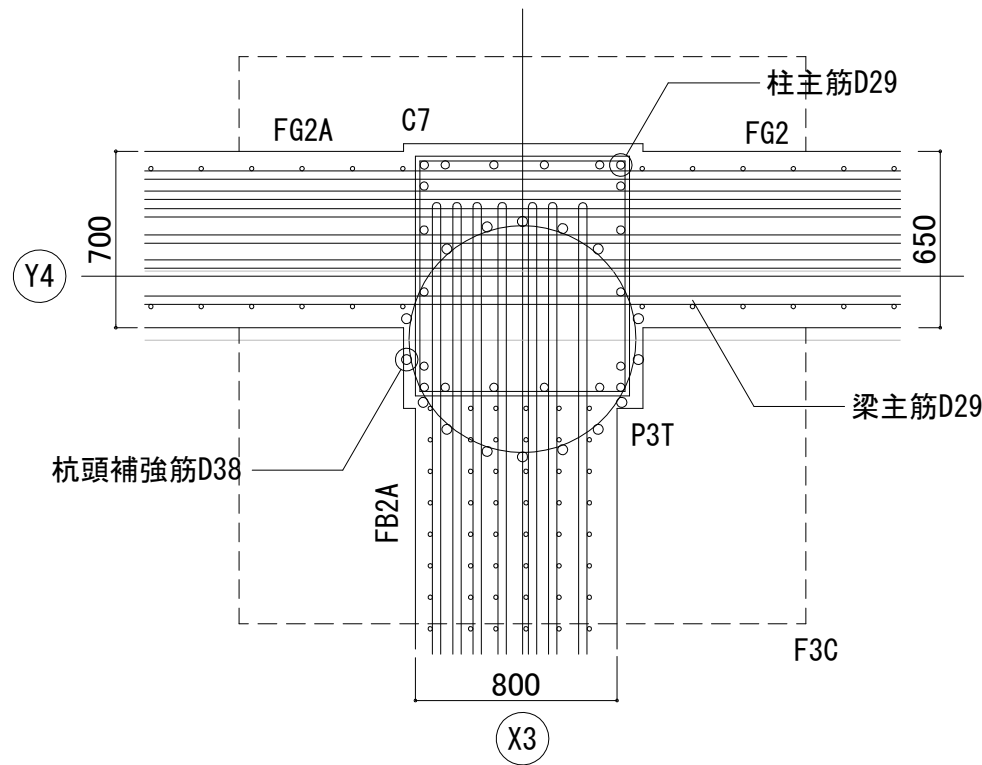
基礎小梁リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）	
幅止筋は D10@1000以内 とする。	
梁下地業は 捨コンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。	
2段受け筋は D16@1000以内 とする。	

符 号	cfb1
位 置	全断面
断 面	
上端筋	6-D22
下端筋	4-D22
スターラップ	□-D13@200
腹 筋	2-D10
備 考	

基礎梁配筋詳細図 1:30

共通事項（特記なき限り）	
SD295A D16以下、SD345 D19～D25、SD390 D29以上	



明石市政政局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
〈代表設計者〉	一級建築士 森 雅章	国土交通大臣登録 第300703号	B	建築工事		最終版	2024.12.02
				17	基礎梁・基礎小梁リスト	A1 1:50 A3 1:100 見積版	2024.12.16
〈構造設計者〉	一級建築士 秋田 智	国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号				最終契約版	



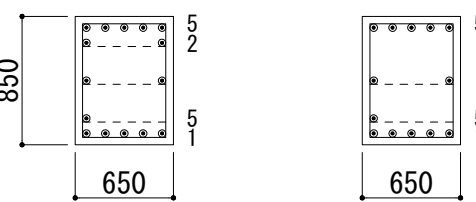
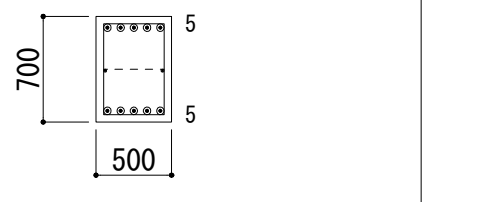
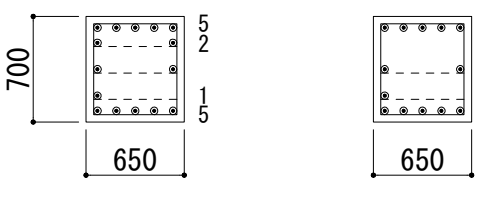
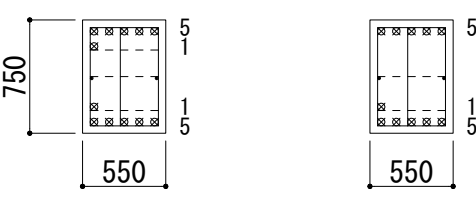
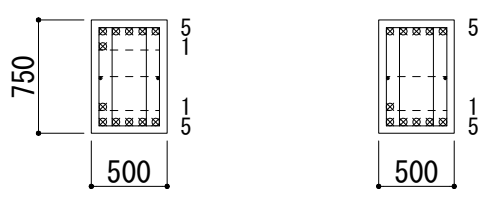
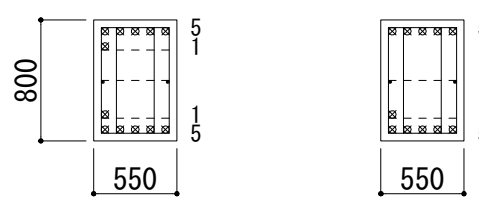
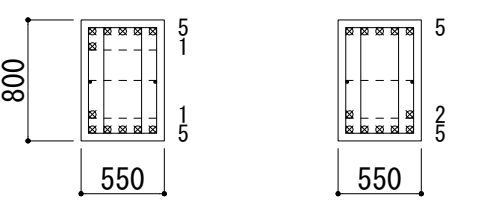
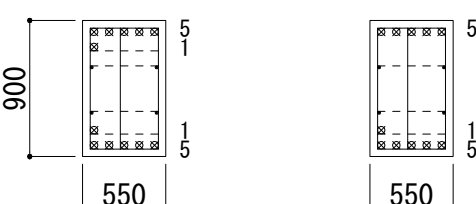
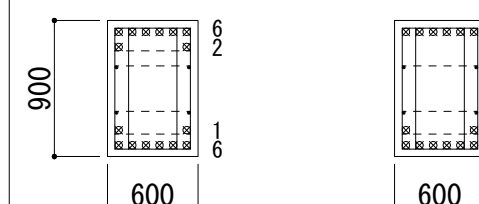
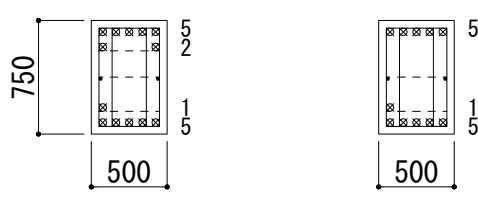
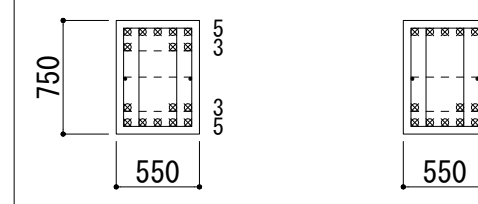
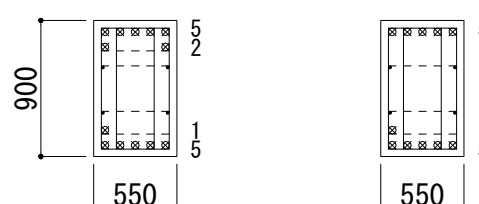
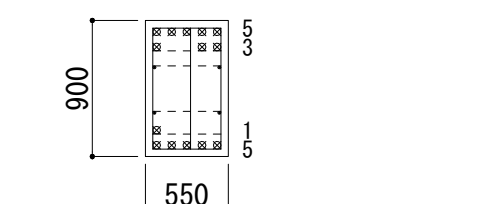
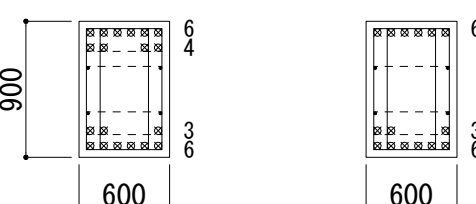
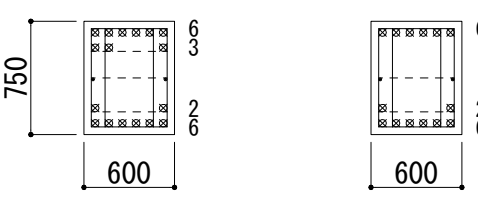
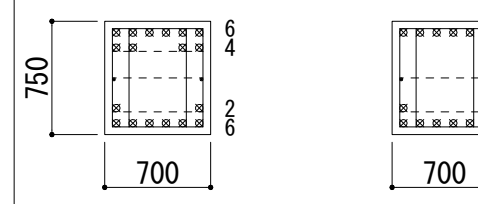
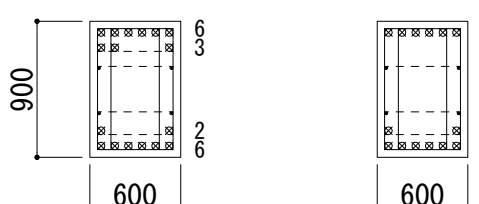
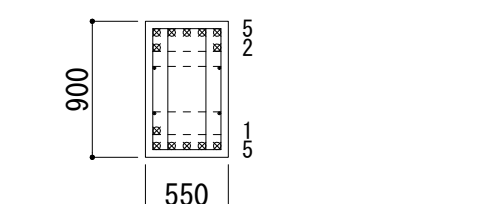
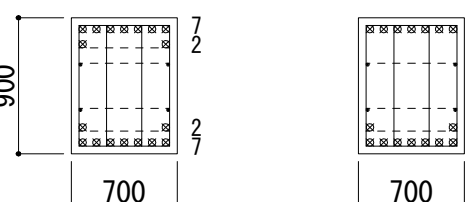
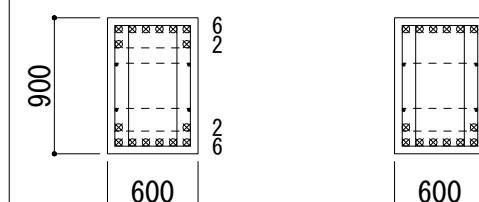
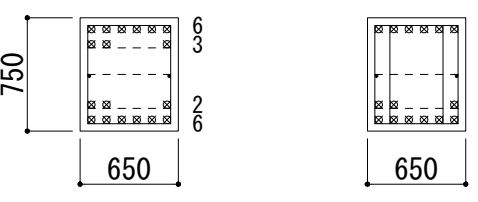
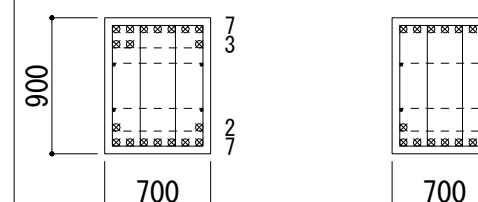
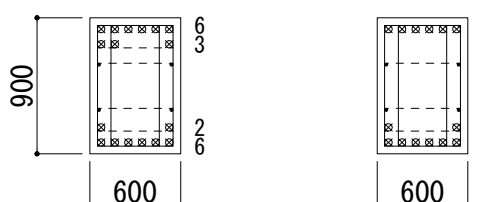
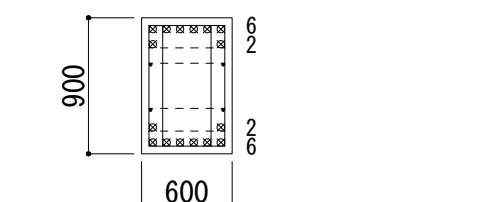
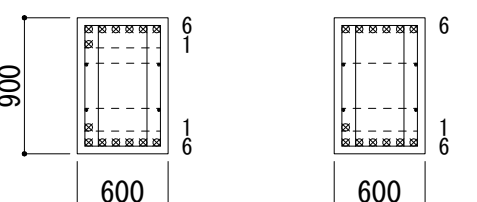
共通事項（特記なき限り）  
 ◦ 柱のフープは 溶接閉鎖型とする。  
 ◦ 〇・〓印は 寄せ筋（主筋間隔2.7d）を示す。  
 ◦ 隣接する柱主筋の最大ピッチaが400mmを超えるときは  
 補助筋 1-D16 を主筋間に入れる。（定着不要）

柱リスト 1:50

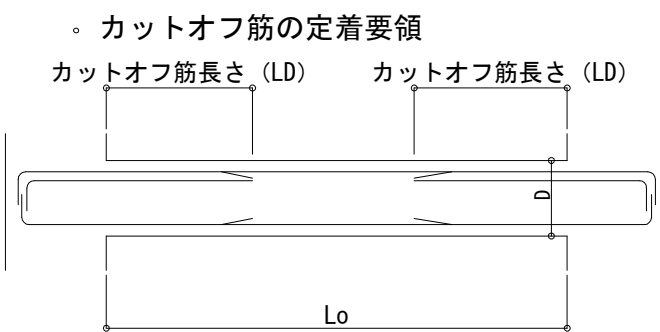
階	符 号	C1	C2	C3	C4	C5	C7	C8	C9
5階	断 面								
	主 筋	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D25	16-D29		
	フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100		
	柱梁接合部フープ	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150		
	備 考								
4階	断 面								
	主 筋	18-D29	16-D29	18-D29	20-D29	20-D29	16-D29	16-D29	
	フープ	□-D13@100	□-D16@100	□-D16@100	□-D13@100	□-D16@100	□-D13@100	□-D13@100	
	柱梁接合部フープ	□-D13@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D13@150	□-D16@150	□-D13@150	□-D13@150	
	備 考								
3階	断 面								
	主 筋	18-D29	20-D29	18-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	
	フープ	3x3□-D16@100	4x3□-D16@100	3x3□-D16@100	□-D16@100	□-D16@100	4x3□-D16@100	3x3□-D16@100	
	柱梁接合部フープ	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	
	備 考								
2階	断 面								
	主 筋	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	22-D29	20-D29	
	フープ	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	5x3□-D16@100	3x3□-D16@100	
	柱梁接合部フープ	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	
	備 考								
1階	断 面								
	主 筋	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	22-D29	20-D29	20-D29
	フープ	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	4x3□-D16@100	5x3□-D16@100	3x3□-D16@100	3x3□-D16@100
	柱梁接合部フープ	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150	□-D16@150
	備 考								

明石市政策局 プロジェクト推進室			西明石地域交流センター icotto 建設工事		
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 森 雅章 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号 秋田 智	B	建築工事	最終版	2024. 12. 02	
	19	柱リスト	A1 1: 50 A3 1: 100 見積版	2024. 12. 16	
安井建築設計事務所			最終契約版		

大梁リスト(1)	1:50	共通事項（特記なき限り）	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>スターラップは □-D13@200 とする。</li> <li>幅止筋は D10@1000以内 とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2段受け筋は D13@1000以内 とする。</li> <li>G梁主筋は、先組鉄筋とし、B梁主筋は後組鉄筋とする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・印は補助筋を示し 隣接する梁主筋の最大ピッチaが400mmを超えるときは補助筋 1-D16 を主筋間に入れる。（定着不要）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D16以上の腹筋は柱にL2定着すること。</li> </ul>

階	符 号	G1		G1A		G2		G2B		G3		G4			G5		
		位 置	端 部	中 央			全断面			端 部	中 央						
R2階	断 面																
	上端筋	7-D25	5-D25			5-D25			7-D25	5-D25							
	下端筋	6-D25	6-D25			5-D25			6-D25	6-D25							
	スターラップ	□-D13@150				□-D13@200				□-D13@200							
	腹 筋	2-D25				2-D10				2-D25							
	カットオフ筋長さ																
備 考																	
R階	位 置	端 部	中 央			端 部	中 央			端 部	中 央	ⓧ3・ⓧ5 端	中 央	ⓧ4 端			
	断 面																
	上端筋	6-D29	5-D29			6-D29	5-D29		6-D29	5-D29		6-D29	5-D29	7-D29			
	下端筋	6-D29	6-D29			6-D29	6-D29		6-D29	6-D29		6-D29	7-D29	7-D29			
	スターラップ	▢-D13@150				▢-D13@150				▢-D13@150			▢-D13@150				
	腹 筋	2-D10				2-D10				2-D10			2-D10				
カットオフ筋長さ																	
備 考																	
4階	位 置	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央				
	断 面																
	上端筋	6-D29	5-D29	8-D29	6-D29	7-D29	5-D29	8-D29	5-D29	7-D29	5-D29	8-D29	5-D29				
	下端筋	6-D29	6-D29	7-D29	7-D29	6-D29	6-D29	8-D29	8-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29				
	スターラップ	▢-D13@150		▢-D16@200		▢-D13@125		▢-D13@125		▢-D13@150		▢-D16@150					
	腹 筋	4-D10		4-D10		2-D10		2-D10		4-D10		4-D10					
カットオフ筋長さ																	
備 考																	
3階	位 置	端 部	中 央			端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央				
	断 面																
	上端筋	10-D29	6-D29			9-D29	6-D29	10-D29	6-D29	9-D29	6-D29	7-D29	5-D29				
	下端筋	9-D29	9-D29			8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	6-D29	6-D29				
	スターラップ	▢-D16@200				▢-D16@125		▢-D16@125		▢-D16@150		▢-D16@200					
	腹 筋	4-D10				2-D10		2-D10		4-D10		4-D10					
カットオフ筋長さ	Ld = 2500																
備 考																	
2階	位 置	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	ⓧ2 端	中 央	ⓧ3 端	
	断 面																
	上端筋	9-D29	7-D29	8-D29	6-D29	9-D29	6-D29	10-D29	7-D29	9-D29	6-D29	8-D29	6-D29	7-D29	6-D29	8-D29	
	下端筋	9-D29	9-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	9-D29	9-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	7-D29	7-D29	7-D29	
	スターラップ	▢-D16@150		▢-D16@200		▢-D16@125		▢-D16@150		▢-D16@200		▢-D16@200			▢-D16@150		
	腹 筋	4-D10		4-D10		2-D10		4-D10		4-D10		4-D10			4-D10		
カットオフ筋長さ																	
備 考																	

明石市政政局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
〈代表設計者〉	一級建築士	国土交通大臣登録	第300703号	B	建築工事	最終版 2024.12.02	
	森 雅章						
〈構造設計者〉	一級建築士	国土交通大臣登録	第308030号	20	大梁リスト(1)	A1 1:50 A3 1:100	見積版 2024.12.16
	構造設計一級建築士		第5193号		安井建築設計事務所	最終契約版	
	秋田 智						





共通事項（特記なき限り）																		
大梁リスト (2)			1:50	° スターラップは □-D13@200 とする。			° 2段受け筋は D13@1000以内 とする。			° ・印は補助筋を示し 隣接する梁主筋の最大ピッチaが400mmを越えるときは補助筋 1-D16 を主筋間に入れる。（定着不要）								
				° 幅止筋は D10@1000以内 とする。														
階	符 号	B1			B1A			B1B		B2		B2A		B2B	CB1			
R2階	位 置	⓪1・⓪3 端	中 央	⓪2 端						端 部	中 央			全断面				
	断 面																	
	上端筋	7-D25	5-D25	8-D25						6-D25	4-D25			5-D25				
	下端筋	6-D25	6-D25	6-D25						6-D25	6-D25			5-D25				
	スターラップ	□-D13@150								□-D13@150				□-D13@200				
	腹 筋	2-D10								2-D10				2-D10				
	カットオフ筋長さ																	
R階	位 置	⓪1・⓪3 端	中 央	⓪2 端	⓪1・⓪3 端	中 央	⓪2 端	端 部	中 央	端 部	中 央	全断面		全断面				
	断 面																	
	上端筋	6-D29	6-D29	8-D29	7-D29	6-D29	9-D29	7-D29	5-D29	8-D29	5-D29	5-D29		5-D29				
	下端筋	7-D29	7-D29	7-D29	7-D29	9-D29	9-D29	6-D29	6-D29	7-D29	7-D29	5-D29		5-D29				
	スターラップ	□□-D16@150			□-D16@150			□-D16@150		□□-D16@150		□-D16@200		□-D16@150				
	腹 筋	4-D10			4-D10			2-D10		2-D10		2-D10		2-D10				
	カットオフ筋長さ																	
4階	位 置	端 部	中 央				端 部	中 央	端 部	中 央			全断面					
	断 面																	
	上端筋	10-D29	7-D29				10-D29	7-D29	8-D29	5-D29					6-D29			
	下端筋	10-D29	10-D29				9-D29	9-D29	7-D29	7-D29					6-D29			
	スターラップ	□□-D16@150			□□-D16@125			□□-D16@150	□□-D16@150						□-D16@150			
	腹 筋	4-D10			4-D10			4-D10	2-D10						4-D10			
	カットオフ筋長さ																	
3階	位 置	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	全断面				
	断 面																	
	上端筋	11-D29	7-D29	11-D29	7-D29	9-D29	5-D29	9-D29	5-D29	12-D29	12-D29			7-D29				
	下端筋	11-D29	11-D29	9-D29	9-D29	7-D29	7-D29	8-D29	8-D29	11-D29	11-D29			6-D29				
	スターラップ	□□-D16@150			□□-D16@125			□□-D16@150	□□-D16@100		(6) □□-D16@125		□□-D16@150					
	腹 筋	4-D10			4-D10			4-D10	2-D10		4-D10				4-D10			
	カットオフ筋長さ																	
2階	位 置	端 部	中 央	端 部	中 央				端 部	中 央	端 部	中 央	全断面	全断面				
	断 面																	
	上端筋	10-D29	7-D29	12-D29	7-D29				10-D29	6-D29	12-D29	12-D29	9-D29	9-D29				
	下端筋	10-D29	10-D29	11-D29	11-D29				10-D29	10-D29	10-D29	10-D29	6-D29	6-D29				
	スターラップ	□□-D16@150			□□-D16@150			□□-D16@125		(6) □□-D16@125		□□-D16@150		□-D16@150				
	腹 筋	4-D10			4-D10			2-D10		4-D10				4-D10				
	カットオフ筋長さ																	
備考																		
仮設鉄骨 H-500x200x10x16 (SS400)																		
仮設鉄骨 H-500x200x10x16 (SS400)																		
備考																		

° カットオフ筋の定着要領

カットオフ筋長さ (LD)

カットオフ筋長さ (LD)

Lo

明石市政局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
代表設計者	一級建築士 森 雅章	国土交通大臣登録 第300703号	B	建築工事		最終版	2024.12.02
				21	大梁リスト (2)	A1 1:50 A3 1:100 見積版	2024.12.16
構造設計一級建築士 秋田 智						最終契約版	

(2023年版)





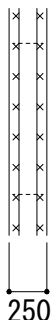
20230220



小梁リスト	1:50	<p>共通事項（特記なき限り）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幅止筋は D10@1000以内 とする。</li> <li>○ 2段受け筋は D16@1000以内 とする。</li> </ul>
-------	------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

[illegible]

壁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・ 巾止筋は、タテヨコ共D10@1000以下とする。
------	------	--------------------------------------------

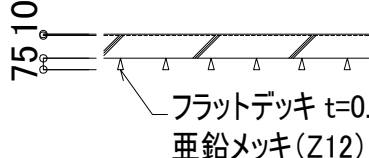
符 号	W15	W18	KW18	KW20	KW25
壁 厚 (mm)	150	180	180	200	250
断 面 (水平断面)					
縦 筋	D10@150 チドリ	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D16@100 ダブル	D13@200 ダブル
横 筋	D10@150 チドリ	D10D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル
壁開口部 補強筋	縦筋 2-D13	4-D13	-	-	-
	横筋 2-D13	4-D13	-	-	-
	斜筋 6φ-100目シングル	6φ-100目ダブル	-	-	-
備 考					

床版リスト	共通事項（特記なき限り）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>直押え部分は スラブ天端増打 10 とする。</li> <li>土に接するスラブ下地業は 捨コンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。</li> </ul>

符 号	版 厚 (mm)	位置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
S16	150	上端筋	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D10・D13 @200	D10 @200	
S17	150	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S18	250	上端筋	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
S19	150	上端筋	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
DS1	150	上端筋	D13 @200	D10・D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下端筋	D13 @200	D10・D13 @200	
DS2	250	上端筋	D13 @200	D10・D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下端筋	D13 @200	D10・D13 @200	
CS1	150	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
FS1	200	上端筋	D13 @200	D13 @200	消化水槽底版、モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
FS2	250	上端筋	D16 @200	D13 @200	EVビット底版、モチアミ配筋
		下端筋	D16 @200	D13 @200	
FS3	300	上端筋	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D13 @200	D13 @200	

床型枠用鋼製デッキプレート仕様

注)フラットデッキは「フラットデッキ建設技術評価取得品」とする。



- |                                            |      |
|--------------------------------------------|------|
| ・スラブ段差がある箇所は「普通型枠」を使用してもよい。                | 2.4% |
| ・受注者に施工に先立ち、施工の安全性を確保すること。                 | 2.7% |
| ・※スパンL=スラブ短辺方向寸法=フラットデッキ支持方向寸法を示す。         | 2.9% |
| ・スパンL>3.1mの場合 ベゴビームなど仮設材を用いてコンクリートを打設すること。 |      |

スパルト※	デッキプレート厚さ t
$L \leq 2.4m$	$t=0.8mm$
$2.4m < L \leq 2.7m$	$t=1.0mm$
$2.7m < L \leq 2.9m$	$t=1.2mm$
$2.9m < L \leq 3.1m$	$t=1.6mm$

壁開口隅角部補強筋

開口部に誘発目地がない場合

開口部に誘発目地を設ける場合

6φ-100目ダブル  
壁厚 180以上

6φ-100目シングル  
壁厚 150以下

。開口部補強溶接金網を上記要領で設置すること

小梁の上端レベルが大梁より高い場合の定着要領

増し補強要領

小梁の上端レベルが大梁より高い場合の定着要領

増し補強要領

小梁

小梁主筋

小梁スターラップ

大梁

柱

A断面

近隣する方の柱  
際まで大梁上端  
を打増しする。

打増し補強要領  
に準じる

LbかつB/2以上

D/2  
以下

L2

L3h

B

D

[illegible]

### 鉄骨部分スラブ段差配筋要領

※段差部は原則、低い方のスラブレベルに応じて梁を設けるものとする。

※小梁を介さず同一スパン内でスラブ高さが異なる場合は鉄筋コンクリートスラブ段差部配筋要領（B）に準じる。

ハト小屋配筋要領図

1:50

H、L寸法は 意匠図 による。

タテ・ヨコ共  
D10・D13@200ダブル

150.30

2-D13

D10#200

1-D13

タテ  
D13#200ダブル

ヨコ  
D13#150ダブル

FL

V

180

4-D13

L2

タテ  
D13#200ダブル

ヨコ  
D13#150ダブル

2-D13

L

### デッキ床端部コンクリート止め要領図

デッキ床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は下記要領でコンクリート止め部材、及び、補強部材を設けること。

The diagram illustrates the required reinforcement for the deck edge concrete stop. It shows two cases based on the length  $LD$ :

- For  $LD \leq 200$ , the reinforcement member (補強部材) is not required.
- For  $200 < LD \leq 300$ , the reinforcement member (補強部材) is required, with a length of  $L = 75 \times 75 \times 6$  @ 600.

The diagram also shows the concrete stop member (コンクリート止め部材) and the reinforcement member (補強部材) with dimensions and labels.

金場配筋要領図

1:50

H, B, W寸法は 意匠図 による。

Diagram illustrating the reinforcement details for a slab and beam connection, showing two cross-sections with dimensions and labels.

Labels and dimensions shown in the diagrams:

- Dimensions:  $L1$ ,  $t$ ,  $H$ ,  $B \times W$ ,  $1-D19$ ,  $45^\circ$ ,  $L1-D19@150$ .
- Labels: 底盤配筋と同径 (Same diameter as base slab reinforcement), 両方向共 底盤配筋と同径・同ピッチ (Same diameter and pitch in both directions).

機械基礎配筋図 1:50

(B, W, H寸法は 意匠図による。)

防水がない場合は  
防水アゴは不要とする

防水がない場合は  
防水アゴは不要とする

主筋

腹筋

主筋	B < 300の場合	上下共 2-D19
	B ≥ 300の場合	上下共 D19@150以内
腹筋	H < 600の場合	不要
	H ≥ 600の場合	2-D10

土間コンクリート配筋図 1:50

(注:Fc18とする。)

※構造スラブと接する箇所は  
目地(意匠図参照)を設けること。

D10・D13@200ダブル

D10・D13@200ダブル

カッター目地

5.0mx5.0mグリッド程度とする  
(D=20)

150

100

捨てコンクリート (ア) 50

砕石転圧 (ア) 100

鉄筋コンクリートスラブ段差部配筋要領

(A) スラブの高さが異なる場合の補強

図A-1: D以上の場合  
図A-2: D以下の場合


梁へのかかりしろが $\phi$ 以上の場合  
梁へのかかりしろが $\phi$ 以下の場合

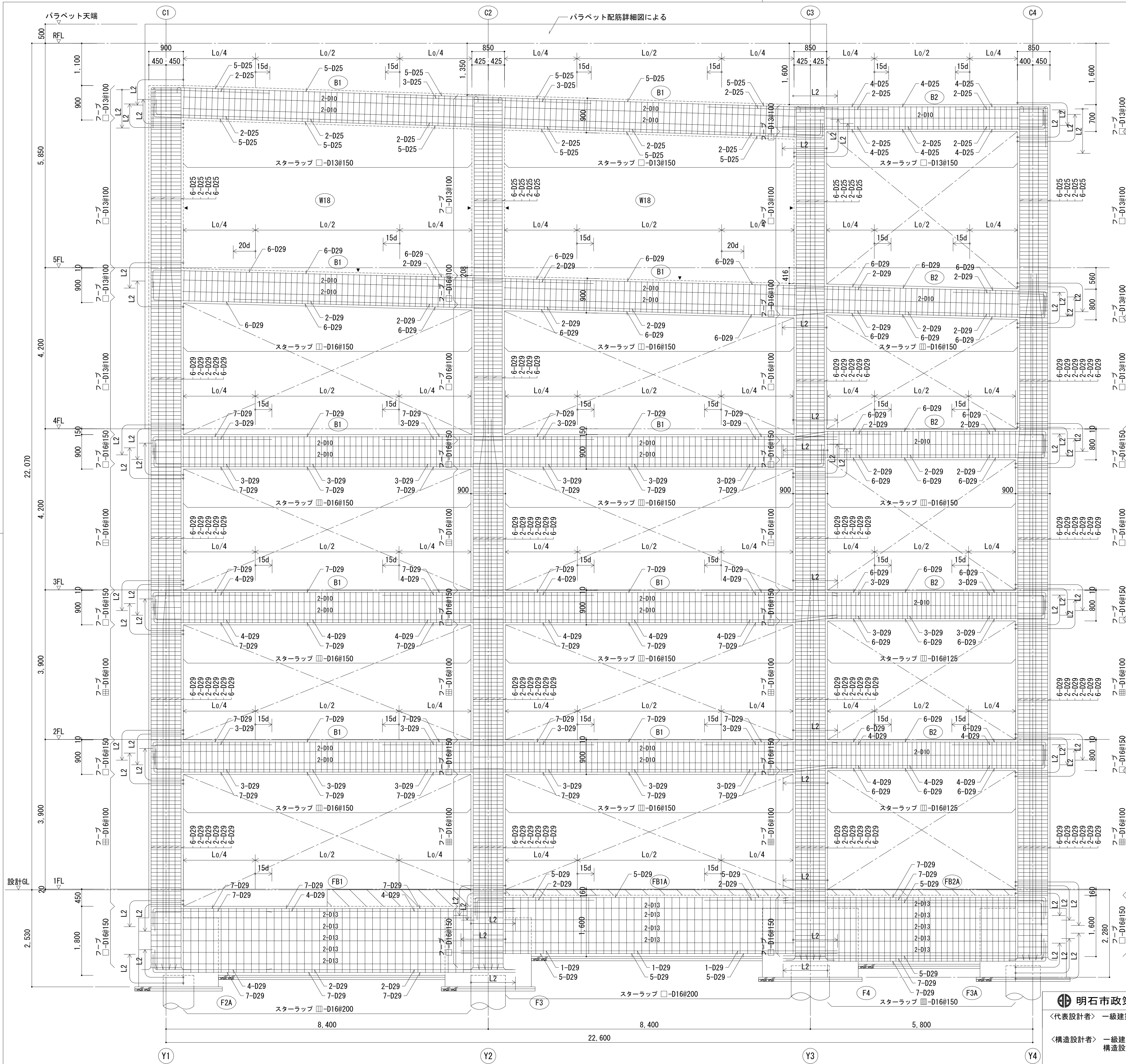
(イ) はスラブ端部上端筋と同径、同間隔とする。

(B) 同一スパン内でスラブの高さが異なる場合の補強

図B-1: 0.5D以下の場合  
図B-2: 4-D以上の場合

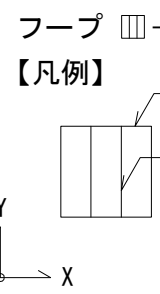
あばら筋はスラブ筋に  
同径同ピッチ

 明石市政策局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事					
<div>&lt;代表設計者&gt; 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 森 雅章</div> <div>&lt;構造設計者&gt; 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 秋田 智</div>				B	建築工事		最終版	2024. 12. 02	
				23	RC部材リスト・各部配筋図		A1 1: 50 A3 1: 100	見替版	2024. 12. 16
				安井建築設計事務所				最終契約版	

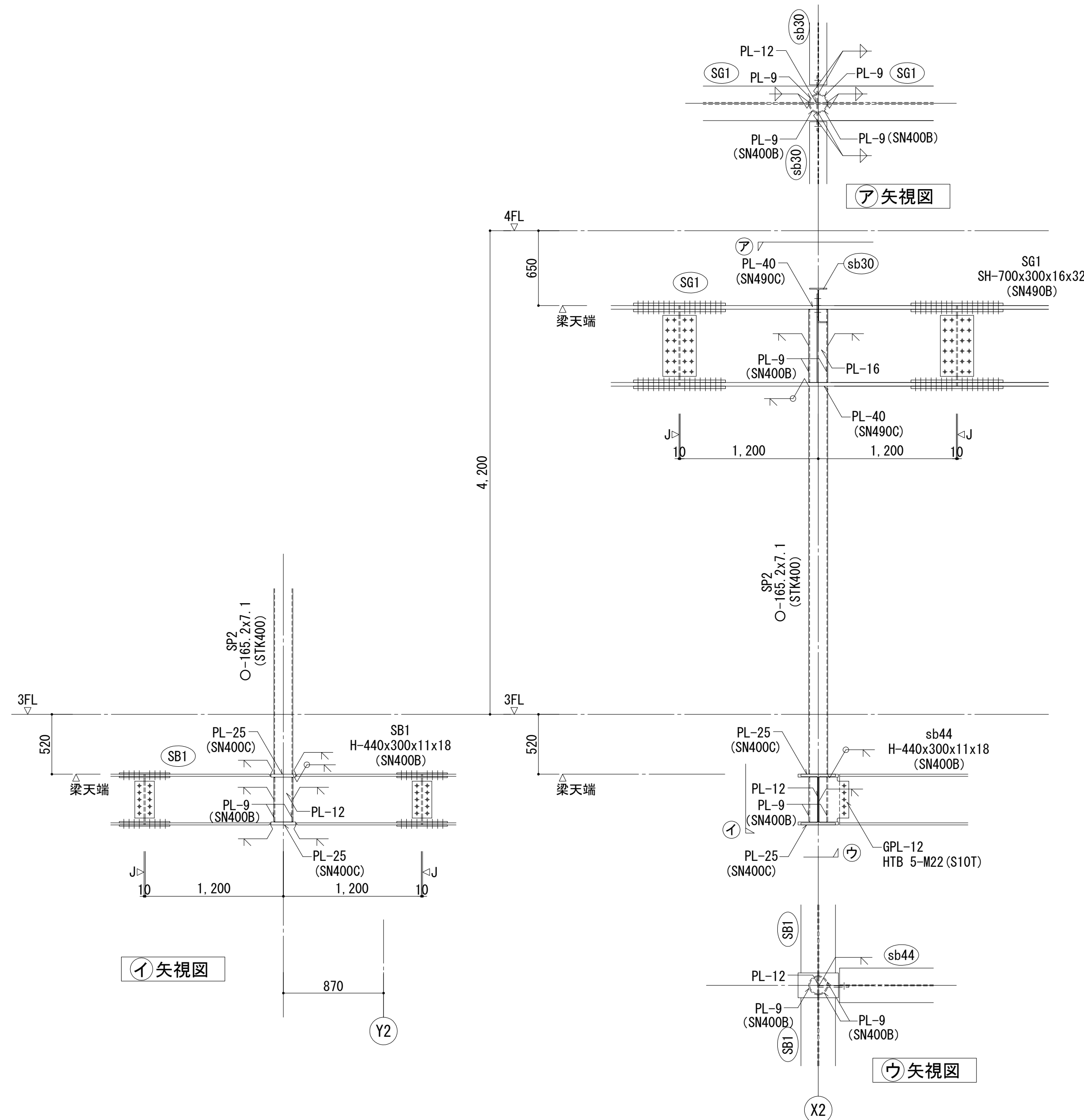


X5通り架構配筋詳細図 1:50

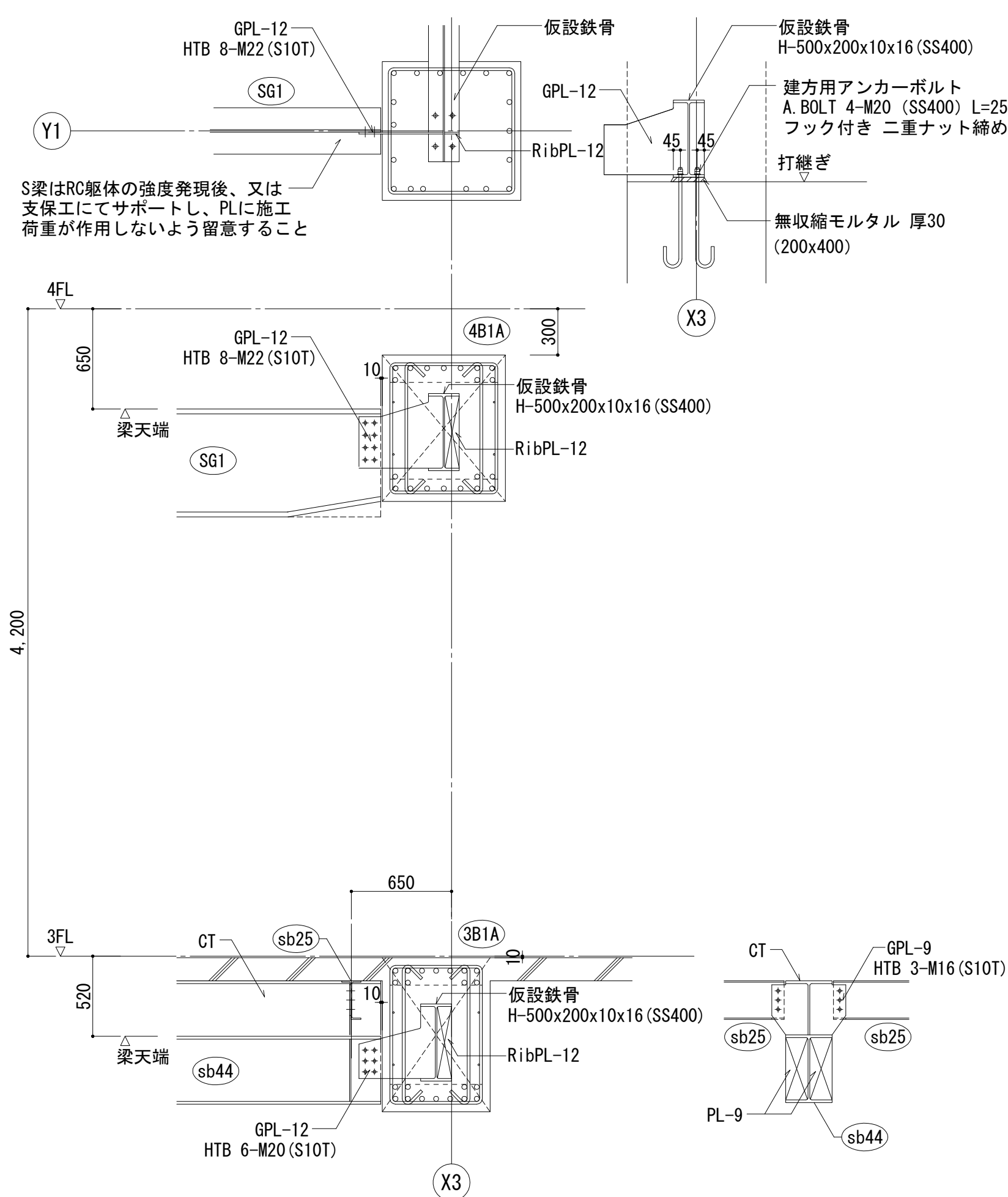
- 共通事項（特記なき限り）
- フープは、溶接閉鎖型とする。
  - ▲▼印は 耐震スリットを示す。
  - 斜線印は 増打を示す。



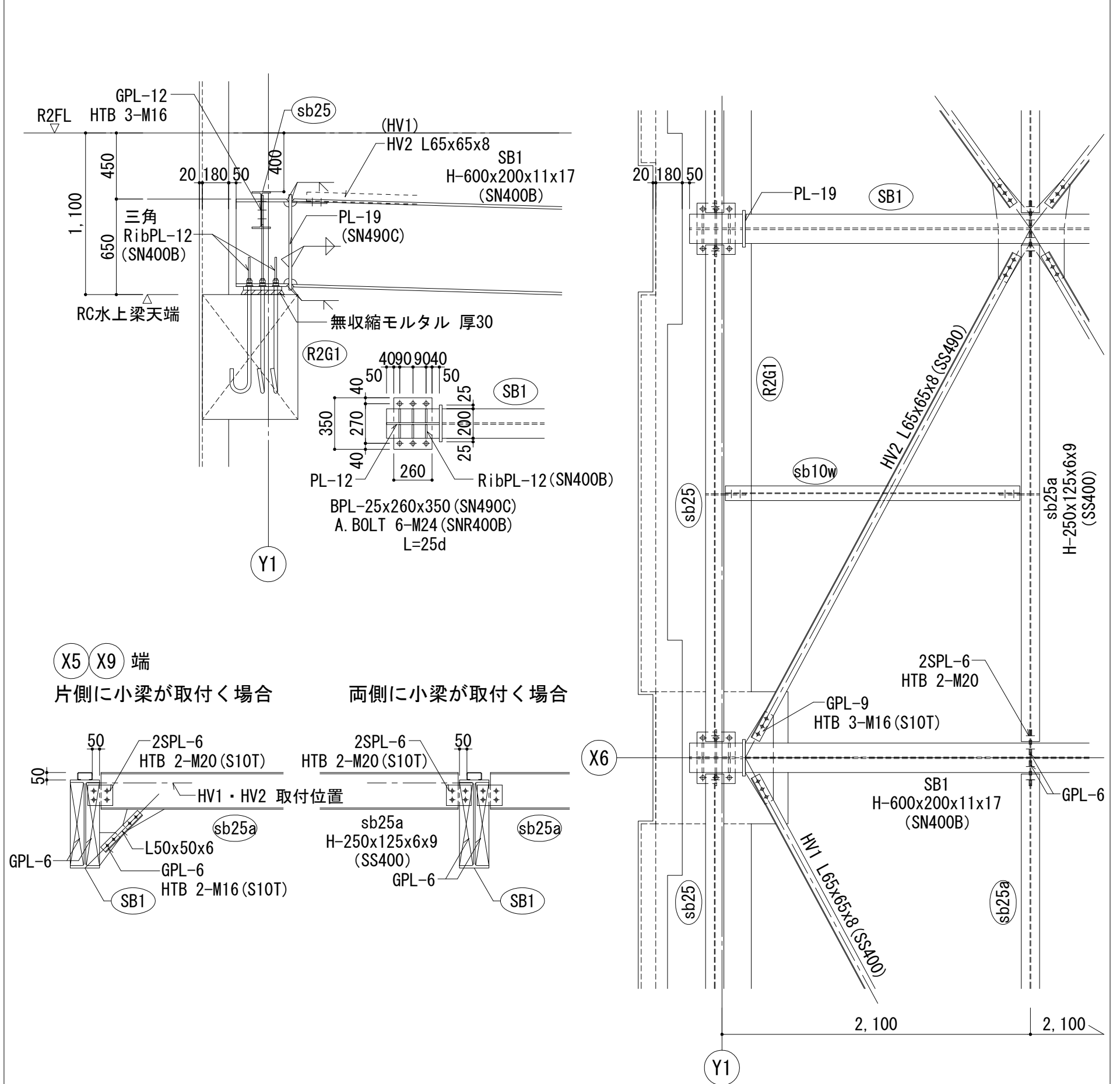




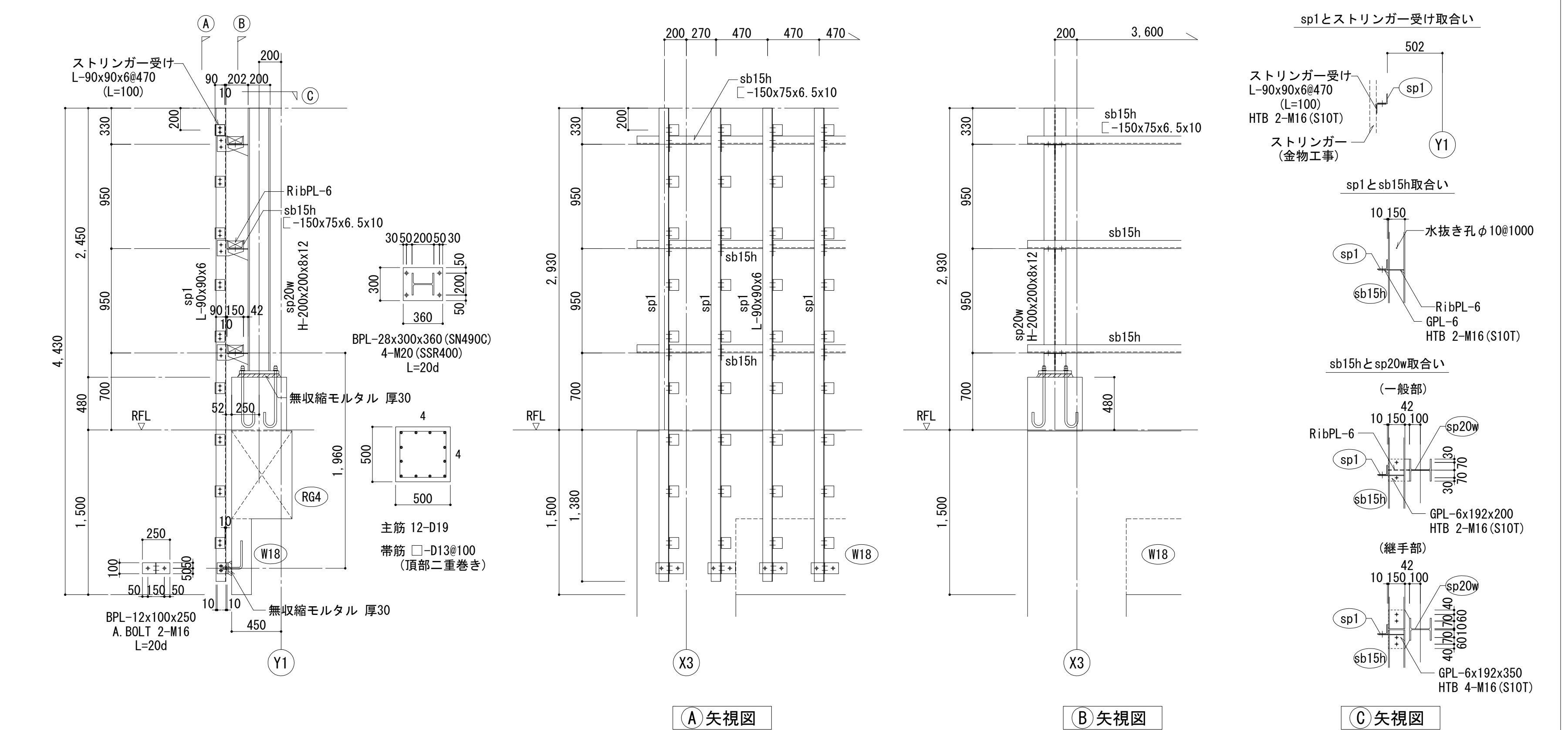
3FL・4FL RC梁と鉄骨梁の取合い要領図 1:30




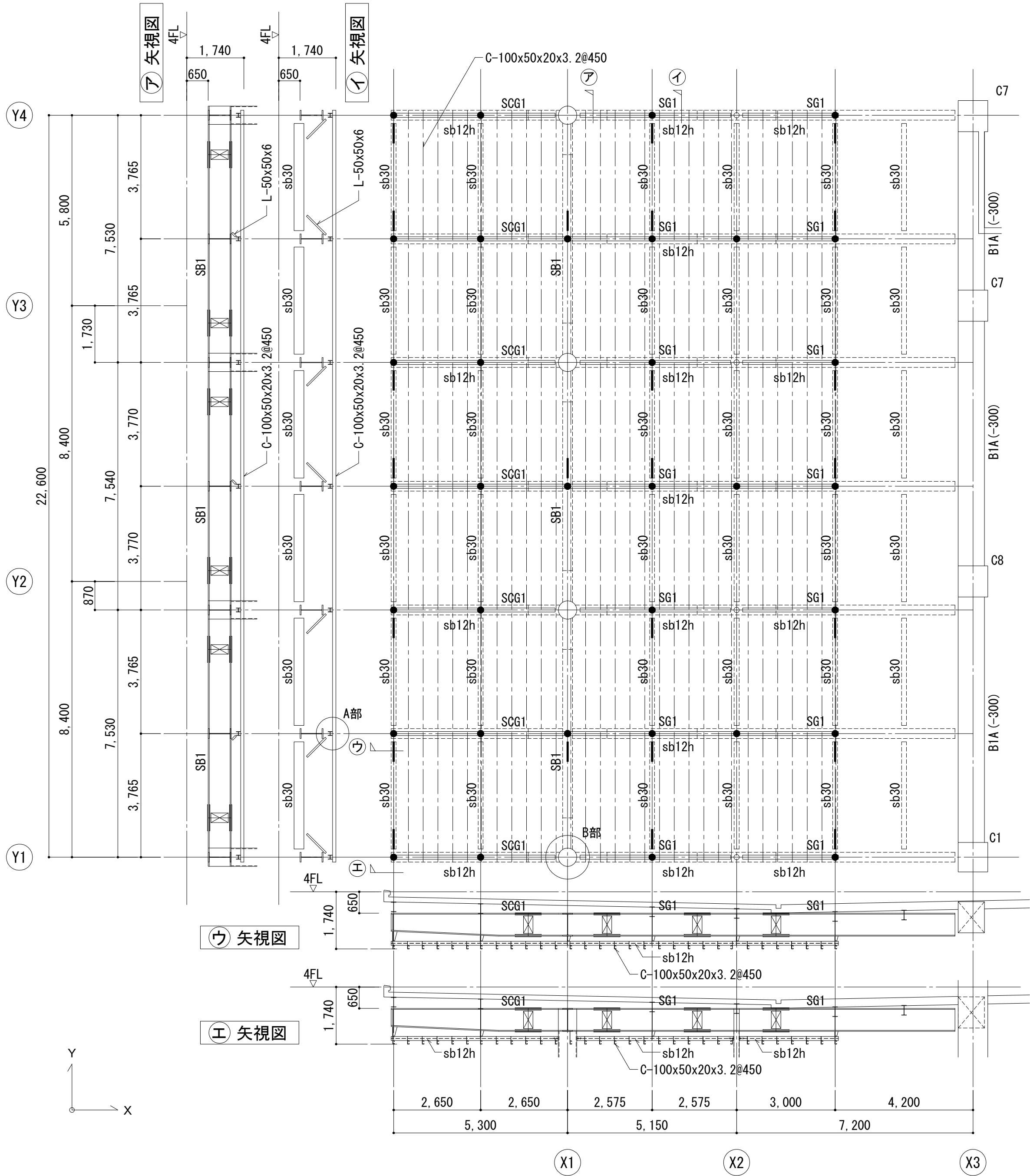
R2FL RC梁と鉄骨梁の取合い要領図 1:30



RFL 目隠し壁支持鉄骨詳細図 1:30



 <b>明石市政策局 プロジェクト推進室</b>		<b>西明石地域交流センター icotto 建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 <b>森 雅章</b>	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	最終版 2024.12.02
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号 <b>秋田 智</b>	<b>25</b>	各部詳細図(1)	A1 1: 30 A3 1: 60 見聞版 2024.12.16
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版

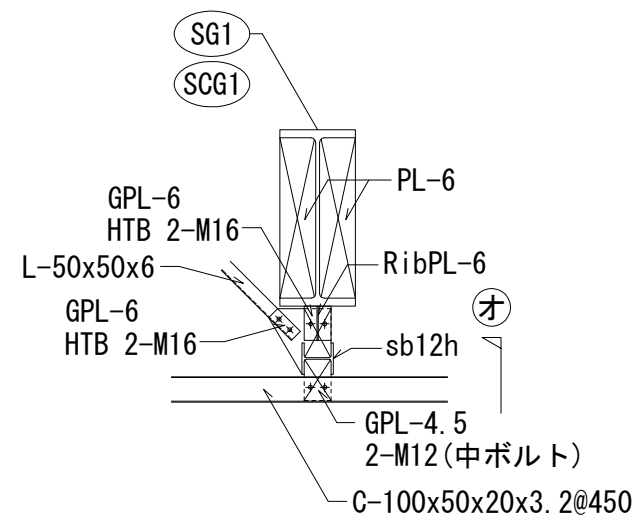


ウ 矢視図

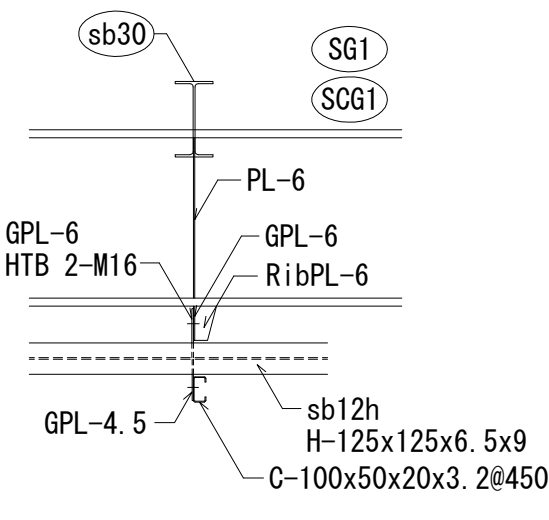
エ 矢視図

4FL-1740梁伏図 1:100

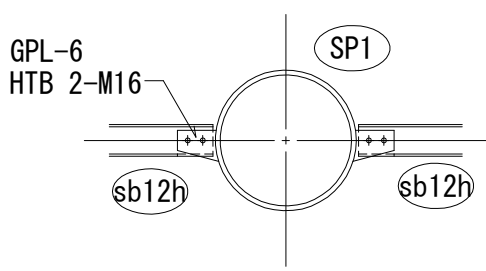
共通事項（特記なき限り）  
●印は 吊りプレート位置 を示す。  
—印は 端部方材材 L-50x50x6 を示す。



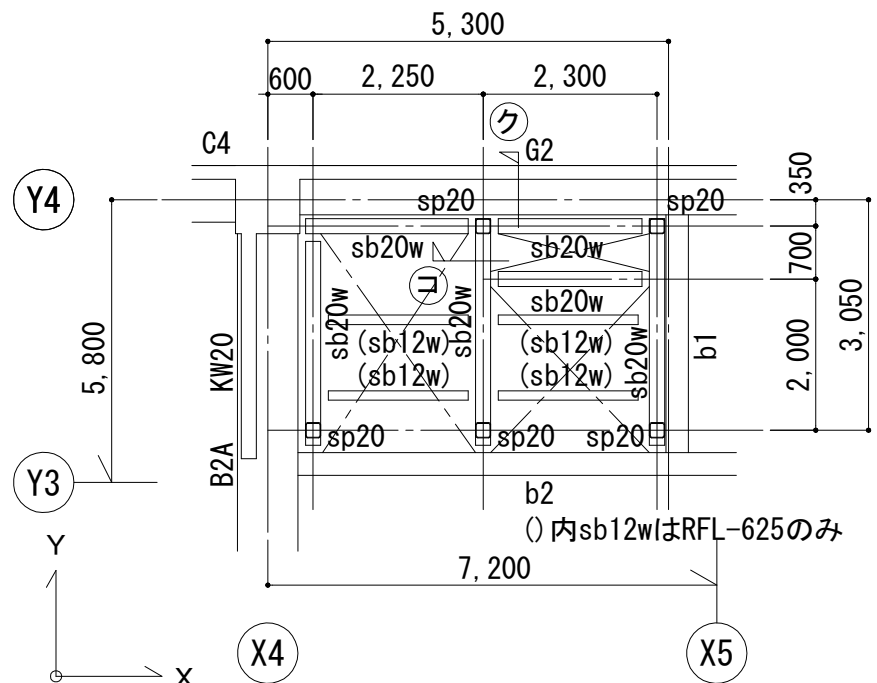
A部 詳細図 1:30



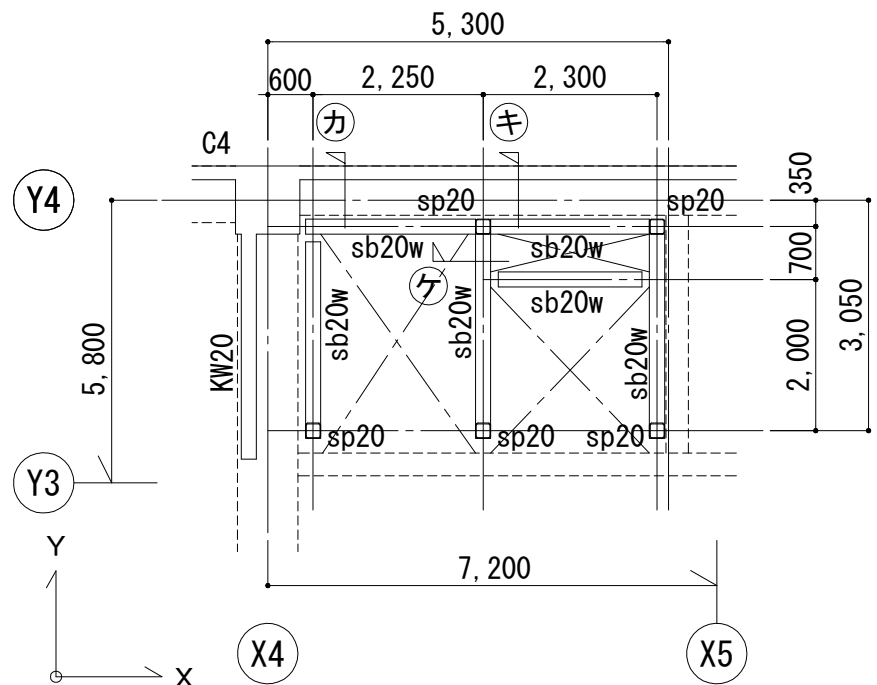
オ 矢視図 1:30



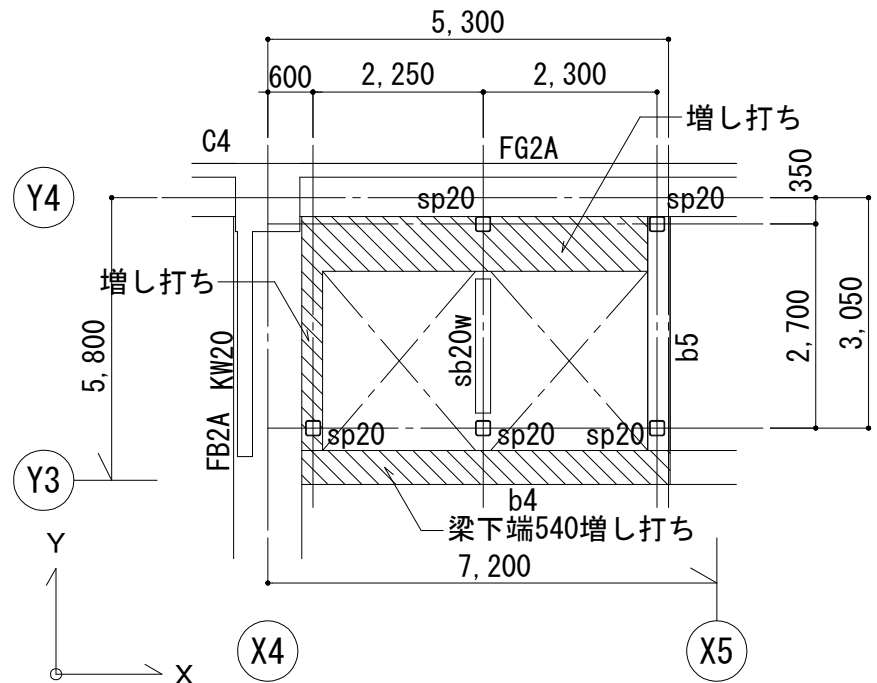
B部 詳細図 1:30



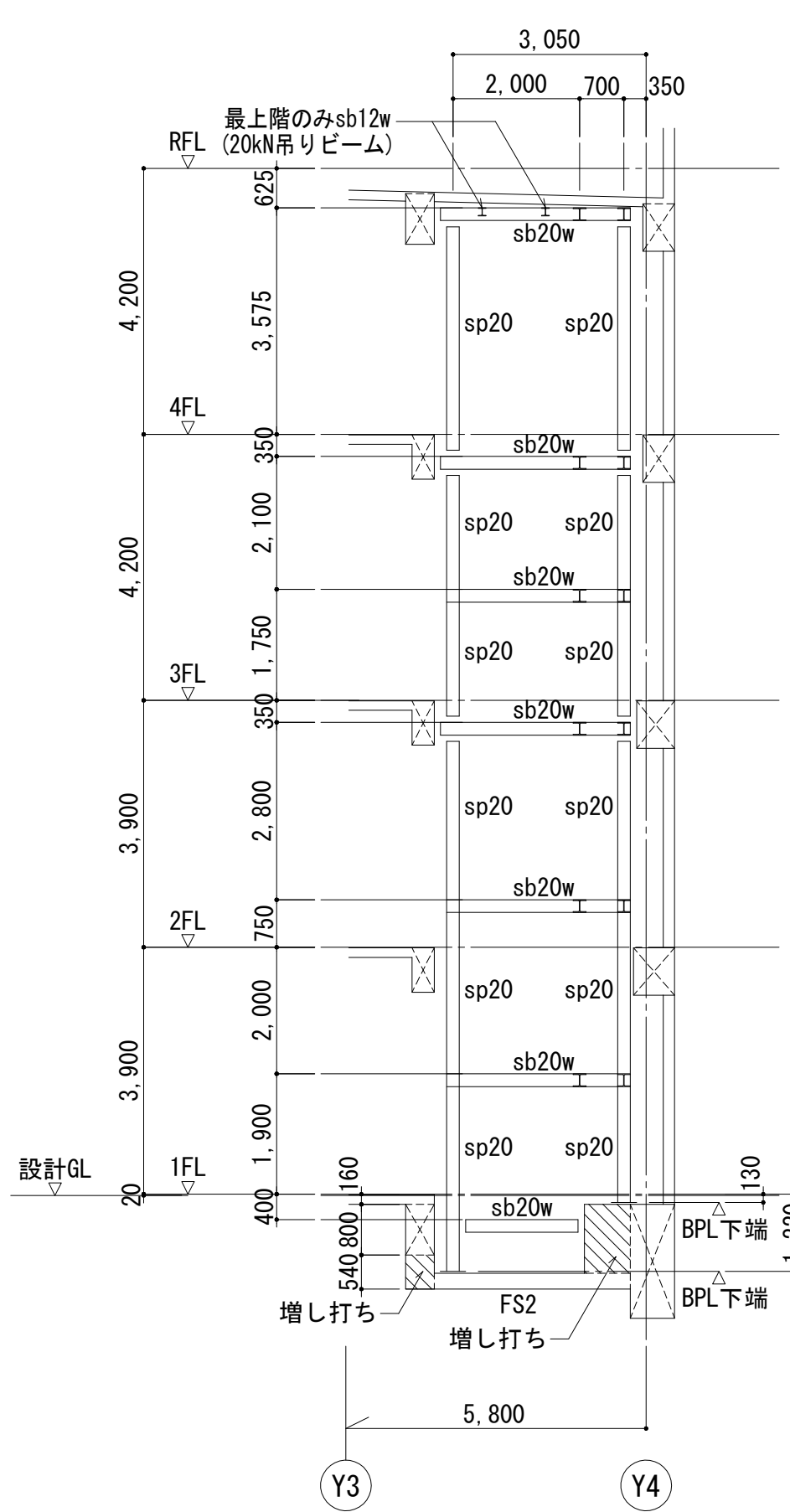
3FL-350・4FL-350・RFL-625床梁伏図 1:100



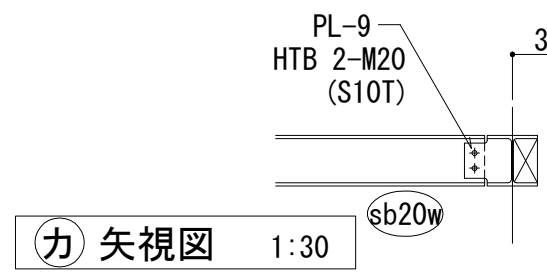
2FL-2000・2FL+750・3FL+1750床梁伏図 1:100



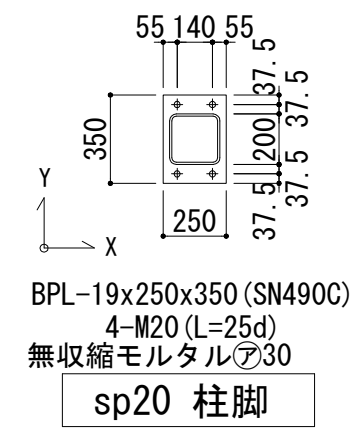
1FL-400床梁伏図 1:100



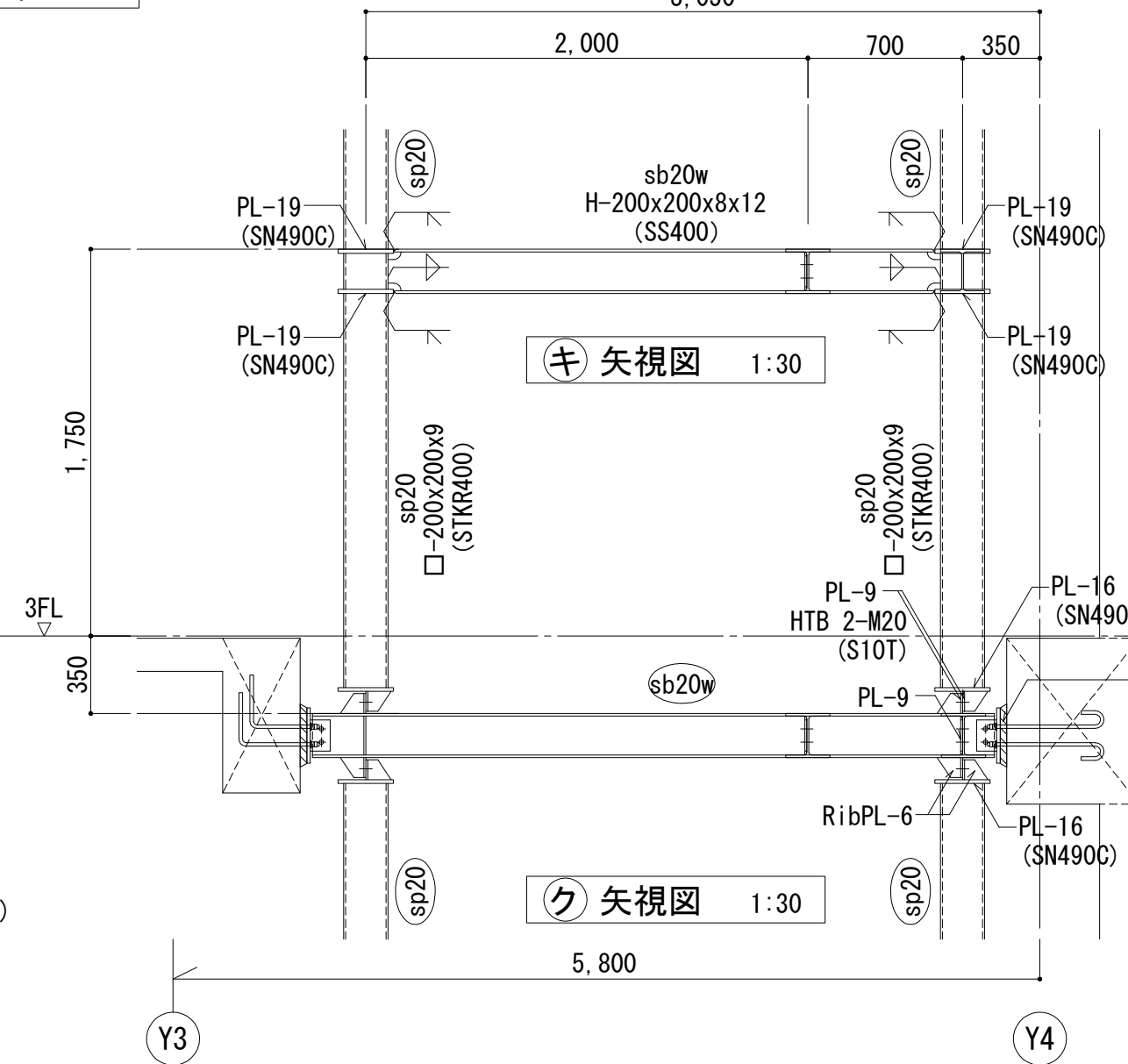
EV支持材軸組図 1:100



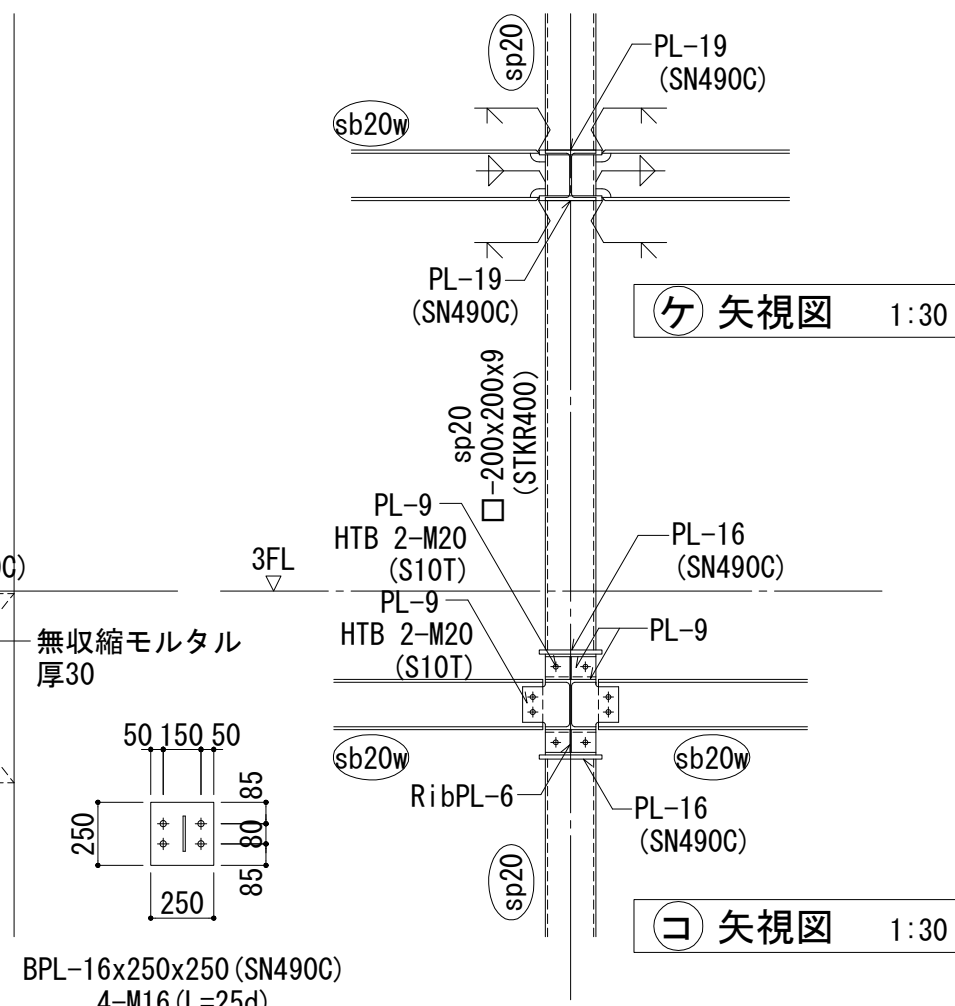
カ 矢視図 1:30



sp20 柱脚



ク 矢視図 1:30



ケ 矢視図 1:30

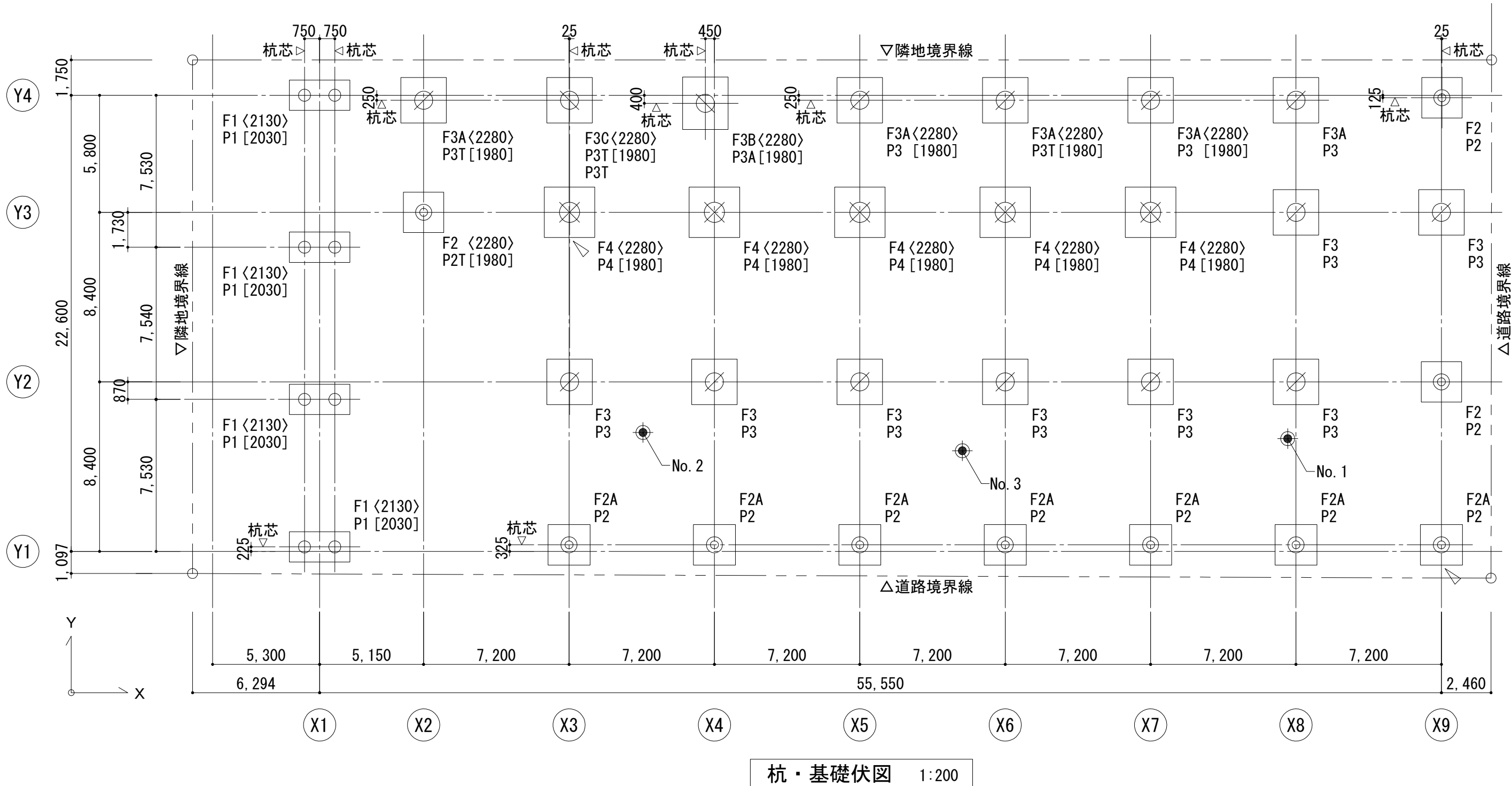
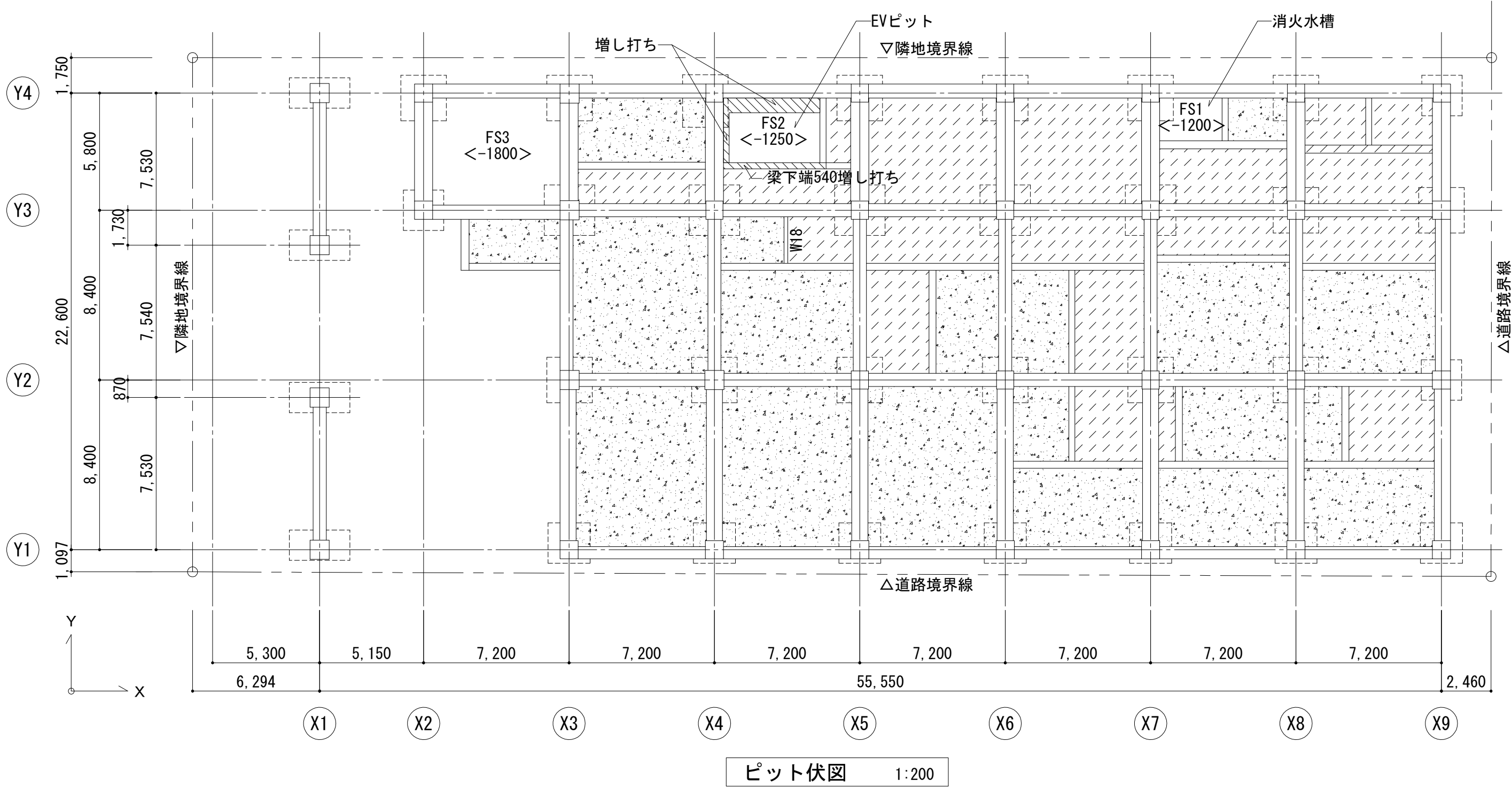
コ 矢視図 1:30

EV支持材部分詳細図 1:30

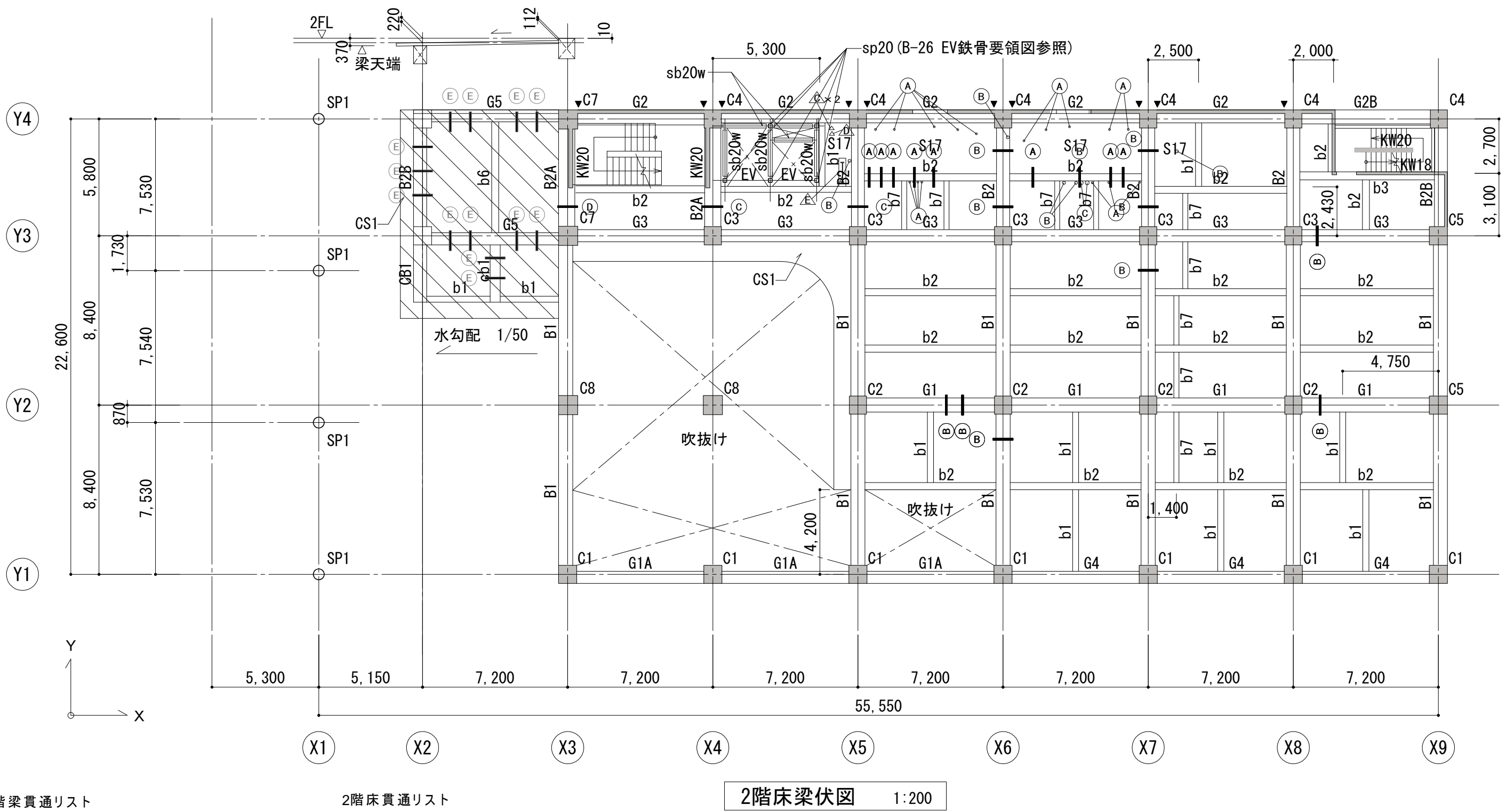
明石市政局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事					
〈代表設計者〉 一級建築士 森 雅章		国土交通大臣登録 第300703号		B	建築工事	A1 1:100	最終版	2024.12.02	
〈構造設計者〉 一級建築士 構造設計一級建築士 秋田 智		国土交通大臣登録 第308030号 第5193号				26	各部詳細図(2)	A3 1:200 1:60	見続版
				安井建築設計事務所				最終契約版	

<div>屋内階段詳細図</div> <div>1:50</div> <div></div>	<div>Y4通り X2-X3間 W18 配筋要領図</div> <div>1:50</div> <div></div>	<div>4階多目的ホール W18 耐震スリット要領図</div> <div>1:50</div> <div></div>	<div>屋上階パラペット配筋要領図</div> <div>1:50</div> <div></div>	<div>RFL CS1スラブレベルとバスケットゴール取付用壁配筋要領図</div> <div>1:50</div> <div></div>	
<div>屋外階段詳細図</div> <div>1:50</div> <div></div>	<div>埋設配管要領</div> <div>共通事項</div> <div><div><div>(1) 使用する配管はPF管のみとし、呼称22以下、外径30.5φ以下とする。</div><div>(2) 配管のかぶり厚さは鉄筋と同等以上を確保する。</div><div>(3) 配管は出来るだけ直線的に行い、蛇行しない。</div><div>(4) 配管は結束線などで1m以内毎に直交方向の鉄筋と結束する。</div><div>(5) 鉄筋と平行な配管は鉄筋より50mm以上離す。</div><div>(6) 配管相互のあきは50mm以上とする。</div><div>(7) 配管は極力重ならない。やむを得ず重なる場合は2段以下にする。</div><div>(8) 盤取付部の配管立上りが集中する部位においては、そこを開口部とみなして開口補強を行う。</div><div>(9) 配管は盤取付位置周辺を除き、過度に集中しないよう配管する。目安として1m幅に5本程度までとする。</div><div>(10) この規準の適用範囲は在来工法による建物とする。</div><div>(11) この要領に示す配管を満足させるのが困難な場合は、設計者・監理者と協議の上、決定する。</div></div><div><div><div><div>配管交差可</div><div>(梁との平行配管禁止範囲)</div><div>鉄筋交差部不可</div></div><div><div>配管</div><div>50mm以上</div><div>結束線</div></div><div><div>配管</div><div>500</div></div></div><div><div>鉄筋交差部不可</div><div>スラブ</div><div>梁</div></div><div><div>70</div><div>300</div><div>70</div><div>70</div><div>以上</div><div>以上</div><div>以上</div><div>以上</div><div>1m幅に5本を限度とする</div></div></div></div> <div><div>(1) 屋根スラブ及び防水を行うスラブには、原則として配管類を埋め込まない。</div><div>(2) 配管外径は部材厚の1/5以下とする。</div><div>(3) シングル配筋の場合は配管は行わず、ダブル配筋の内側に配管を行う。</div><div>(4) 梁面より500mm以内の範囲に1.0mを超える配管を設けない。</div><div>(5) 配管同士の交差は鉄筋交差部では行わないものとし、配管同士が直交方向に交わるようにする。</div><div>(6) 配管相互のあきは70mm以上とし、3本以上平行配管してはならない。ただし、配管同士の間隔が300mm以上の場合はその限りではない。</div><div>(7) 平行配管は1m幅の中で5本を限度とする。</div></div>			<div>スラブ開口補強要領図</div> <div>TYPE-A</div> <div>TYPE-B</div> <div>TYPE-C</div> <div>スラブ開口補強</div> <div>(1) 開口部最大径が700以下の場合の開口部補強</div> <div>n1本の断面積の1/2かつD13以上(上、下共)</div> <div>(a) 一般開口の場合</div> <div>梁に接近しておりL1が確保できない場合は、補強筋を延長して梁内に定着する。</div> <div>n2本の断面積の1/2かつD13以上(上、下共)</div> <div>(b) 開口中心間距離が30未満かつ連続する開口部が700未満の場合</div> <div>n1本の断面積の1/2かつD13以上(上、下共)</div> <div>n2本の断面積の1/2かつD13以上(上、下共)</div> <div>(c) 小開口の場合</div> <div>スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略できる。</div>	
<div>耐震スリット壁の要領</div> <div>(1) 耐震スリット材は全貫通タイプとする。</div> <div>(2) 鉛直スリット幅(W)は梁下有効寸法の1/100以上とする。</div> <div>(3) 耐震スリット材は所定の耐火性能を有し、かつ、二次防水処理が施してあるものとする。</div> <div>(4) 遮音性能はD-50(1級)以上とする。</div> <div>(5) スリット設置箇所は柱際を原則とし、0~200の範囲で目地位置に合わせる。</div> <div>(6) 防水立ち上がりがある場合は梁天端より上部300以下にスリットを設ける。</div> <div>(7) 鉄筋の防錆処理は防錆塗装(JIS K5674)または垂鉛メッキ鉄筋とする。</div> <div>(8) スリット部に設備配管は干渉させないものとする。</div> <div>(9) 3辺スリットの場合、水平スリットから鉄筋を離す為のスペーサーを配置する。</div> <div>(10) 外壁の場合、垂直スリットと水平スリットの取合いコーナー部、スリット材のジョイント部において止水材を連続させること。</div> <div>(11) 水平スリット取付箇所は、コンクリート面は平滑に仕上げて接着性を確保する。</div> <div>(12) 垂直スリットにより区画され、上部から流れなくなる腰壁のコンクリート打設は後打ちとするか、同時打ちの場合はサニホース等にて上部より下部腰壁に打設する。</div> <div>(13) 垂直スリットの変形を防止するため、スリットをはさんだ柱・壁を交互に打設し、スリットの直近では棒型振動機を使用しない。</div> <div>(14) 袖壁上部、端部等の充填性が悪いと予想される部分には、事前に充填確認用の穿孔を行い、充填を目視にて確認する(必要に応じて壁型の振動機を使用する)。</div>					<div><div>(鉛直スリット)</div><div>柱面</div><div>D10φ400</div><div>(防錆処理)</div><div>25d</div><div>200</div><div>スリット幅 Wは有効高さの1/100程度</div></div> <div><div>(水平スリット)</div><div>壁面</div><div>D10φ400</div><div>(防錆処理)</div><div>25d</div><div>200</div><div>面外壁</div><div>壁芯を超えて定着</div><div>スリット幅 Wは有効高さの1/100程度</div></div>
<div>明石市政局 プロジェクト推進室</div> <div>西明石地域交流センター icotto 建設工事</div> <div><div>代表設計者</div><div>一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号</div><div>森 雅章</div></div> <div><div>構造設計者</div><div>一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号</div><div>構造設計 一級建築士 第5193号</div><div>秋田 智</div></div> <div><div>B</div><div>27</div></div> <div><div>建築工事</div><div>各部詳細図(3)</div><div>安井建築設計事務所</div></div> <div><div>最終版</div><div>2024.12.02</div></div> <div><div>見積版</div><div>2024.12.16</div></div> <div><div>最終契約版</div></div>					



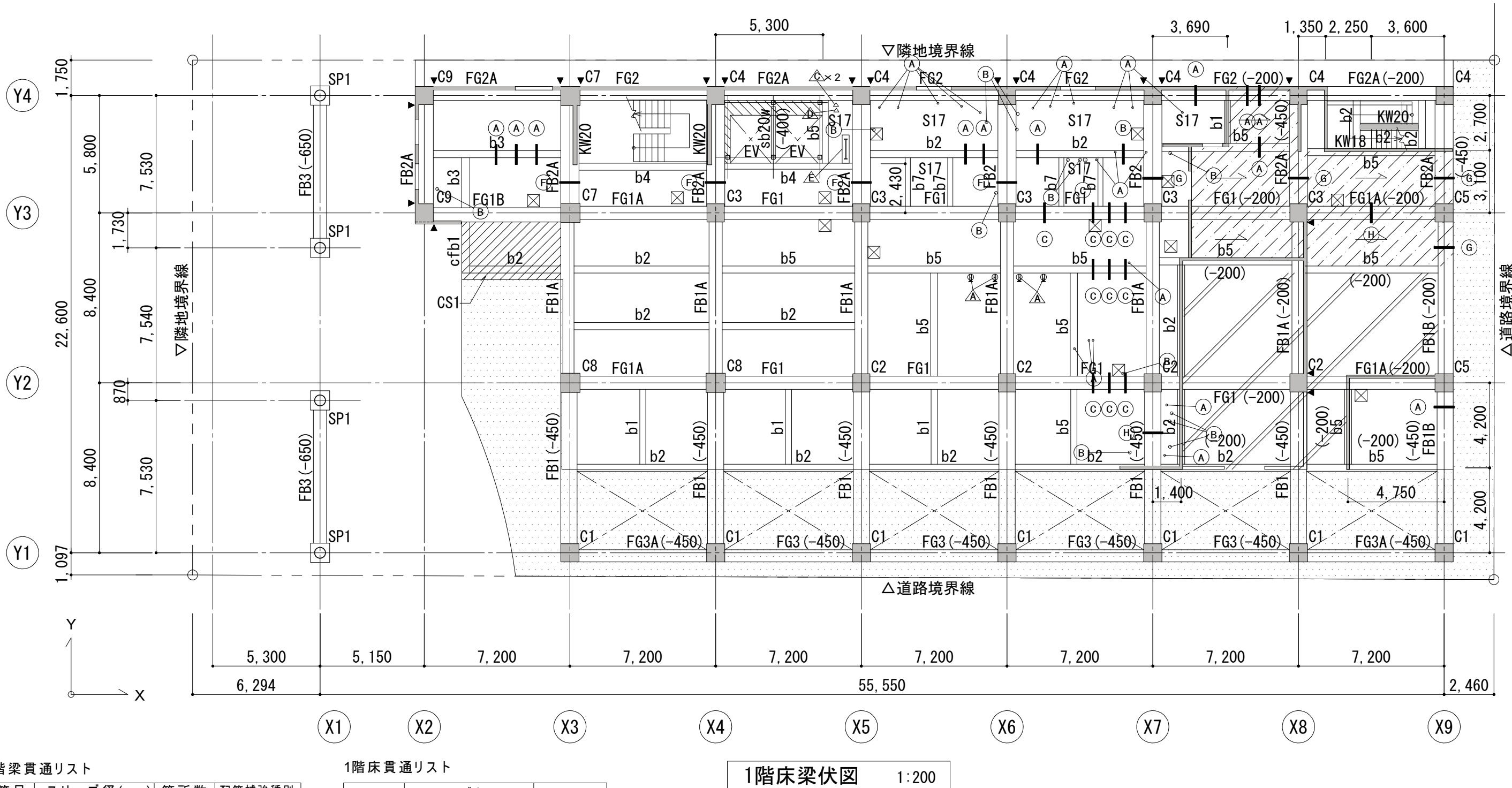


- 共通事項（特記なき限り）
- スリーブ外径は 呼び径 とする。
  - RC梁の補強要領はH形配筋とし、本図による。
  - 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。
  - 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
  - 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
  - 床貫通について（スラブ鉄筋ピッチ-50）以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
  - RC梁について、特記なき建築工場のスリーブ材は VU（硬質塩化ビニル管）とする。
  - 印は補強不要とする。



2階梁貫通リスト			
符号	スリーブ径(mm)	箇所数	配筋補強種別
G1	150	3	H8
G3	150	1	H7
G5	300	8	H9
B1	150	2	H8
B2	150	5	H8
B2A	200	1	H10
B2B	250	1	H11
B2B	300	3	H9
b2	100	8	—
b2	150	1	H4
cb1	300	2	H6

2階床貫通リスト			
符号	スリーブ径(mm)	箇所数	
S16	100	2	
	150	2	
	100	18	
	150	8	
S17	200	2	
	350x1400	1	



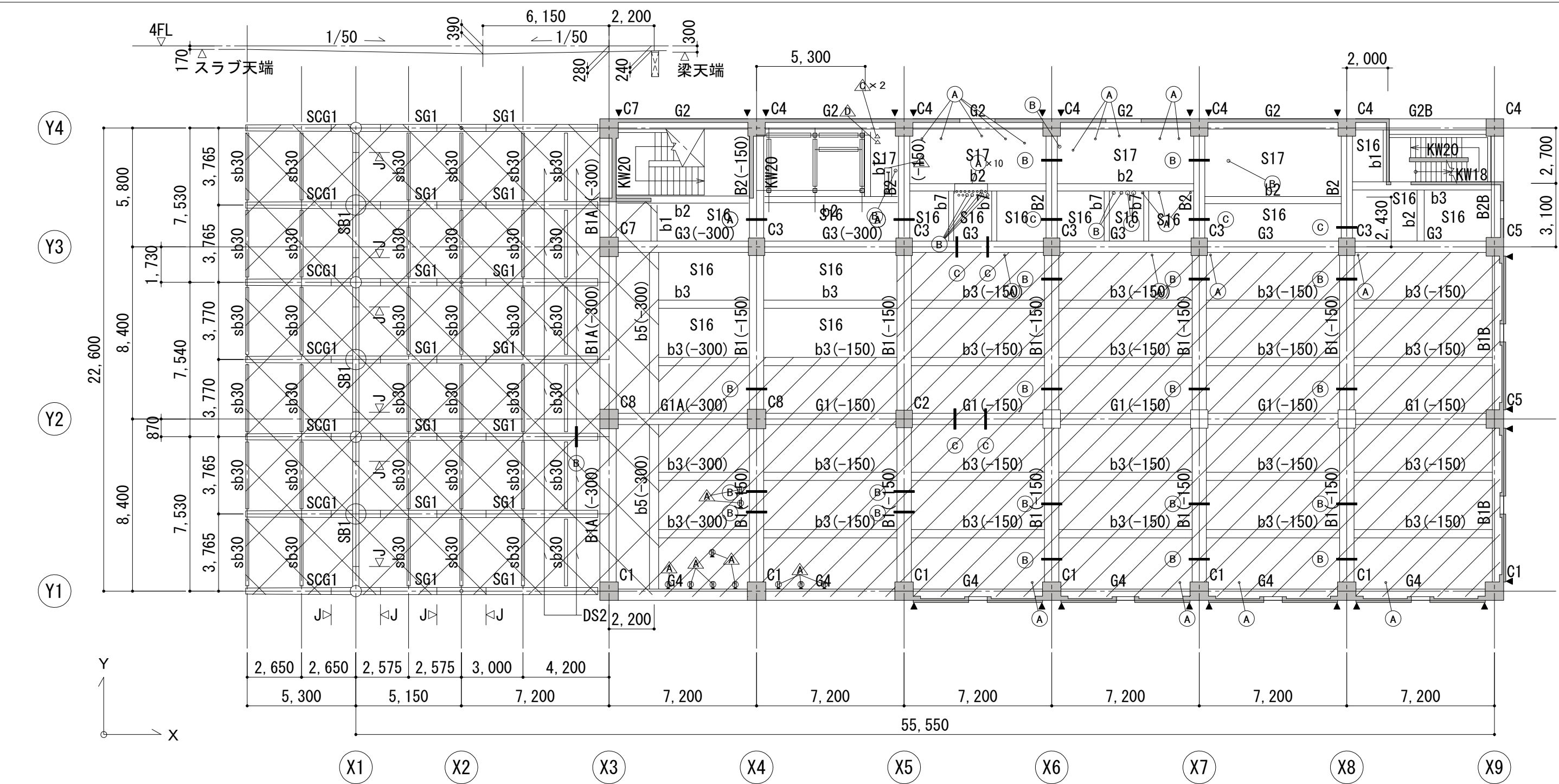
1階梁貫通リスト			
符号	スリーブ径(mm)	箇所数	配筋補強種別
FG1	200	7	H7
FG1A	600	1	H10
FG2	100	1	—
FB1	600	1	H12
FB2	400	1	H11
FB2	500	1	H12
FB1B	100	1	—
FB2A	500	1	H10
FB2A	400	3	H12
FB2A	500	2	H13
b2	150	1	H4
b3	100	3	—
b5	100	1	—
b5	200	3	H5

1階床貫通リスト			
符号	スリーブ径(mm)	箇所数	
S16	100	27	
	150	18	
	200	1	
	100	10	
	150	10	
S17	200	1	
	350x1400	1	

スリーブ径(梁)	スリーブ径(スラブ)	電気凡例
(A) 100φ	(A) 100φ	△ 100φ
(B) 150φ	(B) 150φ	△ 150φ
(C) 200φ	(C) 200φ	△ 200φ
(D) 250φ	(D) 250φ	△ 250φ
(E) 300φ	(E) 300φ	△ 300φ
(F) 400φ	(F) 400φ	△ 400φ
(G) 500φ	(G) 500φ	△ 500φ
(H) 600φ	(H) 600φ	△ 600φ

明石市政局 プロジェクト推進室			
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 森 雅章			
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号 秋田 智			
西明石地域交流センター icotto 建設工事			
B	建築工事	A1 1:200 A3 1:400	最終図 2024.12.02
28	梁貫通図(1)	最終図 2024.12.16	
安井建築設計事務所			

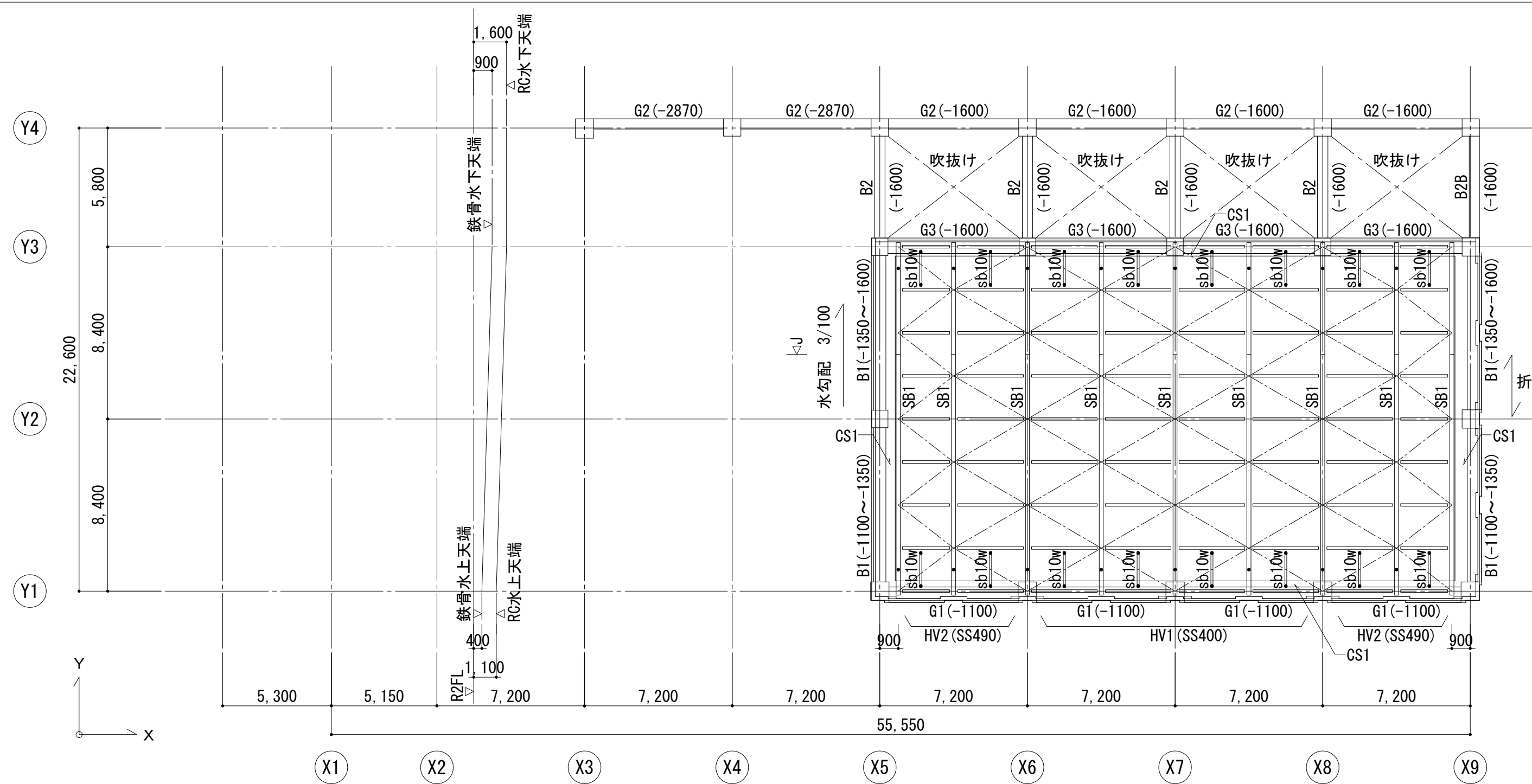




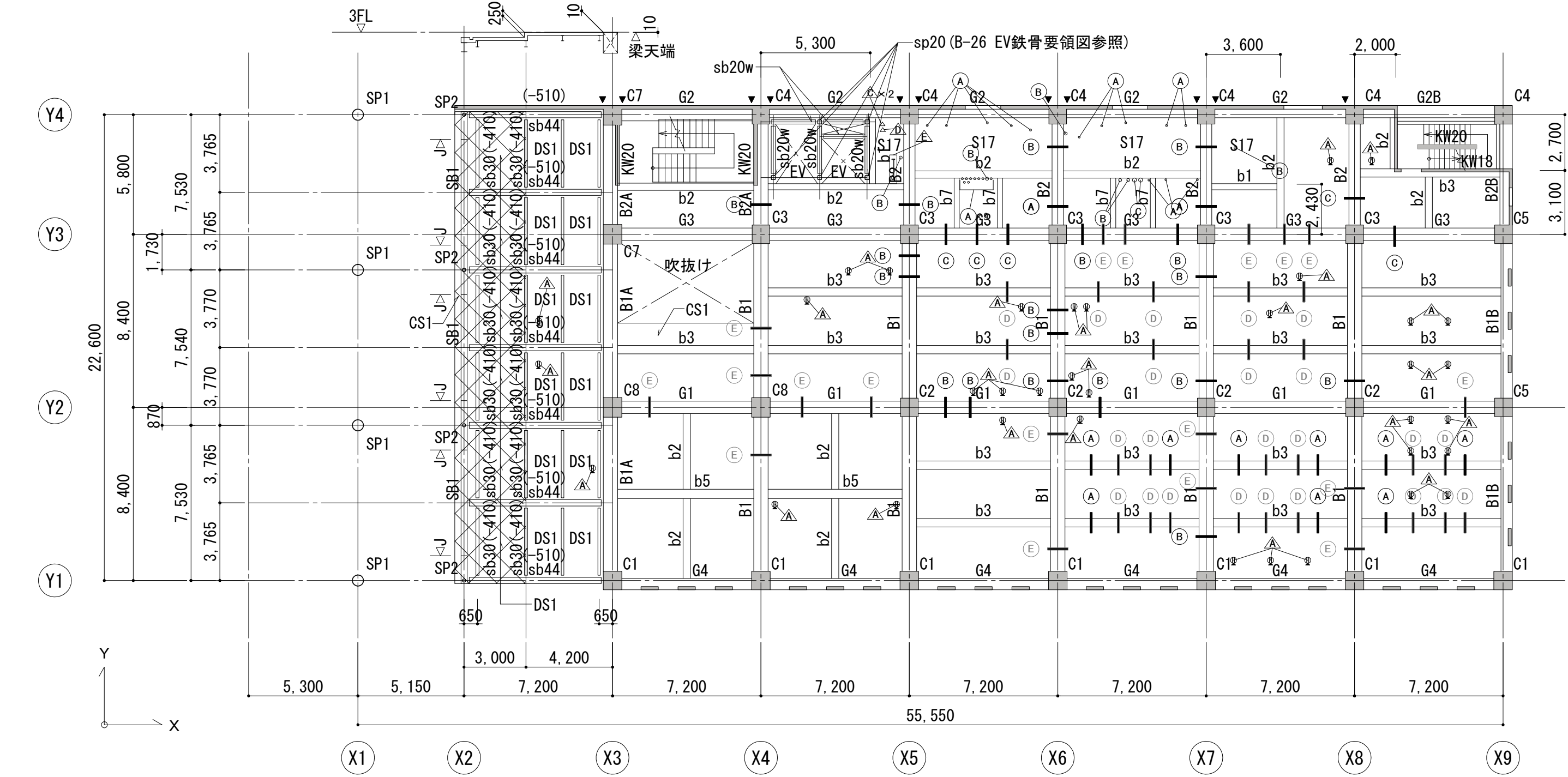
符号	スリプ径 (mm)	箇所数	配筋補強種別
G1	200	4	H6
B1	150	17	H7
B2	100	2	H7
B2	150	2	H7
B2	200	3	H8
SG1	150	1	

符号	スリプ径 (mm)	箇所数
S17	100	24
	150	12
	200	2
	350x1400	1
S18	100	18

4階床梁伏図 1:200



R2階床梁伏図 1:200

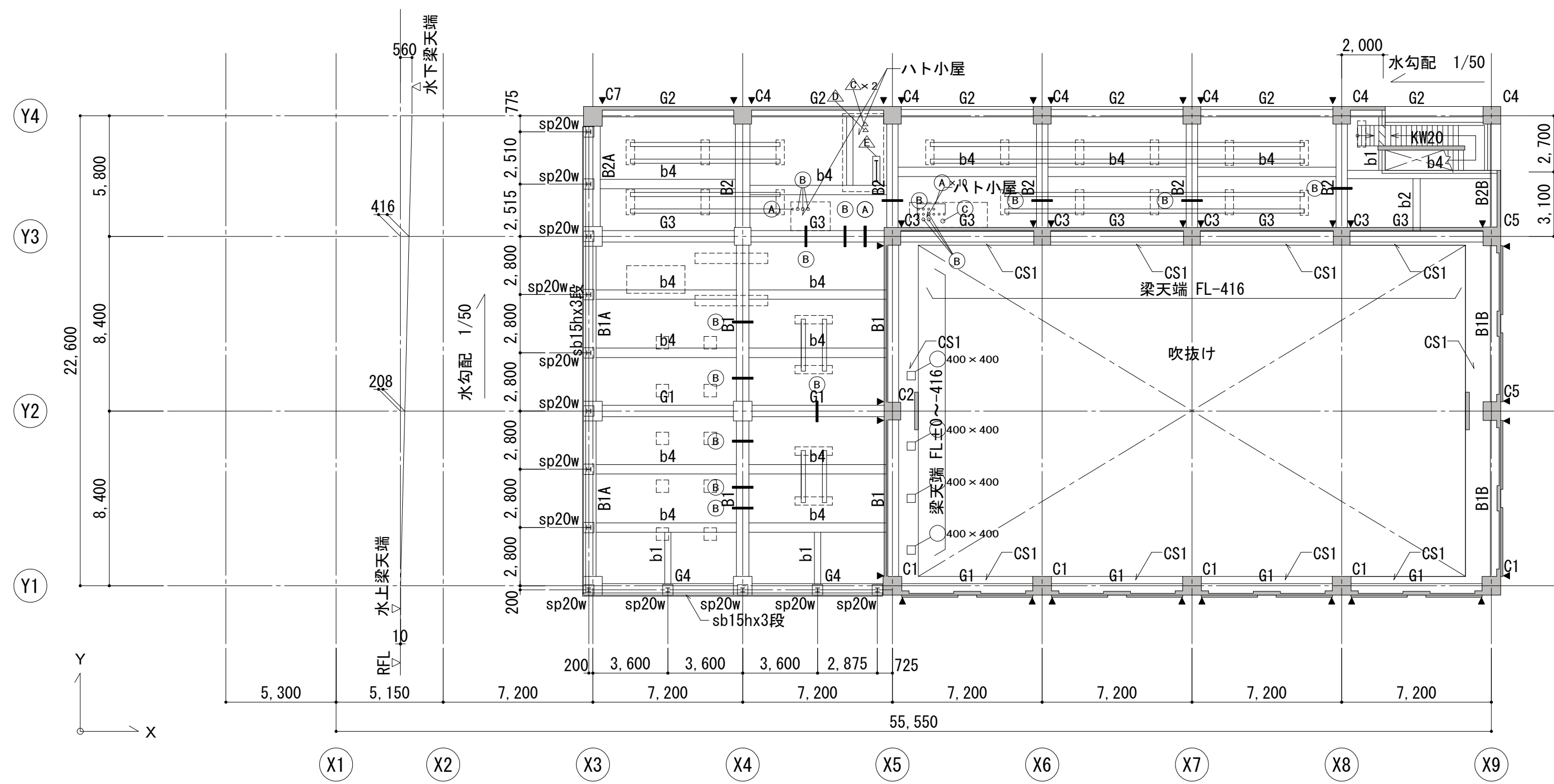


符号	スリプ径 (mm)	箇所数	配筋補強種別
G1	150	3	H7
	300	4	H9
G3	150	2	H8
	200	4	H8
	300	5	H9
B1	150	9	H9
	100	2	
B2	150	3	H9
	200	1	H9
B2A	150	1	H10
b3	100	9	H4
	250	24	H6

符号	スリプ径 (mm)	箇所数
S16	100	4
	100	22
	150	8
	200	2
	350x1400	1
S19	100	32
DS1	100	3

3階床梁伏図 1:200

- 共通事項（特記なき限り）
- スリプ外径は 呼び径 とする。
  - RC梁の補強要領はH形配筋とし、本図による。
  - 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品（大臣認定品）による補強とすることができる。
  - 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
  - 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
  - 床貫通について（スラブ鉄筋ピッチ-50）以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
  - RC梁について、特記なき建築工事のスリプ材は VU（硬質塩化ビニル管）とする。
  - 印は補強不要とする。
  - S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。



符号	スリプ径 (mm)	箇所数	配筋補強種別
G1	150	1	H4
G3	100	1	-
	150	2	H6
B1	150	5	H6
B2	150	4	H7

符号	スリプ径 (mm)	箇所数
	100	13
	150	10
	200	1
	350x1400	1
CS1	400	4

R階床梁伏図 1:200

スリプ径 (梁)	スリプ径 (スラブ)	電気凡例
(A) 100φ	(A) 100φ	△ 100φ
(B) 150φ	(B) 150φ	△ 150φ
(C) 200φ	(C) 200φ	△ 200φ
(D) 250φ	(D) 250φ	△ 250φ
(E) 300φ	(E) 300φ	△ 300φ
(F) 400φ	(F) 400φ	△ 400φ
(G) 500φ	(G) 500φ	△ 500φ
(H) 600φ	(H) 600φ	△ 600φ

明石市政局 プロジェクト推進室				西明石地域交流センター icotto 建設工事			
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第300703号 森 雅章 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第308030号 構造設計一級建築士 第5193号 秋田 智				B 建築工事		最終版 2024.12.02	
				29 梁貫通図(2)		A1 1:200 A3 1:400 見直し版 2024.12.16	
				安井建築設計事務所 最終契約版			